

徳島県

埋蔵文化財センター年報

Vol. 8 1996年度

1997

財団法人 徳島県埋蔵文化財センター



矢野遺跡 土製仮面



延命遺跡 墳丘墓



大柿遺跡 据立柱建物柱穴内四耳壺出土状況



井出上遺跡 煙道をもつ竪穴住居

はじめに

本書は平成8年度に徳島県埋蔵文化財センターが実施した事業の概要をまとめたものであります。

平成8年度は四国縦貫自動車道（美馬～川之江間）建設に伴う発掘調査が路線全域にわたって展開することになり、調査能力を上回る事業の実施が必要となったことから、各方面から調査方針に対するご意見を賜りました。これについては前年度に引き続いて組織改正を行い調査体制を充実させるとともに、調査制度の維持、向上に努めたところであります。

8年度は大柿遺跡をはじめとし、丸山遺跡、井出上遺跡、西原遺跡などで多くの成果が得られ、その内容については現地説明会を通して広く県民各位に知っていただきました。

一般国道192号徳島南環状線関連事業においては、矢野地区の調査に加えて、新たに延命地区、観音寺地区の調査を開始しました。矢野地区では全国最古級といわれる縄文時代後期の土製仮面が出土し、延命遺跡では弥生時代の墓制をうかがううえで重要な資料が得られました。また観音寺地区は阿波国府推定地の西北部に位置し、今後国府関連の遺構群の発見や府域の具体的な様相の解明が期待されるところであります。

一般公共事業や普及事業におきましても、一定の成果が得られたものと考えておりますが、四国縦貫自動車道関連調査においては次年度も厳しい状況が続くことが予想されます。

関係機関並びに関係各位におかれましては、本センターの事業が遅滞なく進行し、かつ一定の成果が得らるよう、一層の御指導と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成9年6月

財團法人 徳島県埋蔵文化財センター

理事長 安 藝 武

目 次

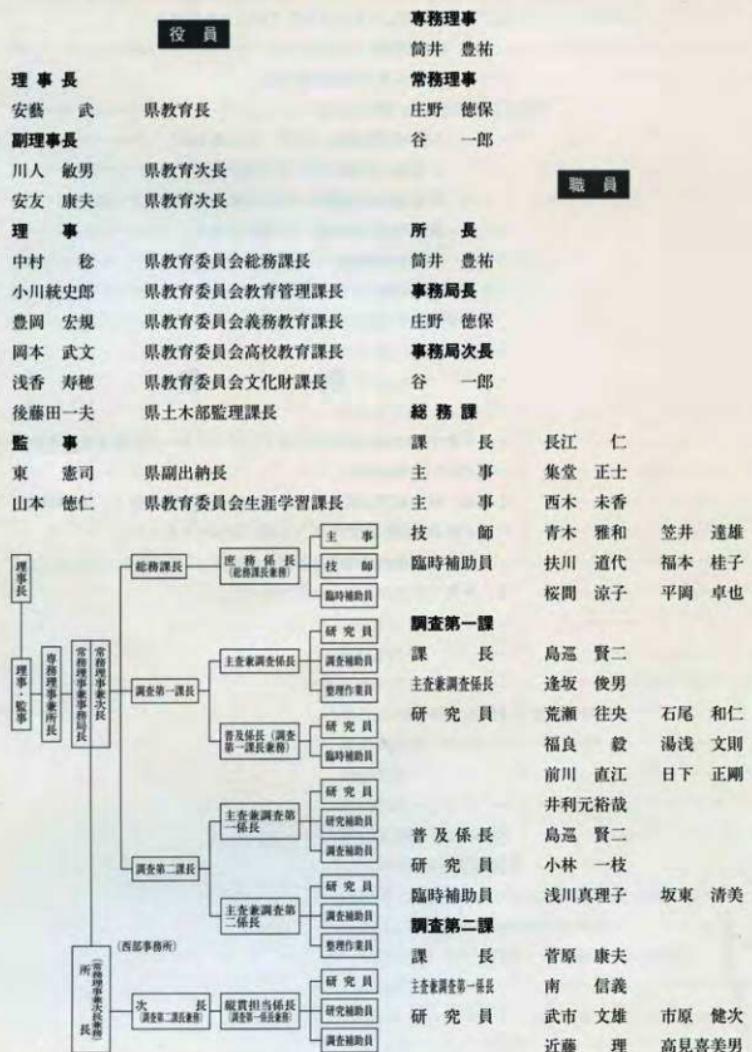
I 財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの概要	6
II 平成 8 年度事業概要	7
III 事業報告	9
四国縦貫自動車道関連発掘調査	
薬師遺跡（芝坂地区）	16
荒川遺跡	17
吉水遺跡	20
清水遺跡	21
塩塚遺跡	22
丸山遺跡	23
花園遺跡	25
東原遺跡	26
西原遺跡	28
円通寺遺跡	30
土井遺跡	31
大柿遺跡	32
八幡遺跡	36
井出上遺跡	37
相知遺跡	39
お塚古墳	41
山田遺跡（I）	42
和田遺跡	43
縦貫道関連試掘調査	44
一般国道192号徳島南環状線関連発掘調査	
観音寺遺跡	46
矢野遺跡	48
延命遺跡	51
観音寺遺跡（試掘調査）	53
一般公共事業関連発掘調査	
庄遺跡（大蔵省藏本住宅宿舎地点）	54
新蔵町1丁目遺跡（県警新蔵宿舎地点）	55
圃場整備事業関連発掘調査・分布調査・試掘調査	
北内遺跡	56
中村遺跡	57
大吉遺跡	58

櫻房遺跡	59
切幡地区、椿地区、福井川地区分布調査	60
一般公共事業関連試掘調査	61
一般国道192号徳島南環状線関連整理業務	
矢野遺跡	62
一般公共事業関連整理業務	
ウエノ遺跡	63
石井城ノ内遺跡（石井・神山線地区）	64
庄遺跡（大蔵省蔵本住宅宿舎地点）	65
新蔵町1丁目遺跡（企業局総合管理センター地点）	66
新蔵町1丁目遺跡（合同庁舎地点）	67
立善寺跡遺跡	68
IV 埋蔵文化財センターの活動	69
V 受贈図書	73

例　　言

- 1 本書は財團法人徳島県埋蔵文化財センターの平成8年度事業をまとめた年報である。
- 2 III 事業報告に関する地形図は国土地理院発行1/50,000地形図を転載したものであり、各図に図幅名を記した。
- 3 III 事業報告の概要是各担当が執筆し、その責を文末に記した。
- 4 本書の編集は菅原・近藤が行った。

平成 8 年度 財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの組織



市村 みね	宮本 和宏	西部事務所	
吉田 千恵	道成 仁俊	所 長	谷 一郎 (常務理事兼事務局次長兼務)
松永 雅行	坂東 勝美		
植谷 弘和	谷 恒二	次 長	菅原 康夫(調査第二課長兼務)
上藤 浩治	伊丹 宇芳	総務担当係長	南 信義 (調査第二課第一係長兼務)
瀬部 雄一	志磨 誠一		
白井 正道	藤本 一夫	総務担当調査班	調査第二課第一係員兼務
下内 新吾	安友 克佳	臨時補助員	森 札子
吉田 博明	大北 翁宏		
九十九 肇	石田 雅敏		
笠井 敬介	中川 幸典		
大栗 悟	寒川 芳裕		
高柳 孝治	泊 強		
森本 雅史	久保 雅仁		
中南 弘史	石井 伸夫		
横田 温生	丸岡 稔人		
佐野 耕市	辻 佳伸		
有月 義明	佐藤 成人		
石本 卓	宮本 和明		
常村 淳	瀧山 智子		
福田 安倫	山田 正之		
牧野 浩章	元村 俊彦		
久保脇 美朗	小泉 信司		
藤川 智之	原 芳伸		
栗林 誠治	大北 和美		
田川 憲	稻村 秀介		
研究補助員	大橋 育順	二宮 知也	
	三木野博之	村部 積	
	河野 道教	畠山 秀樹	
	住友 良行	妹尾 真美	
	工藤有輝子	仁尾 芳人	
	西岡 保子	杉浦 美雪	
	三好 孝和		
主査課担当二職	佐々木清克		
研 究 員	渡邊 信之	元木 浩司	
	氏家 敏之	近藤 玲	
	植地 岳彦		

I 財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの概要

1 設立の目的

財団法人徳島県埋蔵文化財センターは、徳島県内における埋蔵文化財の調査及び研究を行うとともに、文化財の保護意識の啓発、普及を図り、もって地域文化の振興に寄与することを目的とする。

2 事業の内容

- (1) 埋蔵文化財の調査及び研究に関する事業
- (2) 出土した文化財の整理及び保存に関する事業
- (3) 埋蔵文化財の活用及び保護意識の啓発、普及に関する事業
- (4) その他目的を達成するために必要な事業

3 設立年月日

平成元年4月1日

4 出資者

徳島県

5 基本財産

10,000千円

6 事務所所在地

徳島県板野郡板野町大伏字平山86番2

II 平成8年度事業概要

1 理事会の開催

第30回理事会

開催日 平成8年4月1日 県庁教育次長室

議案 第1号議案 理事長の選出について

第31回理事会

開催日 平成8年6月21日 県庁教育次長室

議案 第1号議案 平成7年度事業報告の承認について

第2号議案 平成7年度収支決算の承認について

第3号議案 平成7年度未処分余剰金の処理について

第32回理事会

開催日 平成9年3月18日 県庁教育次長室

議案 第1号議案 平成8年度事業計画の変更について

第2号議案 平成8年度補正予算（案）について

第3号議案 平成9年度事業計画（案）について

第4号議案 平成9年度当初予算（案）について

第5号議案 平成9年度工事指名審査委員会の開催について

第33回理事会

開催日 平成9年3月31日 県庁教育次長室

議案 第1号議案 役員の選出について

2 事業概要

徳島県からの委託により、次の事業を実施した。

- (1) 四国縦貫自動車道関連では、207,185m²の発掘調査を実施した。
- (2) 一般国道192号徳島南環状線関連では、14,996m²の発掘調査と出土品420箱の整理業務を実施した。
- (3) 一般公共関連では、
 - ① 大蔵省本住宅宿舎新営工事（第1期）及び（第2期）関連では、1,356m²の発掘調査及び出土品96箱の整理業務を実施した。
 - ② 警察新蔵職員住宅建設工事関連では、220m²の発掘調査を実施した。
 - ③ 県道第十・白鳥線改良工事関連では、480m²の発掘調査を実施した。

- ④ 県道船戸・切幡・上板線改良工事関連では、374m²の発掘調査を実施した。
- ⑤ 県営圃場整備事業関連（坂野・櫛渕・多家良・新野）2,000m²の発掘調査を実施した。
- ⑥ 企業局総合管理センター建設工事関連では、出土品50箱の整理事業を実施した。
- ⑦ 県道石井・神山線道路改良事業関連では、出土品140箱の整理業務を実施した。
- ⑧ 阿南工業高校電子機械棟新築工事関連では、出土品30箱の整理事業を実施した。
- ⑨ 池田警察署新築事業関連では、出土品30箱の整理業務を実施した。
- ⑩ 徳島合同庁舎建設事業関連では、出土品140箱の整理事業を実施した。
- ⑪ 都市計画道路常三島中島田線事業関連では、報告書を作成した。
- ⑫ 県営圃場整備事業関連（切幡・福井川・椿地区）では、1,050,000m²の精密分布調査を実施した。
- (4) 徳島県立埋蔵文化財総合センターの管理運営業務を実施した。

3 収支決算報告

財団法人徳島県埋蔵文化財センターの平成8年度収支決算は次のとおりである。

(1) 収入の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比 較	備 考
1 基本財産運用収入	36,000	36,259	259	
2 事業収入	3,073,287,000	3,073,287,360	360	
3 雑収入	1,110,000	1,110,527	527	
4 繰越金	1,407,000	1,407,868	868	
合 計	3,075,840,000	3,075,842,014	2,014	

(2) 支出の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比 較	備 考
1 事業費	2,935,757,000	2,935,749,429	△7,571	
2 管理費	126,839,000	124,294,781	△2,544,219	
3 その他支出	2,081,000	2,080,350	△650	
4 消費税	11,163,000	11,162,800	△200	
合 計	3,075,840,000	3,073,287,360	△2,552,640	

III 事業報告

平成8年度は徳島県と同年4月1日付で契約した業務委託契約書に基づいて事業を実施した。別表に示したように、事業量は膨大なものとなった。まずこれについての経過を述べる。

四国縦貫自動車道関連業務については、文化庁協議に基づき第10次区間（脇～美馬）15遺跡106,000m²、第11次区間（美馬～川之江）39遺跡323,195m²が調査対象面積となっており、平成9年度に第10次区間、10年度に第11次区間の供用目標が設定されたため、平成4年度以降、それに対応した人員計画がされていた。平成7年度には10次区間の調査を概成する予定であったが、年度早々、第10次区間の坊僧遺跡で新たに約17,700m²の調査の必要が生じ、当該区間の調査を優先すべく、調査計画が大幅に変動した。これに加えて工事要道路や本線工事と競合する個所が増加した。

第11次区間については試掘調査が優先されたが、当初の実掘見込み面積を上回る結果が出された。さらに一部の遺跡において調査の遅延を生じたため、他事業を割いて調査班が投入されたものの、さほど効果にならなかった。年度後半の試掘において三好町大柿遺跡では近世以前の水田面をすべて調査対象としたため、当初想定していた表面積35,200m²をはるかに凌駕する54,900m²（今次調査対象面積51,450m²・延べ260,920m²）の調査必要面積となった。こうしたさまざまな要因が交錯し、結果的に8年度に事業量がピークを迎える見込みとなった。従来の埋蔵文化財センター1班当たりの年間調査歩掛りに基づくと相当数の調査担当者が必要となり、そのため7年度末までに県教育委員会では不足人員を教員派遣で対応することを決定した。

これに対して、調査体制・専門職員の拡充と慎重調査の実施について、平成8年2月10日付文化財保存全国協議会から「四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査及び文化財保護行政の適正化を求める要望書」、3月6日付考古学研究会から「四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の調査体制にかかる質問書」、3月28日付理文委第5号で日本考古学協会埋蔵文化保護対策委員会から「四国縦貫自動車道建設に伴う文化財保護行政ならびに埋蔵文化財発掘調査に関する要望書」が出された。教育委員会では考古学研究会に対しては平成8年3月22日付教文第128号、日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会に対しては平成8年4月15日付教文第217号で回答を終えている。

これに先だって教育委員会では埋蔵文化財担当参事（埋蔵文化財センター事務局長）の新設、文化財課の当該事業担当係を強化するとともに、前年度に継続して埋蔵文化財センターの組織改正を行った。

調査関係では平成7年度の組織・分掌が全面的に見直され、調査第一課が一般公共事業担当の調査係と普及係に、調査第二課が縦貫道担当の調査第一係、建設省事業担当の調査第二係に改正された。縦貫道調査事務所として三好郡三好町に西部事務所が新設され、調査第二課調査第一係が西部事務所勤務となり、所長（事務局次長）以下、係員全員が勤務公署を移して、業務を行うこととなった。

ところで「質問書」や「要望書」において取り上げられた懸念のひとつは、調査経験の少ない派遣教員が「個別調査現場の担当」として配置されるため、進捗状況に応じた適切な判断の欠落、あるいは調査精度が著しく低下するということであった。

述べるまでもないが、新規派遣の教員についてはセンター設立時から実施している年度当初の研修を充実させるとともに、専門職員を核とする複数班に配置し、調査に不備が生じないような編成に留意している。調査経験の少ない教員が急増したため、円滑な調査を計画するうえでは課題となつたが、懸念

されたような事態は生じなかった。ここに至るまでの事業計画の調整や調査進行上の調整方法が指摘されるのは致し方ないとしても、派遣教員数のみを粗上に上げ、その調査の進め方を問う論法の是非はともかく、手順としては風聞に基づくのではなく、調査実施方法についての事実確認や協議の申し入れ等がまず行われるべきではなかったかということを述べておきたい。

文化財課及びセンターは建設省徳島工事事務所及び県関係課と事業着手時期についての変更協議を申し入れ、整理業務については次年度への繰り越し協議を行い、受託事業の工程調整を検討するとともに、日本道路公団・池田両工事事務所との連絡調整方法の改善を測る一方、工事区ごとに個別投入班数、着手順位・施工方法・明け渡し時期等について新規協議を行うこととした。発掘調査は一般公共事業が通年2班、南環状線事業が通年3.5班に調整が図られる継貫道シフトがとられ、当該事業一色の感があった。

調査の進行に伴って現場間の広範な支援、担当業務の変更、所属課係の異動等が錯綜した。大柿遺跡では前年度から課題となっていた調査面数がおよそ確定し、工区設定、工区の着手順位、鋼矢板の打設、掘削土搬出路・仮置きのための借地等の協議が整い、年度後半には大柿遺跡の進捗状況如何が道路供用の可否を握る状況を呈してきた。8年度の大柿遺跡では東西延長約840m、幅60mの範囲に最大13班、研究員・研究補助員26人、調査補助員26人に加え作業員150人が稼働したが、慢性的な作業員不足や天候不順による工程の遅延に悩まされた。さらに遺構の高密度等、不測の要因も加わり、工事工程との調整幅も徐々に狭まつたため、土日祝日勤務を繰り返すなど、センター発足以来、最も厳しい状況が続いた。以下主要な成果に触れる。

継貫道関連では、池田町山田遺跡（I）で確認された縄文時代前期とみられる岩陰遺跡は、徳島県では上那賀町古屋岩陰遺跡、三加茂町加茂谷川岩陰遺跡群に次ぐ調査例である。美馬町荒川遺跡で検出された中期から晩期に係る多量の縄文土器は吉野川中流域の土器様相をうかがううえで重要な資料となつた。

弥生時代では井川町井出上遺跡・三好町西原遺跡・美馬町吉水遺跡で集落が検出され、前年度から継続する三野町丸山遺跡を加えると、8年度に調査された堅穴住居は62棟となり、当該地域においても資料の蓄積が進んだ。

丸山遺跡は集落内に住居群を区画する溝が南北に開削されており、年報VOL. 7で報告した大谷尻遺跡形成以前の集落構造を示している。井出上遺跡は井川町で初めて確認された集落である。床面に焚き口・煙道をもつ施設を4個所付設した特異な住居跡がある。西原遺跡は吉野川に面する河岸段丘面に位置し、東西150mに集落が拡がる。本遺跡の北東500m地点には、弥生時代終末期の積石墓群の足代東原遺跡（県指定史跡）があり、遺跡の存続年代から東原遺跡を形成した主要集落とみられ、居住域と墓群の位置関係をうかがううえで重要な成果となった。井出上遺跡からは翡翠製勾玉1、西原遺跡からは緑色凝灰岩製管玉5が出土している。

荒川遺跡周辺には平野古墳・荒川古墳・海原古墳などの小規模な横穴式石室墳が点在している。いずれも玄室胴張りの「段の塚穴型石室」で、6世紀末の構築とみられる。荒川遺跡第1・2調査区では横穴式石室玄室床面敷石が2個所で検出された。玄室平面プランについては復元不能であるが、副葬遺物から、当該地点の古墳群造営時期が6世紀末であることが追認された。

井川町相地遺跡では巡方の出土や溝で埋まれた区画内に主軸を同一にする掘立柱建物群の存在から8世紀後半の官衙の可能性も指摘されているが、確定する根拠を欠く。掘立柱建物の規模・構成からは莊

所あるいは在地有力層の居宅跡とみるべきであろう。

大柿遺跡は阿方式系壺を出土する吉野川上流域を代表する弥生時代集落として知られているが、各時代の遺構面も累積している。1975年の調査地点の南東一帯が今回調査対象となった範囲であるが、試掘調査以前においては遺跡の範囲、深度、遺構面数等については不明瞭であった。鎌倉・室町時代を中心とする第5遺構面では複数の掘立柱建物が存在している。このうち梁間2間、桁行2間の総柱建物の柱穴に地鎮祭祀を示す遺物の埋納が認められた。中央柱穴・四方角の四柱穴に破碎された土師器杯・皿、中央柱穴の南北柱穴に完形の白磁四耳壺・瓦質四耳壺を埋納しており、厳密な配列法がとられている。

土師器杯・皿が埋納形式で複数密集する地鎮祭祀に『屋敷地取作法』があり、屋敷を新造する際に地神に地を乞い奉ることにあるとされる（水野正好「屋敷地取作法と地鎮の考古学－高野山宝性院跡発見の遺構をめぐって－」『高野山発掘調査報告書』元興寺文化財研究所 1982）。

中世における鎮土鎮宅には建造時には土器・錢貨・穀物、廃絶時には土器・穀物を埋納する傾向がみられるようであるが（辻・佳伸「皿と錢貨－中世地鎮め遺構の一様相」『真朱』創刊号 1992）、大柿遺跡においても一定の作法次第にしたがって実修されたことは確実である。今回検出された祭祀行為は建物廃絶後の埋納であり、その具体を復元しうる史料は確認できない。四耳壺の埋納に北西方向（亥戌）に口縁部を向ける規則性があり、白と黒の配列であることからすれば、単なる土公祭ではなく、陰陽道や亥戌信仰との関連などの可能性も浮上するが、中世の精神世界の一端を具体的に示した点で重視されよう。なお、荒川遺跡、東原遺跡でも地鎮祭祀行為が確認されている。

吉水遺跡では正楽寺または吉水寺が所在したという伝承がある。15世紀段階の推定南北3間、東西10間の掘立柱建物、雨落溝ともみられる石列溝、瓦滴まりや輪宝等が出土しており、寺院はともかく堂宇が存在した可能性は高い。

池田町お塚古墳は文化財保護委員会編『全国遺跡地図（徳島県）』1965には3基の古墳として記載がある。地元では「お塚」と呼ばれており、文化庁裁定による遺跡名称にも用いられた。今回2基が調査対象となつたが、このうち遺存状況の良好な1号塚は直径約8.5m、高さ2.4mで、1.2mの積石部に1.2mの小礫が被覆している。地山（結晶片岩基盤層）のうえに無造作に礫を積み上げたものである。

塚状高まりへの後世での礫の積み上げ行為は、当該地域では弥生墳丘墓である三好町足代東原1号墓にも認められたが、本塚は古墳ではなく、古墓である確証も欠く。積石中に中世土器を混入するが、マウンド構築面は中世遺構が検出されており、年代決定の根拠に乏しい恨みがある。積石に区画列石等の造作はみられず、民俗事例にみる忌弔塚（実盛塚）である可能性（栗垂德「阿波考古資料」「考古界」第3篇第7号 1903）が残る。

一般国道192号徳島南環状線関連事業では矢野遺跡では土製仮面や亀形土版が出土した。土製仮面は中津式に伴うもので、胎土から地場で製作されたものとみられる。類例としては最古級で、分布域の最西端例となつた。表面は刺突文のみで彩色はない。分類上の評価が必要である。

延命遺跡では砂岩列石による長辺5m、短辺3mの方形区画が北東・北西の2方向にある墳丘墓が確認された。墳丘基底部の列石は遺存せず、地山整形痕も明瞭でないため、方形区画列石の同時性や全体形状は確定できないが、径、あるいは辺が13m程度の規模とみられる。区画の据え置き形態は石材の短側石部分を外側に揃えて配していること、一部に2列の石列が確認されること、方形区画列石の隅部は、後線上に石を配して隅を意識する配石方法をとることなど、山陰地域の四隅突出型墳丘墓にみられる列石構築法に酷似する。矢野遺跡では山陰影響の土器が散見されるが、四隅との関連の有無についても多

角的に検討する必要ができたといえよう。墳丘（墓域）中央部よりやや北に南北主軸をもつ竪穴式石室がある。北壁砂岩・結晶片岩を小口積みにしており、北側壁3段のみが遺存する。棺床には朱の拵がありがみられ、西頭位と推定された。年代を確定するものはないが、墳丘墓に切り込んだ壺棺墓及び墳丘墓外周に形成された壺棺墓の年代を考慮に入れれば、おむね後期末（菅原・吉野川下流域編年後期Ⅴ期＝庄内式以前）におさまるとみられる。墳丘墓外周からは銅鏡や徳島県では初出の鹿を描いた土器が出土している。

矢野遺跡・觀音寺遺跡では、一辺1m程度の方形掘り方をもつ平安時代の掘立柱建物群が検出された。阿波国府南城に当たり、1989年の県立あさひ学園地点の調査で検出された東西方向の土手状造構の500m西方に位置する。調査当時は土手状造構の南側堆積土が河川流路に関連した堆積であることを根拠に府城を区画する施設の存在が想定されたが（『徳島県立国府養護学校プール建設工事に伴う高畠遺跡発掘調査概要報告書』徳島県教育委員会 1990）、今回の調査ではそうした想定を裏付ける遺構は得られず、府城を区画する施設の存在は指摘できない。

そのほか一般公共事業関連では庄遺跡で平安時代の着串・人形・墨書き土器・赤色塗彩土器・製塩土器が検出された。庄遺跡（徳島大学体育館地点）出土資料とも併せて名東郡衙に関連するものとみられる。（菅原）

四国縦貫自動車道関連埋蔵文化財発掘調査業務一覧

No	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
1	田上遺跡（Ⅱ）	美馬郡脇町西田上644	220m ² （試掘調査）	8.6.17～8.6.19	・中世		鐵文土器・須恵器・土師器・土師質土器・陶器
2	菊師遺跡（芝坂地区）	美馬郡美馬町字菊師2-6他	2,283m ² （本調査）	8.4.2～8.6.24	・縄文時代 ○中世 ○近世	掘立柱建物跡 ・土坑・柱穴	鐵文土器・弥生土器・須恵器・土師器・土師質土器・陶器
3	荒川遺跡	美馬郡美馬町字荒川45他	180m ² （試掘調査） 15,350m ² （本調査）	8.6.17～8.7.1 (試掘調査) 8.4.3～9.3.21 (第1次本調査) 8.7.22～9.2.27 (第2次本調査)	・縄文時代 ・弥生時代 ・古墳時代 ○中世 ○近世	掘立柱建物跡 ・竪穴住居跡 ・溝・鐵冶炉 ・土坑・古墳 ・柱穴	鐵文土器・弥生土器・須恵器・土師器・土師質土器・陶器 ・石器・鐵器・錢貨・耳環・勾玉・鉢盤片
4	吉水遺跡	美馬郡美馬町字吉水	3,700m ² （本調査）	8.4.3～8.10.31	○弥生時代 ○中世	掘立柱建物跡 ・竪穴住居跡 ・井戸・炭窯 ・柱穴	弥生土器・石器・土師質土器・瓦・輪宝
5	西大佐古遺跡	美馬郡美馬町字突落93他	45m ² （試掘調査）	8.6.4			
6	清水遺跡	三好郡三野町大字清水字東堀1408他	10,000m ² （本調査）	8.4.3～8.7.31	・弥生時代 ・古代 ○中世	土坑・炭窯・柱穴	弥生土器・須恵器・土師器・土師質土器
7	塙塚遺跡	三好郡三野町清水字塙塚1334他	1,950m ² （本調査）	8.4.3～8.6.10	○近世	土坑・柱穴	陶器・瓦・錢貨・灯籠
8	丸山遺跡	三好郡三野町大字勢力字丸山	3,650m ² （本調査）	8.4.2～8.12.5	○弥生時代 ・中世	竪穴住居跡 ・溝・鉄器・土坑 ・自然流路	弥生土器・須恵器・土師器・土師質土器・石器
9	花園遺跡	三好郡三野町太刀野字花園庭他	3,100m ² （本調査）	8.4.3～8.9.30	○中世	掘立柱建物跡 ・屋外炉・窓渠 ・窓・火葬墓	須恵器・土師質土器・陶器・瓦・石器・錢貨
10	宮ノ岡遺跡（Ⅰ）（Ⅱ）	三好郡三好町大字足代字宮ノ岡319-1他	1,243m ² (試掘調査)	8.4.15～8.5.16	・弥生時代 ・古墳時代 ・古代 ・中世 ・近世		弥生土器・須恵器・土師器・錢貨
11	台遺跡	三好郡三好町大字足代3106-1他	1,203m ² (試掘調査)	8.5.17～8.5.31			
12	東原遺跡	三好郡三好町大字足代字東原460-1他	15,825m ² （本調査）	8.4.3～9.3.21	・弥生時代 ○中世	掘立柱建物跡 ・溝・土坑	弥生土器・須恵器・土師器・土師質土器・錢貨

No	道路名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
13	西原遺跡	三好郡三好町大字足代字西原770他	8,153m ² (本調査)	8.4.2~9.3.31	・弥生時代 ・近世	掘立柱建物跡 ・整穴住居跡 ・溝・水田・土坑・柱穴	弥生土器・石器・菅玉
14	円通寺遺跡 (工事用道路試掘調査)	三好郡三好町大字足代1391-1他 三好郡三好町大字足代字美濃田1541他	30,257m ² (本調査) 118m ² (試掘調査)	8.4.3~9.3.26 (本調査) 8.12.2~8.12.26 (試掘調査)	・縄文時代 ・弥生時代 ・古墳時代 ◎古代 ・中世 ◎近世	掘立柱建物跡 ・整穴住居跡 ・井戸・土坑 ・灰窯・柱穴	縄文土器・弥生土器・須恵器・土師器・土師質土器・陶磁器
15	土井遺跡	三好郡三好町大字星野字土井64他	19,520m ² (本調査)	8.4.3~9.3.14	・弥生時代 ◎中世 ・近世	掘立柱建物跡 ・整穴住居跡 ・溝・水田・土坑・柱穴	縄文土器・弥生土器・須恵器・土師器・土師質土器・水引施設・土器・瓦質土器・陶磁器・石器・溶解炉壁
16	大柿遺跡	三好郡三好町大字星野字カワラケメノ他	51,450m ² (本調査)	8.4.3~9.3.25	・縄文時代 ・弥生時代 ・古墳時代 ・古代 ◎中世 ・近世	掘立柱建物跡 ・整穴住居跡 ・溝・水田・土坑・柱穴	縄文土器・弥生土器・須恵器・土師器・土師質土器・瓦質土器・陶磁器
17	八幡遺跡	三好郡井川町字八幡28-3他	1,230m ² (本調査)	8.10.1~8.12.6	・弥生時代 ・古代 ◎中世	溝・土坑・柱穴	弥生土器・須恵器・土師器・土師質土器・瓦器
18	井内遺跡	三好郡井川町西井川1405-1他	277m ² (試掘調査)	8.7.22~8.7.31	・古代 ・中世	灰窓	土師器・土師質土器
19	井出上遺跡(本線) 井出上遺跡(工事用道路)	三好郡井川町西井川1490他 三好郡井川町西井川681他	156m ² (試掘調査) 5,000m ² (本線調査) 1,150m ² (工事用道路本調査) (本線調査) 8.4.3~8.7.26 (工事用道路本調査)	8.6.12~8.6.17 (本線調査) 8.8.3~9.3.11 (本線調査)	・弥生時代 ・古墳時代 ◎古代 ・中世	掘立柱建物跡 ・整穴住居跡 ・溝・土坑・柱穴	弥生土器・須恵器・土師器・瓦器・陶磁器・石器・鐵器・窮翠製匂玉
20	相知道路	三好郡井川町西井川	15,380m ² (本調査)	8.4.3~9.3.11	・弥生時代 ・古墳時代 ◎古代 ・中世	掘立柱建物跡 ・溝・土坑・柱穴	弥生土器・須恵器・土師器・土師質土器・陶磁器・石器・鐵器・石製远方
21	坊道跡	三好郡井川町西井川210-3他	120m ² (試掘調査)	8.6.25~8.6.27	・古代 ◎中世	土坑・柱穴	須恵器・土師器・土師質土器
22	木道跡	三好郡井川町西井川88-2他	240m ² (試掘調査)	8.7.15~8.7.19	・中世		
23	須賀遺跡	三好郡井川町西井川104他	689m ² (試掘調査)	8.6.27~8.7.1 9.1.7~9.1.21	・弥生時代 ・古代 ・中世	溝・柱穴	弥生土器・土師器・土師質土器
24	お塙古墳	三好郡池田町字トウダ106-1他	4,960m ² (本調査)	8.4.1~8.10.31	・中世 ・近世	柱穴・集石遺構	須恵器・土師器・土師質土器・陶磁器
25	山田遺跡(I)	三好郡池田町字ヤマダ557他	650m ² (本調査)	8.8.1~8.9.30	◎縄文時代	岩陰	縄文土器・石器
26	和田遺跡	三好郡池田町佐野字和田308他	120m ² (試掘調査) 1,100m ² (本調査)	8.6.3~8.6.8 (試掘調査) 8.8.1~8.9.31 (本調査)	◎中世 ・近世	井戸・自然流路	須恵器・土師器・土師質土器・瓦質土器・キセル・錢貨

◎主体となる時期

一般国道192号徳島南環状線関連埋蔵文化財発掘調査業務一覧

No	道路名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
1	般音寺道路	徳島市国府町般音寺455-1他	195m ² (試掘調査) 4,670m ² (本調査)	8.5.7~8.5.28 (試掘調査) 8.9.18~9.3.7 (本調査)	・弥生時代 ◎古代 ・中世	掘立柱建物跡 ・整穴住居跡 ・溝・土坑・柱穴・自然流路	弥生土器・須恵器・土師器・土師質土器・黑色土器・絆縫陶器・陶磁器・石器

No	道路名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
2	矢野道路	徳島市国府町矢野 字せんだんの木 454-1他	4,011m ² (本調査)	8.4.3~9.2.28 (本調査)	○縄文時代 ○弥生時代 ・古代 ・中世	掘立柱建物跡 ・堅穴住居跡 ・溝・炉跡 ・土坑・柱穴 ・土器・陶器	縄文土器・弥生土器・ 須恵器・土師器・土師 質土器・陶磁器・石器 ・土器板面
3	延命道路	徳島市国府町延命	4,860m ² (本調査)	8.9.18~9.3.28	○弥生時代 ・古墳時代 ・古代	堅穴住居跡・溝 ・水田・土坑 ・柱穴・自然流路 ・埴丘墓・土壤	弥生土器・須恵器・土 師器・土師質土器・石 器
4	林崎地区・才見地区(阿南道路)	阿南市见林町林崎 ・才见町牛屋崎 ・七见町他	1,260m ² (試掘調査)	8.10.1~8.11.30			弥生土器・土師器・鐵 質

◎主体となる時期

一般公共事業関連埋蔵文化財発掘調査業務一覧

No	道路名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
1	切幡地区 (切幡地区県営圃場整備事業関連)	阿波市市場町切幡	450,000m ² (分布調査)	9.2.1~9.3.31	・古代 ・中世 ・近世		須恵器・土師器・土師 質土器・陶磁器・石器
2	高森・矢吹道路 (道道新四・切幡・上 板根改良工事関連)	板野郡土成町大字 土成字高森及び矢吹 松	374m ² (試掘調査)	9.1.6~9.2.28	○弥生時代 ・古墳時代	柱穴	弥生土器・須恵器・土 師器
3	市街道路 (県道第1・白鳥 線改良工事関連)	名西郡石井町高川 原字市集171-26 他	480m ² (試掘調査)	8.10.1~8.12.27	・古代 ・中世 ・近世	溝・水田跡	土師器・土師質土器・ 陶磁器
4	庄道跡 一大蔵省本住宅 宿舎地点一 (大蔵省本住宅 宿舎新工事関連)	徳島市庄町1丁目 77	1,356m ² (本調査)	8.4.1~8.5.31 8.8.1~8.11.30	○縄文時代 ○弥生時代 ・古代 ・中世 ・近世 ○近代	土壙墓・自然 流路	縄文土器・弥生土器・ 須恵器・土師器・土師 質土器・陶磁器・墨書き 土器・人形・石器・馬 骨・鍬鉢
5	新蔵町1丁目道路 -新豊新宿舎地-1 (警察庁滋賀合 島県支部住宅建設 工事関連)	徳島市新蔵町1丁 目62-2	220m ² (本調査)	8.6.1~8.9.30	・近世	溝・井戸	土師質土器・陶磁器
6	北内道路 (多家良地区県営 圃場整備事業関連)	徳島市多家良町北 内65-3他	500m ² (本調査)	8.12.9~9.1.31	・近世		土師質土器・陶磁器
7	中村道路 (板野地区県営圃 場整備事業関連)	小松島市大林町中 村123	500m ² (本調査)	8.10.1~8.11.30	・古墳時代 ・古代 ・中世	柱穴・自然流 路	須恵器・土師器・土師 質土器・瓦器・銭貨
8	大吉道路 (柳園地区県営圃 場整備事業関連)	小松島市立江町大 吉・青木	500m ² (本調査)	8.10.1~8.12.9			土師質土器・瓦質土器 ・陶磁器
9.	櫻原道路 (新野地区県営圃 場整備事業関連)	阿南市新野町櫻原 59-2他	500m ² (本調査)	8.12.1~9.1.31	・弥生時代 ・古代 ・中世	土坑・柱穴	弥生土器・須恵器・土 師器・土師質土器・瓦 器・石器
10	福井川地区 (福井川地区県営 圃場整備事業関連)	阿南市福井町実用 300,000m ² (分布調査)		9.2.1~9.3.31	・中世 ・近世		土師質土器・陶磁器
11	椿地区 (椿地区県営圃 場整備事業関連)	阿南市椿町瓦枝 300,000m ² (分布調査)		9.2.1~9.3.31	・弥生時代 ・古代		弥生土器・須恵器・土 師器

◎主体となる時期

一般国道192号徳島南環状線関連埋蔵文化財出土品整理業務一覧

No	道路名	所在地	整理箱数	整理期間	時代	遺構	業務内容
1	矢野道路	徳島市国府町矢野	420箱	8.4.1~9.3.31	○弥生時代 ・古墳時代 ・中世	堅穴住居跡 ・溝・土坑・柱 穴・自然流路	遺物の基礎整理・実測 ・トレース・レイアウト

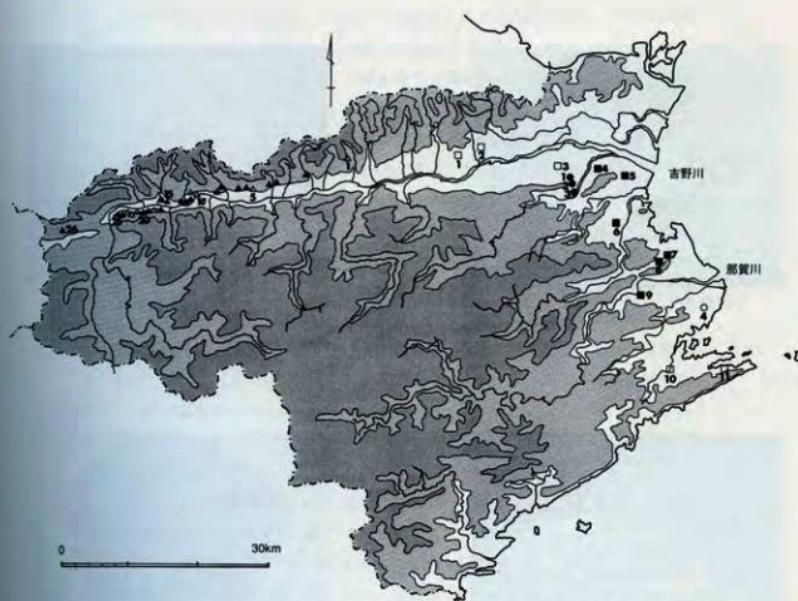
◎主体となる時期

一般公共事業関連埋蔵文化財出土品整理業務一覧

No	道路名	所在地	整理箱数	整理期間	時代	遺構	遺物
1	ウエノ道路 (池田警察署新築 事業関連)	三好郡池田町ウエ ノ	30箱	8.4.1~8.5.31 9.2.1~9.3.31	○弥生時代 ・中世	掘立柱建物跡・ 堅穴住居跡・溝 ・土坑・柱穴 ・自然流路	遺物の基礎整理・実測 ・トレース・遺構実測図 ・レイアウト

No	遺跡名	所在地	整理箱数	整理期間	時代	遺構	遺物
2	石井城ノ内遺跡 —石井・神山緑地区— (県道石井・神山緑改良事業関連)	名西郡石井町石井字城ノ内	140箱	8.4.1~8.9.30	○弥生時代 ・古墳時代 ○古代	溝・土坑・柱穴 ・土器だまり	遺物の基礎整理・実測 ・トレース・遺構実測 図トレース・レイアウト
3	庄跡 —大藏名碳本住宅 宿舎地点— (大藏名碳本住宅 宿舎新築工事関連)	徳島市庄町丁目77	96箱	8.6.1~8.7.31 8.12.1~9.3.31	・绳文時代 ○弥生時代 ・古代 ・中世 ・近世	溝・土坑・柱穴 ・自然流路 ・土壠墓	遺物の基礎整理・実測 ・トレース・レイアウト ・原稿執筆・踏鉄保存
4	新蔵町1丁目道路 —総合管理センタ ー地点— (総合管理センタ ー建設事業関連)	徳島市新蔵町1丁目86	50箱	8.10.1~9.3.31	○近世	溝・石列・土坑・柱穴	遺物の基礎整理・実測 ・写真撮影・遺物の分類
5	新蔵町1丁目道路 —合同行舎地点— (合同行舎建設事 業関連)	徳島市新蔵町1丁目35	140箱	8.10.1~9.3.31	○近世	溝・掘立柱列 ・土坑・柱穴	遺物の基礎整理・実測 ・トレース・写真撮影
6	立善寺跡遺跡 (阿南工業高等学 校電子機械科第2 棟新築工事関連)	阿南市宝田町今市 中新聞10-6	30箱	8.4.1~8.9.30	○古代 ・中世		遺物の基礎整理・実測 ・トレース・拓本・遺 構実測図トレース・レ イアウト

◎主体となる時期



発掘調査地

徳島四国縦貫自動車道(▲・△)

徳島環状線(●・○)

一般公認道(■・□)

*黒ぬりは本調査、白ぬきは試掘、分布

やくし 薬師遺跡(芝坂地区)

所在地 美馬郡美馬町薬師2-6他

調査期間 1996年4月2日~6月24日

担当者 山田 大北 久保 笠井

調査概要

本遺跡は吉野川中流域、阿讚山地より吉野川に注ぐ野村谷川西方の標高120m前後の河岸段丘上に位置し、東隣の薬師地区から西側の坊僧遺跡に向かっての一帯高い小尾根上に展開する。調査の結果、縄文時代の遺構と中世の集落を検出した。

不明遺構

長軸3.4m、短軸1.4~2.0m、深さ0.3mを測

SX2001 り長軸は東西方向に向く。平面形は楕円形を呈する。覆土の最上層は炭化物と焼土が含まれており、縄文土器22点が出土した。

土坑

長軸0.9m、短軸0.65m、深さ0.36mを測

SK1019 り、平面形は楕円形を呈する。覆土の最上層部下側は炭化物が帶状に拡がり、完形土師質土器小皿1点が正立状態で出土した。その他土師質土器、須恵器が大量に出土した。

まとめ

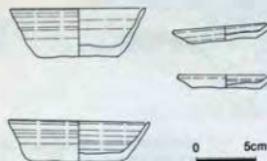
今回の調査で検出した柱穴などから、数棟の掘立柱建物や構列を中心とした集落の存在が考えられる。集落の時期は、出土遺物から14世紀から16世紀にかかるものと思われる。前年度の薬師地区の調査においてもほぼ同時期の集落が確認されており、当地域の中世の集落構造の一端を解明する資料となるだろう。(久保)



1 調査地点の位置(脇町)



2 調査区全景



4 出土遺物



3 SK1019 遺物出土状況

あら 荒 川 遺 跡

所在地 美馬郡美馬町字荒川45他

調査期間 1996年4月3日～1997年3月21日（1次）

1996年7月22日～1997年2月27日（2次）

担当者 松永 吉田 大北（1次）

佐野 宮本明 寒川（2次）

立地と環境 本遺跡は、吉野川北岸の阿讚山麓から標高90～110m前後の扇状地上にかけて位置する。調査区の地形は概ね西から東への緩やかな傾斜地であるが、小河川により寸断されており、やや複雑な地形を呈している。

調査区の周辺には荒川古墳、海原古墳、平野古墳などの後期古墳が点在する。また、3kmほど東方には「郡里庵寺」や「滝ノ宮経塚」などが知られ、比較的指定文化財の多い地域である。

調査概要 西から東への緩やかな傾斜地を開墾し、田畠にしているため、各調査区の南東部では遺物包含層や遺構の残存状況は比較的良好であったが、北西部では削平が著しいため、遺構面が検出されないとところもあった。

1、3、5、8区で縄文土器が出土し、3、9区で弥生時代、1、3区で古墳時代、10、11区で主に中世の遺構を検出した。主な遺構は堅穴住居、掘立柱建物、古墳、鍛冶炉等である。

堅穴住居 3区の北西部で検出された。南側半分は削平により失われていたが、平面形は直径約

5mの不整な円形に復元できる。復元される住居のほぼ中央部に長軸1.23m短軸1.03mの不整形の炉が検出された。柱穴は北側で4ヶ所検出している。覆土中より弥生土器とサヌカイト製石鏃が出土している。また、北東部床面直上より結晶片岩製の研磨痕が認められる台石が出土し、その台石の周辺よりサヌカイトの剥片が出土している。時期は弥生時代



1 調査地点の位置（脇町）



2 3区 SB1001 完掘状況



3 3区古墳 SM2001 完掘状況

後期である。

古 墳 2区の西方、嫁坂谷川の崖際で検出された。

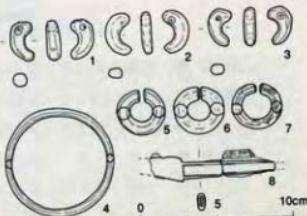
SM2001 平野古墳の南方30mほどの地点である。敷石列上面から須恵器のほか耳環、銅釧、鉄刀、ガラス小玉等が出土している。須恵器の時期は6世紀末から7世紀初めに収まるものである。敷石列は長軸2.40m、短軸1.70mを測る不整な長方形である。この石列は残存状態が悪く古墳の規模・形状は不詳である。

また、1区でも同様の古墳らしき石列が検出され、石敷上面より須恵器、土師器、勾玉等が出土している。

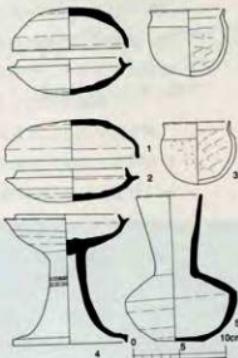
鍛冶炉 10区の北方中央部付近で検出された。平面形状は長軸0.70m短軸0.55mの不整な楕円形を呈し、上方部は削平されていたものと考えられ、検出時の深さは0.16mを測る。やや小型の円筒形をした炉である。中心部よりやや東に炭化物が集中し、炉内覆土中より鉄滓が多量に出土している。底面には被熱により赤変した厚さ2cmほどの薄い粘質土層が見られる。時期は、周辺で出土した遺物から13世紀代に収まるものと考えられる。

柱 穴 10区の北西部で検出された。直径0.40mのほぼ円形で、深さ0.30mを測る。は、土師質土器の杯や皿が柱痕を埋めるように配され、12枚ものはほぼ完形の土師質土器の小皿が埋められていた。杯の底面には木質らしい物の付着が観察され、これらの小皿は有機質の容器に一括して納められていた可能性も考えられ、何らかの祭祀的行為も想定される。時期は12世紀末から13世紀初頭であると考える。

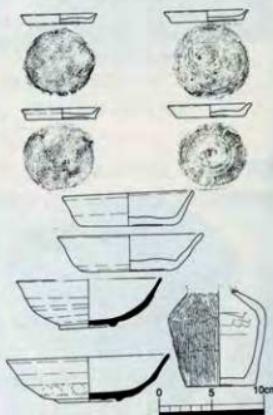
土 坑 10区のはば中央で検出された。長軸1.26m、
10-3 区 短軸0.85mほどの不整な隅丸方形で、深さ0.28mを測る。上面より西村窯系の須恵質土器の碗、土師質土器の小皿や不明鉄製品等が出土し、覆土下層からは土師質土器の杯と壺が並んで出土している。時期は13世紀である。



4 古墳出土遺物



5 古墳出土土器



6 10区出土遺物

出土遺物 1区、3区、5区の嫁坂谷川の両岸の急斜

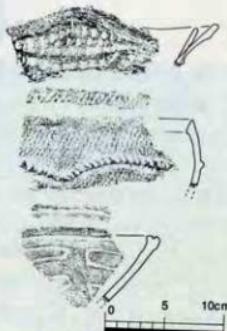
縄文土器 面と8区で主に出土している。1区、3区、5区は主に砂礫層から出土したもので、明確な遺構には伴うものではない。おそらくは斜面上部の古墳造営時などに削られ斜面部に押し出されたものであると思われる。8区で土坑等の遺構からの出土もあるが、細片のみで器形の復元できるものは少ない。時期は縄文時代中期から晩期まで幅広く出土している。

**鍛冶関連
遺物** 10区において椀状の鉄塊や鉄滓、羽口片が多量に出土している。羽口はすべて土師質である。細片のみで全長の復元できるものはないが、外径約9~10cm、内径2~3cmに復元できる。羽口の先には2~3cmほどの鉄粒やガラス成分が溶着しているものもある。

また、前記のSK1028出土の土師質土器の壺は口縁部から頸部の一部を欠くが、残存高9.3cm、底径6.2cm、体部最大径9.3cmを測る。外面にはヘラ磨き調整が全面に施されている。内部には底から3分の2ほど鉄が詰まっていた。鉄生産の際ににおける祭祀的行為を示すものとも考えられる。

まとめ 出土した縄文土器は遺構に伴うものではないが、時期幅のある多種多量の土器は調査区周辺に縄文時代の遺跡があったことを示すに十分であると思われる。これらの縄文土器は今後、美馬町薬師遺跡や吉野川対岸の貞光町前田遺跡等とも比較検討する必要があると思われる。

10区で検出された数基の鍛冶炉と多量の鉄滓は多量の鉄製品を作っていたことをうかがわせる資料である。炭化材や鉄片等の科学分析の結果とあわせ、鉄生産関連遺跡における選地や付属施設を検討する上で貴重な資料となろう。(佐野)



7 縄文土器実測図



8 10区 SH2002 掘削状況



9 10区 SP1506 遺物出土状況

よし みず 吉水遺跡

所在地 美馬郡美馬町吉水

調査期間 1996年4月3日~10月31日

担当者 宮本宏 志摩

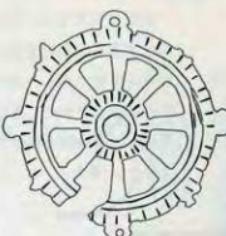
調査概要 本遺跡は、吉野川北岸の地滑りによって形成された崩積地に位置する。『美馬町史』には、かつてここに寺があった可能性が指摘されているが、寺跡であることを確定する文書は残されていない。調査地西部分の棚田の床土下で縄文時代の縱形石匙が出土したが、その下面から弥生土器が中世の遺構の中から出土している。調査地中央にある高台の地山からは、弥生後期の堅穴住居跡を7軒検出した。住居内からは、石庖丁・サヌカイトの鋸片も多数出土している。調査地東部分で、東西9間・南北3間の掘立柱建物跡を検出した。南北方向については、棚田を造る際に削平されており、まだ数間のびる可能性がある。柱穴からは中国の銅鏡が十枚、土坑内からは備前V期の擂鉢が出土している。遺構内に2条の溝があり、そこから15世紀中ごろの龍泉窯の青磁碗が出土した。調査地西部で検出した掘立柱建物跡の柱穴からも、土師質土器の杯が数枚重なって出土しており、包含層からは輸入陶磁器が出土している。調査地中央部高台の包含層からは、輪宝が出土した。この他に同時期の包含層や遺構からは、花瓶・閑伽桶・飲食器と思われる密教法具も出土している。高台下からはかけ橋を伴う井戸を検出した。瓦片も多数出土しており、軒丸瓦・軒平瓦から考えて室町期のものである。これらのことから考えて、遅くとも室町末期までの寺跡の遺構であると考えられる。今回の調査で検出した寺跡の遺構が、『美馬町史』で推定されている寺跡かどうか現在のところ確定はできない。(宮本宏)



1 調査地点の位置 (脇町)



2 井戸出土状況



3 輪宝 (S=1/1)

し みず 清 水 遺 跡

所在地 三好郡三野町大字清水字東篠1408他

調査期間 1996年4月3日～7月31日

担当者 原 中南 丸岡 河野

調査概要 本遺跡は、吉野川北岸の北西から南東に向かって緩やかに傾斜する標高140m前後の平坦な扇状地性の段丘上に位置する。縁辺部は高瀬谷川・滝谷川・箸ヶ谷川などの中小の河川によって侵食され、垂直に近い断崖となっており、麓からの比高差は約50mを測る。

調査成果 調査の結果、古代～中世にかけての遺構・遺物が出土した。中心となる時期は平安時代（10世紀後半）頃に位置づけられると考えられる。出土した遺構は炭窯の他、土坑・ピットなどが出土した。

調査地点は、弘仁5年（814年）に馬場秋胤がここに拠って以来栄えたとされる地域である。中世には調査区北側の高台に馬場氏の拠城とされる清水城があったと伝えられており、「阿波國都村誌」・「阿波古城記」・「阿波志」等にその記載が見られ、中世山城の存在が想定されたが、今回の調査ではそのことを裏づける遺構・遺物は確認することはできなかった。

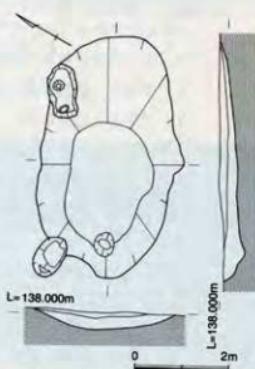
まとめ 本遺跡からは炭窯（木炭窯）が7基出土している。平面形態は長楕円形を呈し、民俗事例にみられる小規模で簡易な黒炭製造窯である「伏焼窯」に類似する。木炭窯については、その用途として製鉄関連遺構との見解があり、阿波においても莊園の有力層による自給的鉄生産の存在が指摘されている。本遺跡出土の炭窯は専業的な在り方を示してはおらず、季節的な操業が予想される。こうした在り方は当時の生産形態及びそれに関わる職能集団の動態を解明する上で興味深い。（原）



1 調査地点の位置（脇町・池田）



2 作業風景



3 SO1001 平・断面図

しおづか塩塚遺跡

所在地 三好郡三野町清水字塩塚1334他

調査期間 1996年4月3日～1996年6月10日

担当者 佐野 宮本明

立地と環境 本遺跡は、阿讚山地から延びた細い尾根と、瀧谷川の扇頂部付近に位置し、標高120～144mを測る。調査区の現況は東側は谷、西側は桑畠、中央部の尾根上は丸山神社境内地（塩塚）となっている。この境内地となっている塚に、塩分配の「ひともっこ」の逸話が伝えられており、三野町指定の文化財として指定されていた。また、この塚の地形から古墳の上に祠を造営している可能性が指摘されていた。

調査概要 尾根上部では祠の基礎部以外何らの遺構も検出されなかった。調査区の西側のやや平坦になった所で柱穴8基、土坑2基、不明遺構2基が検出された。

出土遺物 近世または近代の陶磁器片、瓦片などが主な出土遺物である。

祠の基礎部付近の表土より灯籠の一部と思われる瓦質の破片と銭貨（銅貨4枚、鉄貨3枚）が出土している。いずれも「寛永通宝」であると思われる。そのうちの1枚の背面には「文」の銘があるいわゆる文銭（初鑄1668年）である。鉄錢も寛永通宝鉄錢（初鑄1739年）であると思われる。

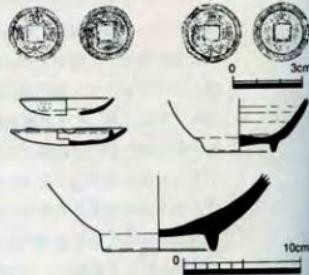
まとめ 本遺跡は、古墳の検出が期待されていたところである。しかし、調査の結果、17世紀以前の遺物も何ら出土せず、18世紀以降の遺物のみであった。このことから、「明和2年」（1765年）という現存する丸山神社の祠の年号ごとに造られ、それ以前の古墳の造営はなかったことが判明した。（佐野）



1 調査地点の位置（池田・脇町）



2 調査前風景



3 出土遺物

まるやま 丸山遺跡

所在地 三好郡三野町勢力字丸山

調査期間 1996年4月1日～1996年11月30日

担当者 小泉 坂東

調査概要 本遺跡は吉野川北岸上流域、標高143mの北から南に向かって緩やかに傾斜する河岸段丘上に位置する。本遺跡の南側には約70mの比高差をもつ段丘崖が認められる。本遺跡の谷一つ隔てた山頂平坦部には弥生時代後期の竪穴住居や環濠が検出された大谷尻遺跡、吉野川に面した沖積地には弥生時代後期～終末期の加茂野宮遺跡が所在する。本遺跡は昨年度の調査により弥生時代の中葉～中期末の竪穴住居、区画溝等を検出し、本年度は調査区の中央部から北西部にかけて調査を行った。

竪穴住居 直径5mの円形プランを持つ竪穴住居である。深さは検出面から50cmを測る。床面の中央部には直径60cmの隅丸方形の炉が置かれ、6本を主柱とする構造である。床面上には焼土が5cmの厚さで堆積している。時期は弥生時代中期中葉と考えられる。

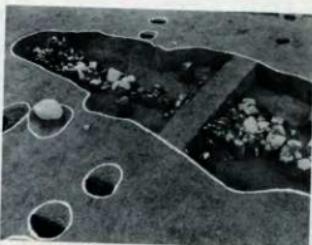
区画溝 昨年度の調査により調査区の南東中央端部から北西に向かって緩やかな弧を描いて検出された溝である。今回の調査でも調査区中央部より北西に向かい、調査区北端の手前で隅丸を呈して切れて検出されている。規模は幅2m、深さ0.5～1mを測る。遺構内からは多数の弥生土器の破片が多量に出土している。北西端部では多数の弥生土器とサヌカイトを入れた後、拳大の石を投げ入れ、意図的に土器を破壊しており、祭祀的意味合いをもつものと思われる。溝を境にして昨年度調査が行われた南東側の遺構が極めて少ないことや、本年度の調査部分からの遺構の検出状況より集落内を区画するものと思われる。



1 調査地点の位置（池田）



2 SB1002 完掘状況



3 SD1001 挖り下げ状況

時期は弥生時代中期中葉～中期末である。

まとめ 今回の調査により吉野川上流域の弥生時代中期中葉を主体とする区画溝を伴う弥生集落の一端が明らかとなった。

本遺跡は、昨年度調査が実施された台地周辺に環濠を巡らせる弥生時代中期末～後期初頭にかけての高地性集落である大谷尻遺跡と、谷一つ隔てて隣接する位置にあることから、両者がどのような関係にあるのか注目された。しかし、調査の結果、本遺跡は出土遺物より大谷尻遺跡より若干時期が先行する遺跡であり、同じ時期に生活が営まれた可能性が極めて少ないことが明らかとなった。

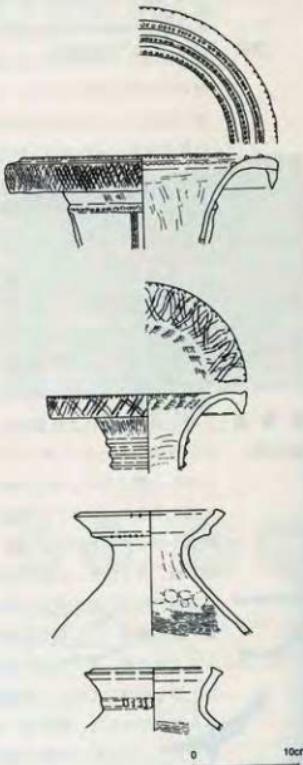
本遺跡の特徴の一つに区画溝があげられる。区画溝は調査区をほぼ東西に走っており、大谷尻遺跡で見られた防衛的機能を持つた溝ではなく、集落内の区画を目的としたものと考えられる。また、出土遺物からみれば大谷尻遺跡で多量に見つかったサヌカイト製の打製石鏃・打製石庖丁・石斧が丸山遺跡でも確認されており、両者に共通点も認められており、現時点では収穫具や工具など生産用具が多く出土していることから、日常の畑作を中心とした集落と思われる。

丸山遺跡と同時期の集落としては高地性集落と認定されてきた三好郡三好町の土取遺跡（標高149.6m、水田との比高差65m）や阿波郡阿波町の日吉谷遺跡（標高60m、水田面との比高差27m）がある。日吉谷遺跡の営まれた長峰台地では、周辺に若干の時期差をもつ遺跡が点在している。

この時期の高位の集落と平地の集落のつながりはまだ明らかにはなっていないが、当該期においては天候の影響や吉野川河川の氾濫等の自然条件によって高位台地に集落が営まれた可能性が考えられ、吉野川流域において、いわゆる防衛を目的とした高地性集落の概念を再検討する必要がある。（小泉）



4 完掘状況



5 出土遺物

はな 花園遺跡

所在地 三好郡三野町大字太刀野字花園窪他

調査期間 1996年4月3日～9月30日

担当者 泊 有月

調査概要 大屋敷谷川によって形成された扇状地の西側の山裾に立地する。標高が110m付近の北東から南東に傾斜して下る緩斜面上にあり、近辺に、中世の窯跡があったといわれている。

主な遺構 遺構は、主なものとして掘立柱建物跡を3棟、火葬墓を1基、炭窯跡を1基、屋外炉跡を2基、暗渠を3条検出した。

火葬墓 長軸約1.0m、短軸0.8m、深さ0.2mを測る。

ST1001 遺構の南半分は、暗渠(SJ1001)に切られており、実際は短軸方向にもっと拡がっていたと思われる。埋土は炭や焼土に混じって2cm未満の骨片が多数見られた。遺構上部で土師質土器の小皿が2枚出土した。

炭窯 南北約6m、東西約2m、深さ0.4mを測る。

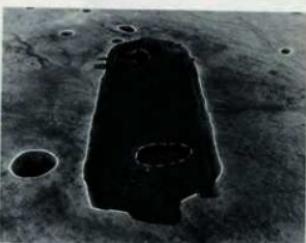
SO1001 北から南へ緩やかに下る斜面上に構築されており、北の隅の中央部でピットが検出された。菅原康夫氏分類I型B類に相当する。

主な遺物 土師質土器の鍋や羽釜と陶器の擂鉢が出土遺物の大半を占める。その中で、数少ない土師質土器の小皿が、ST1001から出土した。法量は、口径11.8cm、器高2.4cm、底径5.0cmを測る。底部静止系切りで15～16世紀のものと考えている。

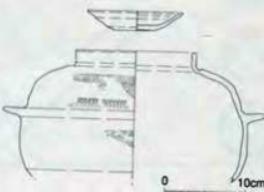
まとめ 今回の調査によって検出された遺構は、そのほとんどが室町時代後半のものと考えている。掘立柱建物跡を3棟検出しているが、規模も小さく、散発的に検出され集落跡とは考えにくい。2棟の掘立柱建物跡の近くで検出した炭窯跡の遺構と関連があると考えたほうが自然である。また、中世の花園窯があったと報告されている所でもあり、それとの関連も合わせて検討する必要がある。(泊)



1 調査地点の位置 (池田)



2 炭窯 SO1001 完掘状況



3 SD1109 出土遺物

ひがし ばら 遺 跡

所 在 地 三好郡三好町大字足代字東原460-1他

調査期間 1996年4月3日～1997年3月21日

担当者 九十九 武市 市原 大栗 久保
笠井

調査概要 本遺跡は、吉野川上流の北岸で三好町の東端に位置する。黒川原谷川の堆積作用によって形成された扇状地の先端部にあたり、南側は吉野川により開析されている。この扇状地平地部は吉野川南岸の三加茂町の平地と共に吉野川上流域では数少ない平地部である。

遺跡は300m離れた東地区と西地区に分かれている。東地区は(A1・A2・A3・B4・B5)に分けて調査を行った。調査の結果、東地区では、多数の遺物・遺構(中世)を検出し、西地区では、弥生～中世の遺物を検出した。

東 地 区 全体的に上面はかなり削平されており、検出面の状態も安定しないが、柱穴、土坑、溝を数多く検出した。溝は東西南北に走っており、SA1001からもわかるように掘立柱建物は東西南北方向に建てられていると思われる。切り合いの多さ、また出土遺物により、何回も建て替えを行っていると思われる。



1 調査地点の位置（池田）



2 東地区を北より望む



3 遺構配置図（東地区）

A - 1 柱穴（直径23cm、深さ40cm）内に、ほぼ完
SP1508 形の土器（須恵器の椀2、土師器の杯3）と
土器片を検出した。須恵器の椀は讃岐西村窯
須恵器で、土器片には和泉型瓦器椀が含まれ
ており、12～13世紀と思われる。地鎮に関係
する遺構と考えられる。

A - 2 土坑（直径155cm、深さ8cm）の底部より
SK1026 土師器の杯・椀・瓦器椀を検出した。埋土は
一層で炭化物を多く含んでいる。出土状況と
土器周辺に炭化物が集中していることより、
廃棄土坑と思われる。

A - 2 掘り方上面より、3枚の土師器の小皿上に
SP1036 それぞれ一枚づつ銅鏡（永樂通宝・政和通宝
・不明）を置いた状態（銅鏡付着痕有り）で
検出した。掘立柱建物を建てたときに行われた
地鎮に関係するものと思われる。また、小皿は同じ形態を呈しており、地鎮の為の一括
焼成品と思われる。

西地区 西地区は一段低い谷間に当たり、一段高い
西側には弥生時代の集落跡の西原遺跡が隣接
している。この谷間には、大規模な河川の氾
濫による流れ込みで、弥生から中世にかけて
の土器が同一層に流れ込んでいる。何ヵ所か
まとまった状態で土器を検出したが、これも
洪水時の水の流れを顕著に表している。

以上より、西側の西原遺跡をはじめ北側一
帯に弥生時代から中世にかけての集落が存在
していたことが分かる。

まとめ 今回の調査で、多数の遺物・遺構を検出
した東地区は、吉野川に面した南向きの高台
という条件に恵まれた12世紀から16世紀にかけ
ての東西南北に走る溝により区画された掘
立柱建物群による集落であったと思われる。

これから整理作業を進め、さまざまな面から
検討を加えていくことにより、この集落の
意味、中世の物流経路などが、解き明かされ
てくるであろう。（九十九）



4 A-1区 SP1508 出土遺物



5 A-2区 SK1026 出土遺物



6 A-2区 SP1036 出土状況



7 A-2区 SP1036 出土遺物

にし ばら 西原遺跡

所在地 三好郡三好町足代字西原770番地他

調査期間 1996年4月3日～1997年3月31日

担当者 谷 大橋

立地と環境 本遺跡は吉野川北岸の標高75～80mの河岸段丘上に、黒川原谷川によって形成された扇状地の扇端部に立地している。吉野川からの比高差は約15mである。

調査概要 周辺には、本遺跡から北北東約500mのところに弥生時代終末期の積石墓群である足代東原遺跡があり、同一段丘上に約15m高い部分に位置する。

本遺跡は便宜上、西から1～6区に分割して調査を行った。西側の1区、2区からは、時代は不明ながら炭窯跡と暗渠、自然流路が検出された。3区、6区からは近世の土坑、柱穴が確認され、灯明皿などが出土した。5区からは弥生時代後期初頭から終末期にかけての堅穴住居跡18軒、土坑約260基、柱穴約1600基、溝状遺構9条、水田跡が検出された。

豊穴住居跡 SB1008 長軸3.2m、短軸2.7m、検出面からの深さ20cmを測る。不整な円形を呈す。中央部に直径約70cmの炉跡が認められ、柱が2本の小型の住居跡であったと考えられる。床面から約10cmのところで、壺形土器の破片がまとまって出土した。口縁部に凹線が巡り、弥生時代のものと考えられる。また、土器片を素材にした紡錘車が出土している。

豊穴住居跡 SB1015 長軸8.8m、短軸8.5m、深さ44cmを測る。本遺跡最大の住居跡で、ほぼ円形を呈す。中央からやや東に炉をもち、柱が5、6本の構造であったと推定される。覆土中の遺物量は少ないが、床面から緑色凝灰岩製の管玉が1点出土した。時期は弥生時代終末期に属すると考えられる。

豊穴住居跡 SB1017 長軸6.4m、短軸6.3m、検出面からの深さ60cmを測る。本遺跡で最も深い住居跡で、ほ



1 調査地点の位置（池田）



2 遺構出土状況

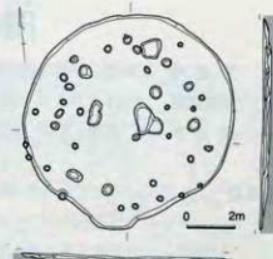


3 遺物出土状況 SB1008

は円形を呈している。中央部に長径約2mの火跡があり、その東側に土坑が確認された。柱が6本の構造であるが、柱穴は浅い。覆土から多くの土器片が出土し、時期は弥生時代終末期に属すると考えられる。

まとめ 今回の調査では、三好町東部で初めて弥生時代後期から終末期にかけての集落跡が確認された。集落跡は本遺跡の東側半分の範囲で、ほぼ円形に分布している。このうち後期の住居跡は北側にのみ分布し、終末期には南に居住域が拡大したと考えられる。しかし、遺物包含層が調査区の北側ほど削平されているので、本遺跡の北側への拡がりは不明である。また、調査区の南端の包含層で後期初頭の高杯や甕が出土していることから、調査区の南にも後期初頭の集落が拡がっていた可能性も考えられる。

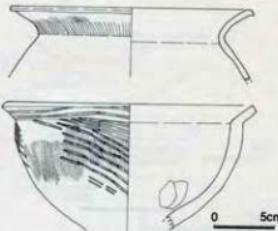
出土遺物で注目されるのは、緑色凝灰岩製の管玉である。住居跡の床面から3点、住居の覆土から1点、土坑の覆土から1点の計5点が出土している。弥生時代の例としては県内有数の出土数である。今後、出土遺物の詳細な検討により、足代東原遺跡との関連が指摘される可能性がある。(谷・大橋)



4 SB1015 平・断面図



5 SB1017 実掘状況



6 出土遺物

えん つう じ 円通寺遺跡

所在地 三好郡三好町足代1391-1他

調査期間 1996年4月3日~1997年3月26日

担当者 辻 高柳 常村 安友 牧野 宮本明

調査概要 本遺跡は阿讚山地から吉野川に南流する黒

川原谷川、馬来谷川などにより形成された標高90m前後の複合扇状地上に位置する。調査の結果、7世紀後半の土器溜まり(SX1001・1002)や12世紀後半の集落跡・炭窯18基などを検出した。

炭窯 長軸7.5m、短軸1.6~1.8m、深さ0.1~0.5mを測り、長軸は東西方向に向く。平面形は長方形で西側に半円形の突出部を有する。覆土の最下層は炭が厚く堆積し、床面と壁面の一部は被熱により赤色化している。また床面は東側から西側の突出部に向かい緩やかに傾斜しており、突出部の両脇には2基一対の小ピットが見られる。

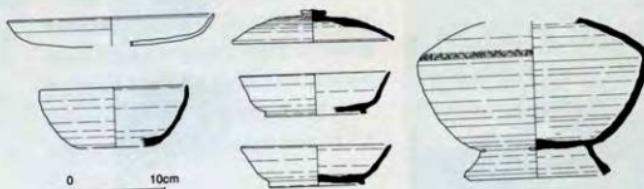
まとめ 今回の調査で検出した炭窯は3~4基が1グループをなし、それぞれが40~50m程隔たって構築されている。こうした分布状況は原本の伐採範囲や操業規模を反映するものと思われる。操業年代は土器の出土を見ないため不明であるが、遺構の切り合いからすると奈良~平安時代におさまるものと考えられる。なお炭窯の年代判定の参考とするため熱残留磁気測定を行った。(辻)



1 調査地点の位置 (池田)



2 SO1003



3 SX1001・1002 出土遺物

どい土井遺跡

所在地 三好郡三好町大字昼間字土井614他

調査期間 1996年4月3日～1997年3月14日

担当者 濑部 笠井 上藤 久保 森本

寒川 佐野 大北 田川 大橋

調査概要 吉野川北岸の標高95～97mの河岸段丘上に位置する。近隣には吉野川北岸農業水利事業に伴う調査により、弥生時代を主体とする西貝川遺跡、大柿遺跡等が確認されている。『日本城郭体系』によると、調査区南側の段丘端部に中世城郭である東昼間城があったとされている。

前年度の試掘調査では溶解炉壁等の鋳造関連遺物、土師質土器、瓦質土器等の中世を主体とする遺物が出土しており、東昼間城および鋳造に関連する遺構の検出が予想された。

主な遺構 今年度の調査では、柱穴2933基、土坑271基、溝61条、水利施設、水田遺構を確認した。検出した遺構は出土遺物から、弥生時代中期、中世、近世の年代が与えられるが、遺跡の主体となる時期は中世である。主な遺構として、鋳造関連遺物を廃棄したと考えられる柱穴・土坑等が挙げられる。これらの遺構は、共伴遺物から15～16世紀と考えられる。同時期の鋳造関連遺構が確認された遺跡に、市場町上喜来蛭子～中佐古遺跡があげられる。

まとめ 今回の調査で、東昼間城との関連性が積極的に考えられる遺構は確認されなかったものの、中世を主体とする集落跡が確認された。この集落は、段丘西端から東は旧河川までの微高地上に立地していると思われる。鋳造遺構は確認できなかったが、少なくない溶解炉壁・鉄滓等の関連遺物の出土より、調査区周辺で鋳造を行っていた可能性が考えられる。

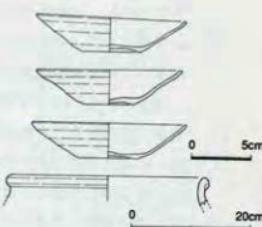
(大北)



1 調査地点の位置 (池田)



2 遺構検出状況



3 遺構出土土器

おお がき 大 柿 遺 跡

所 在 地 三好郡三好町大字昼間字カワラケメン他

調査期間 1996年4月3日～1997年3月25日

担当者 南 高見 市村 吉田 道成 植谷
 伊丹 下内 石田 石井 佐藤
 遠山 久保脇 栗林 稲村 住友
 二宮 三好 村部 妹尾 仁尾
 畠山 三木野 西岡 工藤 杉浦

調査概要 大柿遺跡は三好郡三好町大字昼間字カワラケメンに所在する。昭和49、50年に吉野川北岸農業水利事業に伴い県教育委員会によって発掘調査が実施され、弥生時代前期末、古墳時代後期、古代末の集落遺跡であることが確認された。特に阿方式土器が出土したことから徳島県西部を代表する遺跡として知られた。

遺跡は吉野川北岸の三波川結晶片岩の基盤上に堆積した沖積低地堆積物によって形成された標高約80mの中洲性微高地に立地する。微高地の北側には喜来谷川を挟んで阿讚山地からの扇状地が、東側には金江谷川を挟んで比高差約10mの河岸段丘がある。西側は小川谷川と吉野川の合流点となる。これらに囲まれた微高地全体に遺跡は拡がり、東西約1.2km、南北約400m、推定範囲は約45ha以上である。遺跡が立地する微高地は現在でも中央部付近がやや低く、南側には小谷があることから、旧地形においては二つの微高地から構成され、中央部には喜来谷川の支流が南流していたと想定される。

調査の結果、縄文時代晚期、弥生時代中期初頭、後期後半、古墳時代後期、古代末～中世、中世～近世にかけての遺構面が検出された。特に中心となるのは古墳時代後期、古代末～中世初頭の集落及び古代～近世にかけての水田である。



1 調査地点の位置（池田）



2 SP1309 遺物出土状況



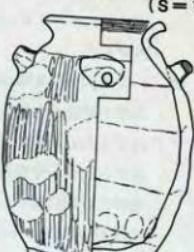
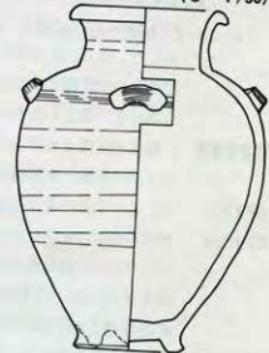
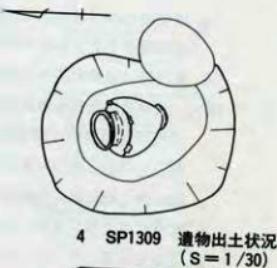
3 SP1297 遺物出土状況

第7遺構面 第7遺構面は古墳時代後期の遺構面となる。当該期の遺構は松吉地区微高地に拡がる集落及び鳥井地区微高地南西斜面において検出された水田である。松吉地区からは堅穴住居跡138軒、鍛冶工房1軒、掘立柱建物跡3棟、土坑174基、溝3条等が検出された。

SB2004 松吉地区旧微高地において確認された。1辺約4mの隅丸方形を呈する堅穴住居跡である。東壁中央部に竈が構築されている。鍛冶炉は長軸1m、南北40cm、深さ30cmの長楕円形を呈し、工房中央のやや北よりの箇所に南北方向に構築されている。鍛冶炉内の下部構造は炭化物層と砂層が互層状に埋められている。火床面は工房床面から約10cm程度窪んだり鉢状を呈する。工房内からは鉄滓2点、砥石1点、緑色凝灰岩製管玉1点、鉄製曲刃鎌1点が出土した。なお、羽口等は出土していないが、工房覆土を50cm方眼に区切り、土壤洗浄を行った結果、鍛冶炉南西側より多量の鍛造剥刃を確認した。TK209式併行期と考えられる。

土壤群 土壙は長軸2.3m、幅1m、深さ1.6mを最大に174基検出された。平均して長軸1.5m、幅1m、深さ1m前後の長方形を呈し、壁面は垂直に掘り込まれている。住居群の周辺に10数基密集するタイプと、微高地縁辺に散在するタイプに分けられる。主軸は南北方向と東西方向の2タイプある。特に松吉地区微高地東側斜面部では50基以上の土壤が散在することから、集落に付随する墓域と考えられる。土壤内には最下層に砂を敷いた上に粘質土を貼ったものや、壁面に沿って垂直に暗褐色粘性砂質土が堆積していることから木棺の痕跡とも考えられる。

第5遺構面 第5遺構面は古代末～中世にかけての遺構面となる。遺構は松吉地区微高地頂上付近と西側斜面部から集落が、鳥井地区微高地斜面部より水田が確認された。集落からは掘立柱

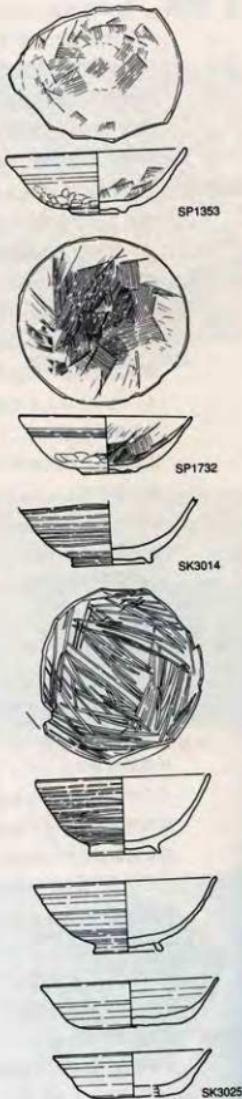


建物跡15棟、柱穴900余基、土坑30余基、土師器焼成土坑1基等が検出された。中心となる時期は11世紀後半～13世紀前半である。

水 田 烏井地区微高地南側傾斜部から検出された古代以降の水田は厚さ約2.5mにわたって堆積している。水田は等高線に沿う様に東西方向に長く棚田状に区画されている。各段が大畠間にあたり、さらに各段内を畠によって小さく区画している。中世末の水田は吉野川の洪水砂によって覆われ、遺存状態が良好であった。なお、洪水砂下の水田から検出された遺物の年代観よりこの洪水は天正7年もしくは10年に発生したものと考えられる。

掘立柱建物 松吉地区微高地頂上付近より梁行2間、桁行2間の規模の東西棟の総柱建物が検出された。この建物の南北主軸上の南側柱穴から白磁四耳壺が、北側柱穴から瓦質四耳壺が完形で出土した。四耳壺は共に柱穴中央部に口縁部を北西方向（白磁四耳壺：N15.5°W、瓦質四耳壺：N41°W）に向けた状態で出土した。また他の柱穴からも土師器杯、皿が出土した。柱穴の土層観察の結果、いずれの柱穴とも柱痕は確認されなかった。また、両四耳壺は柱穴のはば中央から完形で出土したことから柱を撤去した後に四耳壺等の遺物を埋納したと想定される。建物を撤去し埋納行為が行われた年代は、四耳壺以外の柱穴から出土した土師器皿、杯などの年代や同一遺構面の遺構年代からすると13世紀代とすることが妥当である。

ま と め 従来、大柿遺跡は徳島県西部における弥生時代中期初頭を代表する集落遺跡として知られてきた。今回の調査では古墳時代後期の集落と古代末～中世初頭にかけての集落及び古墳時代後期以降の水田が確認された。古墳時代後期の集落からは竪穴住居跡138軒をはじめとして掘立柱建物跡、鍛冶工房等がされた。徳島県下においてこのような規模の古墳

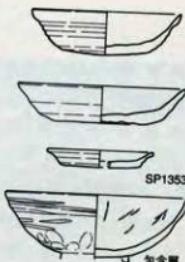


8 大柿遺跡出土遺物 (S=1/4)

時代集落が確認されたのは初めてである。従来、集落跡の研究が少ないとから、古墳の調査研究に偏っていた感があった。しかし、今回の調査により、土師器、須恵器編年はもとより、集落構造を検討する上で重要な成果を得ることができた。大柿遺跡においては当該期の集落としては竪穴住居跡の比率が西日本の中では非常に高いことが指摘できる。さらに確認された竪の9割以上が住居北壁中央部に構築されていることから住居構築時に何らかの制約があったことを伺わせる。また確認された鍛冶工房以外にも鉄窯や鍛造剝片を出土する竪穴住居跡があることが注目される。

古墳時代後期における鉄器生産技術の地方波及の実態や、集落内における住居と鍛冶工房のあり方を検討する上での好資料となるであろう。

一方、古代末～中世にかけて注目されるのは白磁四耳壺と瓦質四耳壺の埋納である。通常、白磁四耳壺の埋納は経筒や蔵骨器としての使用例が多いのが通常である。しかし、今回の出土状況は従来の出土例と比べて特異な例といえる。県下において柱穴への土器の埋納例自体は度々確認されているが、それらは土師器の場合が殆どで、その目的も地鎮などの祭祀行為に伴うものと考えられる例が多い。今回確認された出土状況も何らかの祭祀行為に伴うものと推定されるが、白磁壺を使用しているだけでなく、建物の廃棄後に埋納している点が注目される。この様な類例は少なく、周辺遺構の検討が重要になるであろう。今後の検討を通して遺構の性格、埋納の動機、祭祀形態等を明らかにしていきたい。大柿遺跡の調査は1997年度も実施される予定であり、次年度以降の調査成果と併せて検討を加える必要がある。(栗林)



9 大柿遺跡出土遺物 (S = 1/4)

はちまん 八幡遺跡

所在地 三好郡井川町字八幡28-3他

調査期間 1996年10月1日~12月6日

担当者 原 丸岡

調査概要 本遺跡は、吉野川南岸の北から南に向かつて緩やかに傾斜する標高89m前後の平坦な段丘上に位置する。調査地点は古代寺院の女法寺が存在していたとされる地域であり、それらに関連する遺構の出土が期待された。しかし、今回の調査ではそれらに関連する遺構・遺物を確認することはできなかった。

主な遺構・遺物 遺構は溝・土坑・ピットなどが多量に出土しており、特にピットは約500基を検出した。出土遺物では瓦器椀・西村窯系須恵器椀・土師質土器杯・皿などが出土している。瓦器椀はいずれも和泉系と思われ、尾上氏分類のII-3類に属するものと考えられる。土師質土器の杯・皿の底部切り放し技法は回転ヘラ切りが主体となっている。時期的には鎌倉時代初頭（12世紀後半）頃に位置づけられると考えられる。

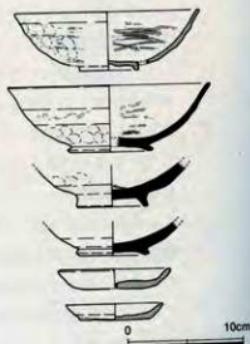
まとめ 調査の結果、古代～中世にかけての遺構・遺物が出土した。出土遺物から中心となる時期は概ね鎌倉時代初頭（12世紀後半）頃に位置づけられると考えられるが、本遺跡では遺構内からの遺物の出土も少なく、器種および時期の判明するものは極わずかであるため、詳細な時期の決定は困難である。多量に検出されたピットから数棟の掘立柱建物が存在していた可能性があるが、規則的な配列は見られず、調査時点では明確に捉えることはできなかった。今後更に検討を加える必要がある。また、調査区北部において数基の弥生土器を出土した遺構を検出していることから、調査区の更に北側へ弥生時代の遺構が拡がる可能性がある。（原）



1 調査地点の位置 (池田)



2 遺構出土状況



3 出土遺物

いでのうえ 井出上遺跡

所在地 三好郡井川町西井川681他

調査期間 1996年4月3日～1997年3月11日

担当者 白井 藤本 横田 元村 藤川

調査概要 本遺跡は吉野川南岸、標高約125mの河岸段丘上に立地する。東・北・西の三方向を段丘地形によって、緩やかなあるいは急峻な崖によって区切られている。遺構面は、段丘の平坦部分に集中していたが、一部は斜面側においても残存が確認された。

平安～鎌倉時代の遺構 検出された遺構は、弥生時代後期と平安時代のものである。後者のものでは柱穴が多く、掘立柱建物1棟を確認した。

掘立柱建物 建物は東西4間・南北2間の構造で、南側に庇を有する。柱穴のうち5基には、柱痕が長さ40～50cm分残存していた。柱穴内には、根石を用いる場合と用いない場合があり、柱根が残存する場合にも両者は混在していた。柱穴内には、柱の抜き取りに際して、土器や平坦なあるいは円柱状の結晶片岩の礫を含むものがみられた。廃絶時の祭祀の痕跡をとどめる。

出土遺物 出土遺物には土師質土器、瓦器などがみられ、遺構内出土のものでは供膳具の比率が高い。12世紀後半に位置づけられる。

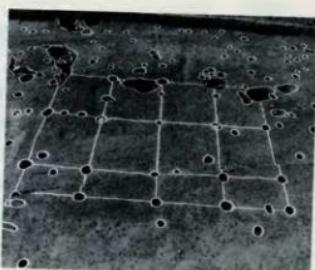
弥生時代の遺構配置 弥生時代の遺構は、段丘の平坦部分よりやや北側に中心をおく。竪穴住居13軒はじめ、溝・土坑などの遺構が確認された。

竪穴住居のプランには円形のものと隅丸方形のものがある。円形のものが古い段階のものとみられ、円形プランのものが規模は概して大きい傾向がみられた。

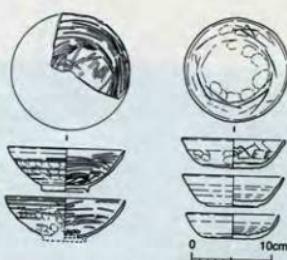
5号住居 5号住居は一辺5.5mの隅丸方形のプランを有する。主柱穴は4基で、中央に不整円形の炉を築く。周壁溝は住居の内周をほぼ全周



1 調査地点の位置 (池田)



2 3区掘立柱建物



3 3区柱穴内出土土器

するが、幅が約35cmと幅広く、住居外北西方に延びていることから、排水に対して特別の配慮を行っていたことがわかる。

7号住居 7号住居は5号住居に隣接しており、隅丸SB1007 方形プランを有する。炉や周壁溝においては、通常の住居と変わらないが、中心部側に焚き口を設け、上部に煙出を有する焼土による特殊なトンネル構造を4基備えている。現状ではその用途は不明である。

住居内での遺物の出土量は少なく、廃棄場所は決められていた（13棟のうち2号住居と5号住居の2棟）。したがって、それぞれの遺構の年代を決めるのにはやや困難が伴う。

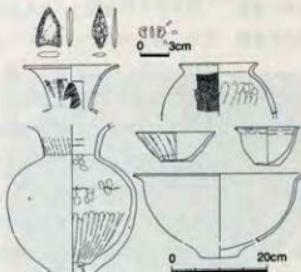
全般的には弥生時代後期後半の範疇におさまり、一部に前後の時期のものも含む。

出土遺物 3号住居ではヒスイ製の勾玉が出土し、2号住居の廃棄土器中には、弧帶文を描く壺形土器が含まれていた。

まとめ 井出上の弥生集落は、地形などからみて最大で40棟の規模をもっていたと考えられる。吉野川上流域の拠点的な集落とはいえないが、地理的な条件や出土遺物からみて、物流や交易・生産に関して一定の役割を果たしていたのではないかと考えられる。(藤川)



4 5号住居完掘状況



5 弥生時代の出土遺物



6 遺播配置圖

あい　ち 相 知 遺 跡

所 在 地 三好郡川町西井川

調査期間 1996年4月3日～1997年3月11日

担当者 藤本 横田 丸岡 石本 元村 藤川

調査概要 路線延長約300mにわたる調査範囲内に、扇状地や沼地などの多様な立地条件を備えている。遺構は東西両側に広がる扇状地上を中心検出された。

3区の遺構配置 遺構は調査区全体に1,000基余りが検出されているが、そのほとんどは3区および6区におけるものである。これらの他には、7区の谷川の傾斜地の二次堆積土中には、鎌倉時代を中心とする土器が多く含まれているが、隣接する地点での同時期の遺構は確認されなかった。

南西から北東方向に流れる自然流路を夾んで、二時期の遺構が確認された。北西側には、弥生時代後期のピット群及び掘立柱建物1棟が検出された。周辺の包含層中の遺物には、混入が少なく、後期前半に位置づけられる。

自然流路の南東側には、大きく弧を描く溝で囲まれた掘立柱建物群が検出された。建物は東西あるいは南北に主軸をそろえている。3号建物(SA1003)は東西主軸の2間×4間の規模をもち、南側に庇を有する。東側にも庇になりうる柱穴を確認している。

柱穴内には、根石として平坦な結晶片岩の石材を納めているものがまれにあるが、遺構内で得られた出土率は低い。

遺構群は、包含層中の遺物から8世紀後半を中心とした年代の構築が考えられる。石製巡方が1点出土している。

6区の遺構配置 南から北への傾斜地にあり、発掘前の段階では、十数面の水田面であった。従って、包含層は削平部分には遺存せず、盛り土部分に良好な状態で堆積していた。



1 調査地点の位置(池田)



2 3区遺構配置図



3 6区掘立柱建物群

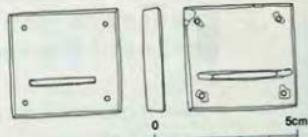
約500基の遺構が検出されたが、粗密の著しい分布状況であった。東西に伸びる溝の北側一帯には、柱穴および土坑の密集する範囲がある。現段階で3棟の掘立柱建物が復元されており、建物の棟数は検討によりさらに増えるものとみられる。建物は2間×4間が主流で、東西あるいは南北に主軸を探るが、正方位ではなく地形の傾斜に合わせている。

遺構内からの遺物の出土の比率は低く、遺構単体での年代決定の根拠は薄い。しかし、包含層中から出土した弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、鎌倉時代の各期の遺物は、遺構群に合わせて分布の範囲を異にしている。上記の掘立柱建物の場合、奈良時代後期のものと平安時代のものとが混在していると現状では考えている。

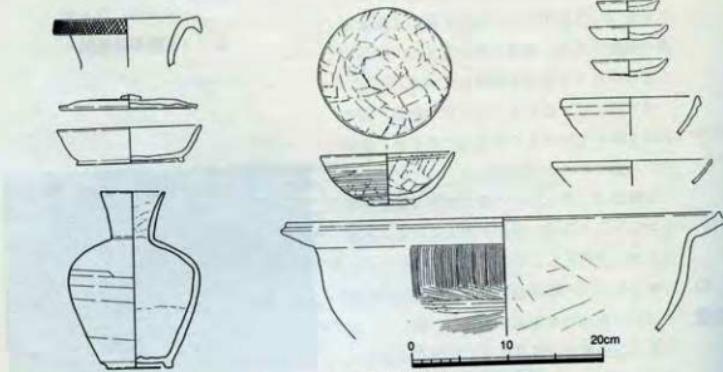
まとめ 今回の調査成果の中で、最も注目されるのは、3区の掘立柱建物群である。郡衙であるとするには、建物の配置や柱穴の掘り方などに、規格性において十分な条件を備えているとは言い難い。しかし、遺跡の通交上のすぐれた立地条件や、遙方の出土などの点を考慮すると、公的な性格を強くもつ遺構群とみることができると。(藤川)



4 6区完掘状況



5 3区出土石器巡方



6 7区出土土器

つか お塚古墳

所在地 三好郡池田町字トウケ106-1他

調査期間 1996年4月1日~10月31日

担当者 白井 石本

調査概要 本遺跡は徳島県池田町の吉野川を見下ろす河岸段丘上の標高120m付近に位置する。標高の低い北よりの調査区では遺物包含層、中世遺構面とともに安定していた。ここでは、從来地元住民から「お塚さん」と呼び慣わされてきた2基の積み石について述べる。

1号塚 1号塚は地山から3mあまり盛り上がった小山状を呈する。積み石は3つに分層でき、第1層は大小様々な礫を無造作に積み上げる。この中に広範な時期の遺物が混入する。第2層はオリーブ褐色の粘土質に15cm程度の礫を配している。埋土から中世土器のみ出土することから中世段階で構築された可能性が高い。第3層は地山整形のための土と見られる。

2号塚 2号塚も1号塚より低いながらかな丘状をしている。上部の小礫層を除去すると、水平に配置された長方形の岩と、放射状に置かれた岩石群からなる二重の囲みが検出された。

埋土内では遺物がほとんど出土しなかったが、内側の囲み内で骨が2点出土している。これが人骨であるかは今後の分析結果を待たねばならない。

まとめ 調査の結果、両塚とも古墳でないことが判明した。1号塚は、第2層の本来の姿が残されていなかったため、遺構の構築時期や目的が特定にくい。しかし第1層とそれ以下では積み上げ・堆積の状況が全く異なる点が視できない。2号塚は墓と考えるが、その構築時期、墓としての性格を失った時期、上部小礫層の積み上げ時期とその目的等不明な点を多く残している。(石本)



1 調査地点の位置（池田）



2 1号塚・第2層検出状況



3 2号塚囲み部分検出状況

やま だ 山田遺跡(I)

所在地 三好郡池田町字ヤマダ557他

調査期間 1996年8月1日~9月30日

担当者 原 藤本

調査概要 山田遺跡(I)は吉野川南岸の標高約150mの北に張り出した尾根の島山谷川沿いの南西斜面に位置する。調査区内の斜面部に結晶片岩の巨岩が庇状にせりだした地点が3カ所確認され、岩陰遺跡の可能性が高いため、西から順に岩陰A、B、Cと遺構名を付け本調査を実施した。3カ所の岩陰のうち岩陰Aにおいて縄文時代の岩陰遺跡であることが確認された。

主な遺構 調査区南東隅の南西斜面に庇状に突き出た岩陰A 高さ約5m、幅約3mの結晶片岩の巨岩の陰に占地している。島山谷川までの直線距離は約20mである。調査区は急斜面のため、土砂の流出が著しいものの、岩の直下では遺物の出土レベルは比較的安定している。

今回の調査で確認された岩陰Aからは、縄文時代の深鉢と考えられる鋸歯状の沈線文・刺突文の文様が加飾された土器片や条痕文のある土器片のほか、サスカイト製の盤状剥片・石錐・剥片・碎片、結晶片岩製の叩石・磨石など約100点の遺物が出土した。時期的には縄文時代前期頃と思われるが、類例に乏しいため即断は避けたい。また明確な遺構は検出されなかつたが、焼土・炭化物が集中する焼土面と思われる痕跡を2ヶ所確認した。

まとめ 徳島県における縄文時代岩陰遺跡の調査は3例目であり、また県内では縄文時代遺跡は数例しか確認されておらず、本県における縄文文化を研究する上で重要な資料となろう。遺跡の性格としてはキャンプサイト的な使用が考えられるが、今後の資料の蓄積を待ち、さらに検討を加えていきたい。(原)



1 調査地点の位置(池田)



2 岩陰A全景



3 縄文土器・石器

わ だ 遺 跡

所在地 三好郡池田町佐野字和田308番地他

調査期間 1996年8月1日～9月31日

担当者 近藤理 寒川

調査概要 愛媛県との県境に近い、馬路川左岸の標高276mの河岸段丘上に位置する遺跡である。

試掘調査で溝もしくは自然流路と思われる造構が確認でき、面積にして1,100m²の部分を本調査することとなった。検出された遺構は自然流路1条、井戸1基である。

自然流路 調査区の中央で検出された自然流路である。

SR1001 調査区内では、南北に走り、総延長60m、幅6.3m、深さ1.05mを測る。流路の断面は弓状を呈し、覆土は大きく上、中、下の3層に分けることができる。上層はにぶい黄褐色粘質土、中層は黄褐色粘質土、下層は炭化物を含む暗褐色粘質土である。遺物は、上、中層からの出土がほとんどである。また、土師質土器の鍋、釜、皿、瓦質土器、西村窯系の須恵質土器、青磁碗など平安時代末～室町時代にかけての遺物が最も多く出土しているが、上層の最上面から寛永通宝、キセルなど近世の遺物も出土しており、流路が完全に埋没した時期は、江戸時代と考えられる。

まとめ 本調査により、和田遺跡は中世～近世の遺跡であることが判明した。遺跡の南東約5kmには、承久の乱（承久3年、1221年）の戦功で阿波の守護に任せられた小笠原長清により築城された大西城がある。この大西城の出城として、佐野城が和田遺跡付近に存在していたことが、『城跡記』の記載から推定できる。今回の調査は、中世～近世にかけての遺構、遺物が確認できたことから、佐野城との関連と徳島県西部の歴史を考える上で貴重な発見と言えよう。（近藤理）



1 調査地点の位置（観音寺）



2 SR1001 完掘状況



3 遺物出土状況

縦貫道関連試掘調査

所在地 発掘調査一覧表参照

調査期間 1996年4月～1997年1月

担当者 近藤理 佐野 荒瀬 寒川 宮本明
山田

田上遺跡(II) 脇町西田上644に所在。岩倉城本丸推定地に隣接する宅地跡を試掘したが、現地盤から5m下まで擾乱を受け、遺構・遺物とも確認できなかった。

西大佐古遺跡 美馬町字空落93他に所在し標高約135mの肩状地上に位置する。宅地造成時の削平が著しく表土直下に地山が露出しており、遺構・遺物を確認することはできなかった。

宮ノ岡遺跡 三好町大字足代字宮ノ岡319-1他の吉野
(I)(II) 川北岸の標高約30mの低位段丘上に位置する。吉野川の洪水と思われる層序の逆転現象がみられ、遺構を確認することはできなかつた。

台遺跡 三好町大字足代3106-1他の吉野川北岸の標高約80mの中位段丘上に位置する。調査地の大半は、近世以降の削平が著しく、遺構・遺物を確認することはできなかつた。

円通寺遺跡 三好町大字足代字美濃田1541他の吉野川北岸の標高約96mの段丘上に位置する。今年度、本調査を行っている北側に隣接するが、遺構を確認することはできなかつた。

井内遺跡 井川町西井川1405-1他の吉野川南岸の標高約121mの山腹の急斜面上に位置する。現状は、段々畑・棚田になっており、その時の造成工事で大半は削平・擾乱を受けている。残存部分で炭窯跡を検出できたので調査を行った。それ以外は、本調査の必要はないと判断した。

井出上遺跡 井川町西井川1490他の吉野川南岸の標高約124mの上位段丘上に位置する。本年度に本調査を行っている地域の南側に隣接している。今回の試掘では、弥生時代後期を中心と



1 調査地点の位置（脇町）
①田上遺跡



2 調査地点の位置（脇町）
②西大佐古遺跡



3 宮ノ岡遺跡全景

する遺物が出土し、土坑・柱穴・溝状遺構等も検出することができた。

坊遺跡 井川町西井川210-3他の吉野川南岸の標高約106mの中位段丘上に位置する。遺構面を確認し、遺構から平安時代末～鎌倉時代初期にかけての底部に回転ヘラ切り手法を用いた土師質土器の小皿が出土した。

末遺跡 井川町西井川88-2他の吉野川南岸の標高約147mの高位段丘上に急な傾斜面に位置する。調査地は、烟の造成や鉄道・農道建設による削平や擾乱が著しく、遺構・遺物を確認することはできなかった。

須賀遺跡 井川町西井川104他の吉野川南岸の標高約107mの中位段丘上に位置する。弥生時代後期の甕の口縁部が多量に出土していることから、弥生時代後期の遺構面が存在していると思われる。

和田遺跡 池田町佐野字和田308他の馬路川北岸の標高約276mの河岸段丘上に位置し、対岸に戦国期の佐野城主の居宅跡がある。南北にのびる幅約4m・深さ約1.2mを測る大溝を検出し、遺構内から土師質土器片・須恵質土器片、瓦質土器片等が出土した。出土した遺物より中世の遺構と思われる。(佐野・近藤理)



4 井出上遺跡土層堆積状況



5 和田遺跡遺物出土状況



③宮ノ岡遺跡 ④台遺跡 ⑤円通寺遺跡 ⑥井内遺跡 ⑦井出上遺跡

⑧坊遺跡 ⑨末遺跡 ⑩須賀遺跡 ⑪和田遺跡

6 調査地点の位置(池田、観音寺)

かん のん じ 觀音寺遺跡

所在地 徳島市国府町觀音寺

調査期間 1996年9月18日～1997年3月7日

担当者 田川 下内 吉田 志磨 瀬部 河野

調査概要 鮎喰川左岸の標高7.9～9.0mの沖積地上に立地する。調査地は道路等で区切られているため便宜的に調査区を設定し、また南側の一部は矢野遺跡にあたり水路がかかるため、その移設に伴い今回の調査を行った。よって、一部矢野遺跡を含む。

豊穴住居跡 SB3001 3区の北側に位置する。円形に近いプランをもち北側の調査区外へと延びる。長軸約5.7m、深さ約0.5mを測る。SB3011を切る。浅い周溝をもち、床面直上には焼土および炭化物が広範囲に拡がっている様子が確認できたが貼り床はみられない。遺物は弥生土器の他に石鐵などが出土しており、加えてサヌカイトのチップが味面付近から出土していることから石器製作住居跡の可能性も合わせて考えられる。

時期的には出土土器から弥生時代後期と考えられる。

流 路 SR3001 本年度調査の矢野遺跡北側調査区から続く流路である。南西から北東方向へ流れをもち西側は立ち上がりを確認できたが東側は調査区外へと続く大規模なものである。出土遺物はほとんどのものが流れ込みと思われるが、希に完形のものもみられる。浅いくぼみに土器溜まり状に甕や高杯などの出土もみられた。

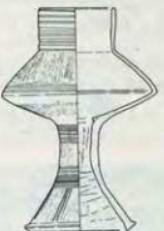
掘立柱建物跡 SA2001 調査区の南東側で確認された。主軸方向はほぼ北を向いており、旧条里の方向と合致する。柱間は2間×4間で構成されており、間尺は東西約1.6m、南北約1.8mの規模を測る。各ビットには柱痕跡が確認できた。出土遺物は、復原できるほどの良好なものはなく



1 調査地点の位置 (川島)



2 SB3001 全景



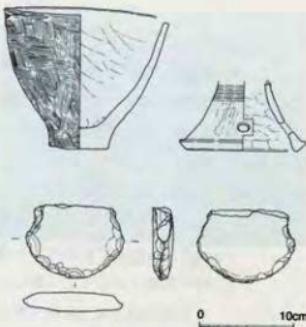
3 SR3001 出土遺物

すべてが小破片であり、量的にも少ない。しかし、平面プラン及び各ピットの形状からみて時期的には古代に相当するものと思われる。

まとめ 今回の調査では、南側の矢野遺跡から調査区が連続しているため大方は予想し得た。中世では1区から掘立柱建物跡が3棟確認された。また2・3区からは、東西方向とそれに直交する溝状遺構が数条確認されており明確な企画に基づき遺構が構築されているという判断は困難であるが、方位に軸をあわせていることから区画を目的として構築された遺構であると思われる。

古代においては、当初これまで行われた国府養護学校地点などの周辺の調査地点の成果により阿波国府推定域の南縁に位置することが予想でき、大溝などの検出が見込まれたが、国府城を推定させるような遺構は確認されず、掘立柱建物跡以外には各調査区ともピットが主となる遺構であった。

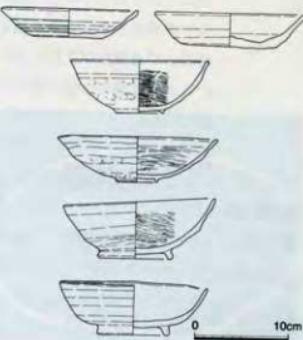
弥生時代の遺構では、2区の北側から3区にかけて竪穴住居跡が数軒確認されている。住居跡群としての密度はさほど高くはないが住居跡同士の切り合いもみられ、恒常に生活空間としていたことが伺える。また、1から2区の南側にかけては矢野遺跡から続く流路が数条確認されており、流路の水際までが集落の生活範囲であったことが考えられる。さらにはこの流路を境として矢野遺跡の同時期の集落とは異なるムラが本地点より北側もしくは北西側に展開していたと思われる。観音寺遺跡の全容の解明は、国府城の構成や弥生時代の集落の展開を含め今後の調査に期待したい。(田川)



4 弥生時代出土遺物



5 SA2001 全景



6 古代出土遺物

やの遺跡

所在地 徳島市国府町矢野字せんだんの木454-1他

調査期間 1996年4月3日~1997年2月28日

担当者 氏家 渡邊 元木

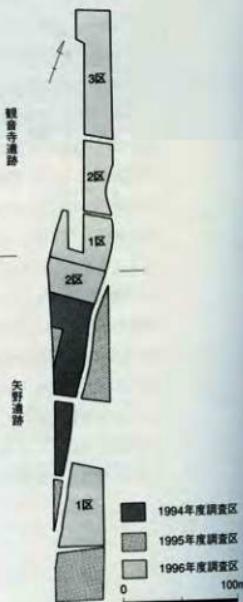
調査概要 鮎喰川下流の沖積地に位置する矢野遺跡は、平成4年度から調査が継続して行われている。これまでに出した遺構や遺物は弥生時代後期を中心としており、河川によって区画された微高地に約50軒の竪穴住居跡の存在が明らかになっている。また平成6・7年度の調査においては、国府推定域の南縁周辺の地点より古代の遺構がまとまって検出されており、国府周辺に存在した集落の可能性も想定されている。その他に弥生時代遺構面下約1mの層には縄文時代後期の遺構面の拡がりが確認されており、現時点で遺物量、面積ともに県下最大の縄文時代遺跡であることが判明している。今年度の調査では、これら3つの時代の遺構群の拡がりを確認することを目的として実施された。

縄文時代 縄文時代後期の遺物包含層は昨年度と同じく、中津式~縁帶文成立期にかけての遺物が層位的に上下関係をもって確認された。遺構面は4枚存在しており、住居跡、焼土、土坑などが検出されている。縄文時代の遺物包含層および遺構面は1区においては確認されているが、北側の2区においては存在が確認できなかった。このため遺跡の拡がりは調査対象区内に置いては南北約250mの範囲に拡がっていることがわかった。

住居跡 中津式の遺構面において検出された住居跡SB6001である。長軸約6m、短軸約4mの梢円形で掘り込みはみられない。中央部分に地焼炉が設けられており、周間に柱穴が10基存在している。床面には炭化物粒が多くみられた。

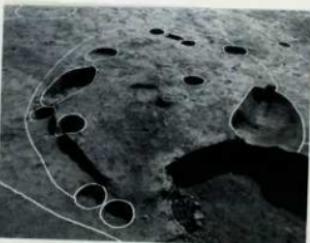


1 調査地点の位置 (川島)



2 調査区配置図

自然流路 SR4003 中津式の遺構面において検出された自然流路である。調査区の南端を東西方向に流れしており、土器、石器類が多く出土した。特に注目されるのは土製仮面が1面出土したことである。土製仮面は縦15.8cm、横16.7cmの楕円形であり、口、眼の部分ともに孔が貫通している。眼部の孔径は約2cm、口部の孔径は約2.7cmで、紐孔などはみられない。鼻および眉の部分は粘土の貼り付けによって大きく隆起させているが、一部剥落している。側面形状はほぼ平板である。仮面の表面は茎または棒状の工具による刺突文が全面に施されている。



3 SB6001 全景

土 坑 SX3003 福田KII式～縁帶文成立期にかけての遺構から検出された土坑である。内部より水銀朱の精製に使用したと考えられる磨石が出土している。磨石の大きさは約15cm×10cm、砂岩の扁平な川原石を利用しておらず、側面部に朱の付着がみられた。



4 SR4003 遺物出土状況

弥生時代 弥生時代の遺構は主に1区の北側部分を中心検出されている。堅穴住居跡は7軒、その他は溝、土器溜まりなどで構成されている。遺構の年代は中期末から後期後半である。2区は中期末から後期前半の時期の自然流路で構成されているが、その間の狭い微高地上に壺形土器の体部と鉢形土器を利用した土器棺墓が出土している。土器棺墓の時期は後期後半である。

堅穴住居跡 SB2004 1区北端検出した一辺約3m、隅丸方形の堅穴住居跡である。検出面から床面までの深さは20cmを測る。4本柱の構造で中央部に炉を配している。床面からはサヌカイトの石礫とその製作時にでた碎片が多く出土している。



5 SX3003 遺物出土状況

土器溜まり SX2006 1区北半部で検出された土器溜まりである。下部に長軸4m、単軸2.5m、深さ0.6mの掘込みを有し、周囲に4本柱の上屋構造が存在していたと考えられる。大量の土器と共に柱

状片刃石斧などが出土している。

古代 初、古代の遺構群はこれまでの調査でもっとも遺構密度の高かった平成6年度調査区に隣接する2区において多くの遺構の検出が予想されていたが、2区の地形は北側に向かって緩やかに傾斜しており、遺構が途切れてしまうことが明らかとなった。1区では昨年度に検出された掘立柱建物跡群の続きとみられる建物が10棟検出されている。

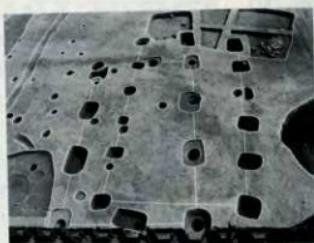


6 SB2004 全景

掘立柱建跡 1区北端部分で検出した南北3間、東西2間の建物跡である。柱間の幅は2~2.2mで、柱の掘り方は長軸約1.2m、短軸約0.8mで深度は約0.7mである。主軸方向は西におよそ8°ほど傾いており、昨年度調査区で検出された一群とも方位がほぼ一致している。時期は出土遺物から10世紀頃のものと考えられる。

中世 遺構は主に2区から検出されている。溝や井戸、小穴などで構成されており、明確な建物跡などは確認できなかった。

溝SD1001 2区北端で検出した溝である。幅約1m、長さ約23m、深さは0.4mで東西方向に流れていた。埋土中より羽釜、備前焼の擂鉢などが出土している。時期は15世紀頃と考えられる。



7 SA2007 全景

まとめ 今年度の調査により、縄文時代の遺跡の南北方向の拡がりが明らかとなった。遺構は焼土や屋外炉などをが多くみられるが、住居跡は1軒にとどまっている。また出土遺物も土器を主体とするが、石棒や土製品、水銀朱精製関連遺物などの祭祀関連遺物が出土しており、遺跡の性格などについては今後検討していくかなければならない課題である。

弥生時代の集落は銅鐸を保有した南の一群よりも古いものであり、矢野遺跡の集落構成の変遷を伺い知ることができよう。(氏家)



8 SD1001 遺物出土状況

えんめい遺跡

所在地 徳島市国府町延命

調査期間 1996年9月18日～1997年3月28日

担当者 小泉 中川 坂東 牧野 山田

調査概要 本遺跡は鯖喰川左岸下流域標高12mを測る。本遺跡の北側には弥生時代を中心とする県下最大級の矢野遺跡が位置し、矢野遺跡の縁辺部がどのようにになっているのか注目された。調査区は水路を挟んで3区に別れ、1、2区より弥生時代後期の竪穴式石室、土塙墓、集石墓、土器棺墓と平安時代の掘立柱建物跡、5区より平安時代の3枚の水田を検出した。

ST2012 竪穴式石室 調査区の中央付近に位置する。耕作土直下より石室の上部が検出されたため墳丘は明確ではない。墓壇南側部分は砂層が堆積しておりプランはやや不明瞭であるが不整隅丸方形状を呈し、規模は現状で長さ3.6m、幅1.6m、深さは35cmを測る。石室は北側のみ確認できだが、墓壇南端付近は砂層がせり上がっており側壁の痕跡も確認できなかった。石室は東側がやや丸みを帯び、規模は内法で長さ2.6mを測る。石材は砂岩の河原石を使用し、3段ほど残している。側壁は基底部に20cm前後の河原石を並べ上部2段に40cmの河原石を持ち送って積んでいる。石室床面は砂層が部分的に認められるが断面観察をするとU字状を呈した木棺痕跡が認められ、現存長2m、幅40cmを測る。木棺は東側がやや隅丸状、西側が方形状に検出された。主軸方位はE13°Sである。棺内より出土遺物は認められなかつたが、時期は土器棺墓により弥生時代後期に位置づけられる。

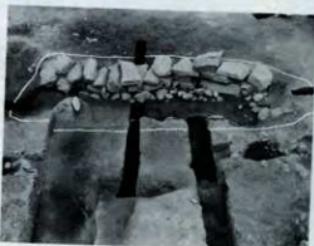
石列 竪穴式石室を囲むように南東・北西両側から検出された。直径40cm大の石を西側部分では半円形状に並べ、円形の中央やや東寄りよ



1 調査地点の位置 (川島)



2 ST2012 掘り下げ状況



3 ST2012 掘り下げ状況

り「コ」の字状に石を巡らしている。規模は「コ」の字部分で長辺40m、短辺2mを測る。南東の石列は部分的に石を2段に組み合わせている。また、堅穴式石室の南西からは鹿の線刻のある土器が出土したことから、祭祀が行われていた可能性がある。

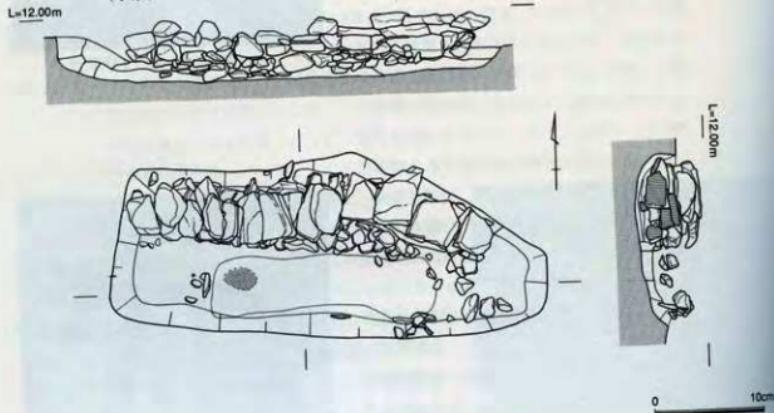
土器棺墓

壺形土器を転用した土器棺墓が堅穴式石室を取り囲むように10基検出された。墓壙を掘り込み、土器を横位として埋置し、拳大程度の砂岩礫で囲むようにして被覆土をしていく。6号土器棺墓は、堅穴式石室の南側に位置し土器棺墓中もっとも残存状態がよい。墓壙は、長軸97cm、短軸60cm、深さ50cmの梢円形のプランを測る。棺の中心軸はE20°Sである。棺は頸部以上を打ち欠いた壺形土器を棺身とし、鉢形土器を蓋として使用している。時期は弥生時代後期にあたる。

まとめ

今回の調査により矢野遺跡の縁辺部に墓域が存在することが明らかとなった。今後さらなる検討が必要であるが堅穴式石室は沖積地においては県下で類例が少なく、当該期における墓域を研究する上で貴重な資料となる。

(小泉)



6 ST2012 平・断面図

かん のん じ 觀 音 寺 遺 跡 (試掘調査)

所在地 徳島市国府觀音寺455-1他

調査期間 1996年5月7日～1996年5月28日

担当者 氏家

調査概要 鮎喰川下流の沖積地上に立地しており、南側は矢野遺跡と隣接している。標高は6～9mであり、北に向かって緩やかに傾斜している。現状は水田となっている。周辺部は徳島市教育委員会によって阿波國府跡の確認調査が行われており、国府推定府域の設定が行われている。今回の試掘調査の対象範囲は南北約750mにわたるものであり、その大半の部分が国府推定府域の中となっている。

今回の調査では対象範囲の全域において遺構または遺物包含層が確認された。矢野遺跡と隣接した南側については弥生時代を中心とした遺構が主体となっており、矢野遺跡とは並行した時期において集落が形成されていたと考えられる。一方北側では中世の遺構、遺物の割合が増加しており、比較的低地部分においても集落が存在している可能性がある。古代の遺構、遺物は対象地のほぼ全域から検出されている。特に舌洗池西側の自然流路周辺に集中しており、まとまった遺構の検出が期待される。(氏家)



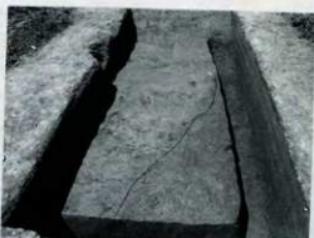
1 調査地点の位置 (川島)



2 調査地点の現況



3 中世遺構面検出状況



4 古代遺構面検出状況

庄 遺跡（大蔵省藏本住宅宿舎地点）

所在地 徳島市庄町1丁目77

調査期間 1996年4月1日～5月31日(C・D調査区)

1996年8月1日～11月30日(B・E調査区)

担当者 前川 湯浅

調査概要 本調査は、大蔵省藏本住宅宿舎新営工事関連埋蔵文化財発掘調査である。遺跡は、鮎喰川右岸の沖積低地に形成された微高地上に位置する。現地標高は4.3mを測る。昨年度の調査では、縄文時代の自然流路が検出され、縄文晩期の深鉢・浅鉢が出土した。

今年度は、昨年度の調査区の北側をD調査区、西側をB・C・E調査区として設定した。

今年度の調査では、縄文時代後期から近代までの遺構・遺物が確認された。

主な遺構・遺物について概観すると、C調査区では、土壙墓(ST1001～1003)が検出された。ST1001は、隅丸方形を呈し、長軸2.86m、短軸1.21m、深さ約50cmを測る。馬骨・蹄鉄が出土し、練兵場との関係が推察される。

B調査区では、自然流路(SR2001)を検出した。幅17m、深さ3m以上を測り、南北方向に走る。主な遺物は、弥生土器・石器・須恵器・呪術行為に関連したと考えられる墨書き土器・人形などである。自然流路の最深部では、弥生前期の壺、甕、木葉紋を施した土器片など数点出土している。

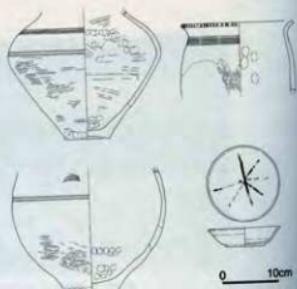
また、D調査区においても自然流路を2条(SR2002・SR3002)検出しており、庄跡内に自然流路が錯綜している状況をさらに裏づける結果となった。B・E調査区では、縄文後期の土器片が数十点出土しており注目される。本地点においては、第3期工事分も発掘調査が予定されており、次期調査に期待が持たれる。(湯浅)



1 調査地点の位置(徳島)



2 B区 SR2001 柱出状況



3 出土遺物

しんくらちょういつちょうめ 新蔵町1丁目遺跡（県警新蔵宿舎地点）

所在地 徳島市新蔵町1丁目62-2

調査期間 1996年6月1日～9月30日

担当者 逢坂 福良

調査概要 本遺跡は、県警察新蔵宿舎建て替え工事に伴って調査されたものである。調査地点は、吉野川の分流によって形成されたデルタ上に位置し、近世には徳島藩士の武家屋敷が存在したところである。

調査面積は220m²と小さいが、屋敷境と考えられる溝の遺構が数本検出され、その中からは大量の遺物が出土した。最も新しい溝は、18世紀後半に造られたと考えられ、丸太を敷いてその上に石を並べた石垣溝である。古い溝は、出土遺物から判断すると、蜂須賀家政が阿波に入国した16世紀末頃のものであると考えられる。また、石を精緻に組んで造った井戸も見つかり、ここが当時の武家屋敷の裏庭にあたるのではないかと想像される。

当時の絵図と重ね合わせると、江戸時代の前半には筆山氏、後半には山田氏の屋敷地であることが明らかとなる。溝の遺構からも山田氏の家紋「変ワリ橘」を示す軒丸瓦が數点出土している。

出土遺物 揭示した1は京焼系陶器「注連繩文茶碗」、2は中国製の輸入磁器である。山田氏の愛用したものだけあって、相当上手のものも含まれている。器種はかなり豊富で、生産地も多様である。

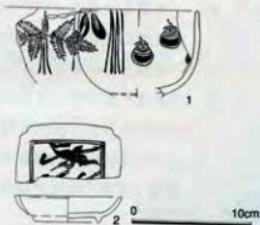
まとめ 遺物の種類や使用方法を具体的に調べると武士の生活実態がわかつてくる。また、遺物の生産地や年代が確定すれば当時の焼き物の流通経路も明らかになるだろう。屋敷境の形態については、徳島城下では調査が十分に進んでおらず、他の城下町と比較した研究が望まれる。（福良）



1 調査地点の位置（徳島）



2 完掘状況（SD101）



3 出土遺物

きたうち 北内遺跡

所在地 徳島市多家良町北内46-3他
調査期間 1996年12月9日～1997年1月31日
担当者 石尾 市村

調査概要 本遺跡は、多家良地区県営圃場整備事業によって調査されたものである。調査地は勝浦川と八多川の合流点の北西に位置し、低平な沖積地となっている。現在では、八多川は天井川となっており、八多川北岸に位置する今回の調査地は八多川の河床よりも低位である。近世史料によても洪水によって川成地になったことが記されている場所にあたる。

しかし、当地は平安時代末期に立莊された仁和寺領勝浦莊の一部にあたると推定されており、和名類聚録に記された「託羅郷」が現在の多家良町域に比定されることとあわせて、中世段階にまでさかのばる遺構・遺物の検出が期待された。

調査は用水路・道路工事部分に限ってトレンチ掘り下げによって進めたが、いずれのトレンチも耕作土・床土の下は砂礫混じりの粘質土や砾層となり、湧水が激しく、遺構を検出することはできなかった。

出土遺物 揭示した1の磁器碗や2のミニチュア土器（鍋）、3の灯明皿などの他、擂鉢など近世以降の遺物の細片が耕作土直下で散見されたのみである。

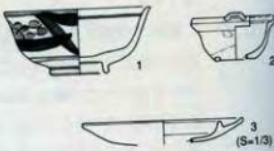
まとめ 本調査地点は、いずれのトレンチからも遺構の検出はできず、しかも湧水の激しい砾層が堆積していることから、八多川や勝浦川の氾濫原であったと考えられる。より山あいの谷間や八多川の自然堤防上に位置する現在の宮井の集落付近に調査が及べば、中世段階の遺構・遺物の検出が期待されよう。（石尾）



1 調査地点の位置 (阿波富岡)



2 調査前風景



3 出土遺物

なかむら中村遺跡

所在地 小松島市大林町中村123

調査期間 1996年10月1日～11月30日

担当者 福良 井利元

調査概要 本遺跡は、坂野地区県営圃場整備事業に伴って調査されたものである。調査地は那賀川が形成する沖積平野に位置し、かつては当地を那賀川の分流が流れていたと考えられる。また、付近には觀音山・能路寺山などの古墳が存在するうえ、立江寺にも極めて近く、調査区周辺が古代から栄えた地であることを想像させる。

調査は排水路及び道路予定地にトレッセを設定し、順次掘り下げる形で進めた。検出された遺構は、自然流路と中世の柱穴である。自然流路からは、古墳時代から古代の遺物が大量に出土した。とくに多かったのは須恵器の破片で、周辺からの流れ込みによるものだろう。

以上のような発掘成果から、本調査区は大きな流路の一部及び氾濫源にあたり、沼状の地形を呈していたものと推定される。

出土遺物 揭示した1は土師器の高台付杯、2は土器質の土鍤である。須恵器の出土が多いことが特色で、器種や文様は多岐にわたる。その他、瓦器、銭貨なども出土した。

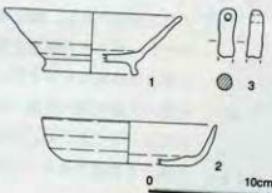
まとめ 今回の調査で、古墳時代以降の遺物が数多く出土したことは、大きな収穫であった。自然流路から多量の土器が発見されたことから、調査区周辺に集落が存在していたと予想される。今後の調査で、中村遺跡周辺の古墳時代以降の具体的な歴史的景観が復原されることを期待したい。(福良)



1 調査地点の位置 (阿波富岡)



2 土師器出土状況



3 出土遺物

おおよし遺跡

所在地 小松島市立江町大吉・青木

調査期間 1996年10月1日～12月9日

担当者 石尾 市村

調査概要 本遺跡は、立江・櫛渕地区県営圃場整備事業に伴って調査されたもので、昨年度に続く第2次調査である。

本調査地点は、立江町の集落の西側、立江川南岸の水田地帯に位置する。この地は、かつて那賀川の流路が安定していない段階では、羽ノ浦丘陵の途切れたところで北に向かう流れの作用によって砂州が形成された地域の西側にあたり、旧来の入り江である。現在でも「かんどり免」「湊」「船付」などという海に関わる地名が立江川流域に残るよう、この川はかつての入り江の名残である。

調査は、排水路工事部分にトレーニングを設定し、順次掘り下げる形で進めたが、いずれのトレーニングも耕作土直下から滯水性のある砂層が堆積しており、遺構を検出することはできなかった。

出土遺物 耕作土及び床土やその直下の客土から近世陶器類の細片が出土した。掲示した1は磁器碗、2・3は灯明皿、4は蛇の目軸刺ぎをした磁器皿、5は瓦質焰端である。この他、摺鉢や瓦を円形に打ち碎いた「加工円盤」などが出土している。

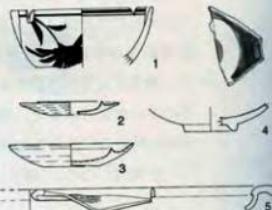
まとめ 昨年度同様、本年度の調査でも遺構を検出することはできず、調査地点がかつての入り江であったことを確認するにとどまったが、次年度以降圃場整備事業が西に拡張すれば、石清水八幡宮領の莊園であった櫛渕莊の莊域に関わってくるため、中世段階の遺構・遺物の検出が期待される。(石尾)



1 調査地点の位置 (阿波富岡)



2 調査前風景



3 出土遺物 (S=1/4)

かし ぼう 遺 跡

所在地 阿南市新野町櫻房59-2

調査期間 1996年12月1日～1997年1月31日

担当者 福良 井利元

調査概要

本遺跡は、新野地区県営圃場整備事業に伴って調査されたものである。調査区は桑野川と甘枝川に挟まれた田園地帯であり、調査区東北端で2つの川は合流する。調査区のすぐ南側には中世の山城である岡山城跡があり、また、新野町一帯には阿良多野庄とよばれる莊園が存在したとされる。

調査は排水路及び道路予定地にトレンチを設定し、順次掘り下げる形で進めた。調査区は南側から北側に向かってわずかながら傾斜している。岡山城跡に近い南側は微高地にあたり、柱穴や土坑が検出され、小さな破片まで含めると大量の遺物が出土した。遺物から判断して、土坑は古代のもの、柱穴は中世のものだと考えられる。桑野川流域の北側は古くからこの川の氾濫源であったと考えられ、遺構については何も検出されず、流れ込みによる遺物が出土したにとどまった。

トレンチの断面を観察することで、かつては川原であったところが造成されて水田に変えられたことが明らかになった。さらに、古い田の上に新しい田を造ったことや、古い田の畦なども読み取ることができた。

出土遺物

掲示した1は土師器の高台付杯、2は瓦器の椀、3は須恵質のこね鉢、4は石鏸、5は土師質の土鍤である。図示できなかったが、弥生土器なども採集している。

まとめ

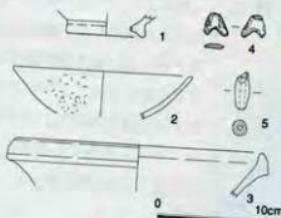
調査区南部からの出土遺物は弥生時代から中世までと、かなり多岐にわたる。歴史的な環境を考え併せて、当地に古くからの集落が存在していたのは明白であろう。(福良)



1 調査地点の位置 (阿波富岡)



2 土坑検出状況



3 出土遺物

分布調査

所在地 発掘調査業務一覧参照

調査期間 1997年2月1日～3月31日

担当者 近藤理 荒瀬 福良 井利元

調査概要 本調査は県営圃場整備事業に伴い、阿波郡切幡地区

市場町切幡の扇状地部分を中心に、約2カ月間分布調査を行った。分布調査対象地周辺には、縄文時代晩期の土器が出土した古田遺跡、弥生土器が出土した乾山～觀音遺跡、中世では秋月城がよく知られている。したがって、縄文時代から中世まで幅広い時期の遺物が分布していることが予想された。調査の結果、古代から中世の土器片が最も多く、その他須恵器、陶磁器、石器も採集していることから部分的に発掘調査の必要があると考えられる。

福井川地区 本調査は、福井川地区・椿地区県営圃場整備事業に伴う遺跡分布調査として実施されたものである。

福井川地区は、阿南市福井町の福井川流域の田畠を中心に調査した。福井町は発掘調査はほとんど行われていないが、付近には縄文時代の遺跡である中道遺跡や中世の山城であった福井城址の存在が知られている。今回の調査では中世の遺物を数点採集した地点もあり、部分的に発掘調査は必要であると判断した。

椿地区 椿地区は、阿南市椿町の椿湾南岸にひらけた田畠を調査した。椿町周辺は、船瀬遺跡、舞子島古墳、曲り銅鐸出土地点、野々島城址など遺跡の宝庫である。今回の調査でも、弥生土器の破片や古代の遺物を多数採集しており、多くの地点で発掘調査が必要であると判断した。(近藤理・福良)



1 調査地点の位置 切幡地区（川島）



2 調査地点の位置 福井川地区（阿波富岡）



3 調査地点の位置 椿地区（阿波富岡）

試掘調查

所在地：發揮調查一警未參照

調査期間 1996年10月1日～1997年3月28日

担当者 近藤理 菅原 泊 村田千 佐藤

市楽遺跡 本調査は、県道第十・白鳥線道路改良工事に伴う試掘調査である。市楽遺跡は、渡内川によって堆積された標高6mの沖積層の東岸に立地する。付近一帯は古代の条里制が残っているといわれている地域で、地表から約1m下に遺構面を確認した。遺物の量は少ないが、古代末～中世の水田遺構と思われ、本調査が必要である。

高泰・矢松 本調査は、県道船戸・切幡・上板線改良工事関連に伴う試掘調査である。遺跡は、九頭字谷川と鈴川によって形成された扇状地先端部に立地する。調査対象地域の西側の九頭字谷川に隣接している部分で表土下約0.5~0.8mで遺構面を検出した。遺構面は、第1遺構面を古墳、第2遺構面を弥生時代と設定し本調査を実施することにした。

阿南道路 本調査は、阿南道路改良事業に伴う試掘調査である。林崎、才見地区は、桑野川と打樋川の下流に挟まれた低湿地帯に立地する。

林崎地区 林崎地区は、海拔0m以下地帯で、表土を剥ぐと湧水状態になり、遺物包含層や遺構を検出できなかった。のことから、この地区で本調査の必要は無いものと判断した。

才見地区 才見地区は近辺に皇子山古墳があり造構の存在の可能性が高かった。遺物も第3層から弥生～古墳時代の土器片が出土し、造構面を確認するために詳細な調査を行った。その結果、第5層から中世～近世の土器片や古錢が出土したが、流れ込み堆積を示しており、造構面を検出することができなかった。よって、この地区で本調査の必要は無いものと判断した。(泊・近藤理)



1 調査地点の位置（川島）市森遺跡



2 調査地点の位置（川島）高森・矢松遺跡



3 調査地点の位置（阿波富田）阿南道路

矢野の遺跡

所在地 徳島市国府町矢野

整理期間 1996年4月1日～1997年3月31日

担当者 近藤玲 植地

整理概要 本遺跡は平成6年度に矢野遺跡第2分剖として、4,205m²の調査区の発掘調査を実施した。調査では第1遺構面で奈良時代後期～平安時代前期の道路状遺構が検出され、第2遺構面で弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭の竪穴住居跡や溝、自然流路などが検出された。整理作業は第2遺構面で出土した遺物を中心に、洗浄、注記、接合、復元、実測、トレース、レイアウトなどの各作業を行った。

発掘時に住居跡と断定できなかった遺構の一群について、今年度の整理作業で出土状況や土層堆積状況などを再確認した結果、溝であることが判明した。したがって、平成6年度の発掘調査では竪穴住居跡15軒、土坑39基、ピット25基、溝5条、自然流路2条、不明遺構5基が検出されたことになる。

出土遺物の大半は壺、甕、鉢、高壺などの土器で、石庖丁、砥石などの石器が若干ある。鉄器は自然流路から発見が1点だけ出土している。これらの出土遺物は、そのほとんどが溝から発掘され、ついで、竪穴住居跡からの出土も多かった。ただし、竪穴住居跡のなかでも出土遺物がほとんどないものもあり、今後、住居の廃絶について考察を深める必要がある。

出土土器のなかでは、朱が塗られてある鉢や壺が比較的目立った。また、弧帶文が描かれた土器が、矢野遺跡では初めて見つかった。徳島県下では黒谷川郡頭遺跡で同じようになに朱付きの土器と弧帶文が描かれた土器が出士しており、両遺跡の土器様式の類似性が指摘でき、非常に興味深い。(近藤玲)



SD2001 出土土器

ウエノ遺跡

所在地 三好郡池田町ウエノ

整理期間 1996年4月1日～5月31日

1997年2月1日～3月31日

担当者 逢坂 福良 石尾 市村

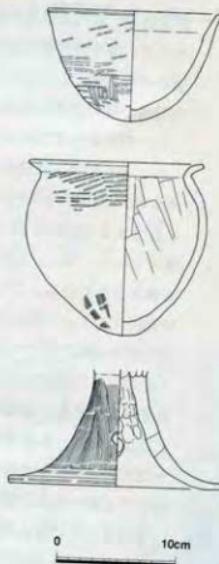


1 調査区遠景（北より）

整理概要 本遺跡は、池田警察署新築工事に伴って、1994年度に4000m²が、また1995年度に400m²が発掘調査されたもので、池田町ウエノの台地上に所在する弥生時代と室町時代を主体的な時期とする複合遺跡である。この台地は大正時代の旧制池田中学校の建設に際して出土した遺物より、縄文・弥生時代の遺跡として周知されていた場所でもある。特に、今回の調査で室町期の遺構・遺物が検出されたことは注目される。

今回の2次にわたる調査によって、弥生時代の竪穴住居8棟をはじめとして、掘立柱建物跡や室町期の柵列などが検出された。特に、この柵列はほぼ50cm間隔の13のピットからなるもので、そのうちの1つからは17枚の宋銭が出土しており注目される。そして、この台地上に所在した大西城との関わりも想定されるものである。一方、弥生時代の遺構として注目されるものに、直径10mを越える大型の竪穴住居が4棟検出されたことがある。

整理作業は、平成6年度発掘調査分を昨年度実施し、本年度は平成7年度発掘調査分の整理を行った。本年度は、遺物の洗浄・注記・接合、遺物実測、トレース、遺構実測図トレース、レイアウト作業を実施しつつ、遺物の写真撮影・観察表の作成・本文の執筆を行い、報告書作成に向けての全体的な作業を行った。報告書は平成9年度に刊行される予定である。（石尾）



2 出土遺物

いしいじょうのうち 石井城ノ内遺跡（石井・神山線地区）

所在地 名西郡石井町石井字城ノ内

整理期間 1996年4月1日～9月30日

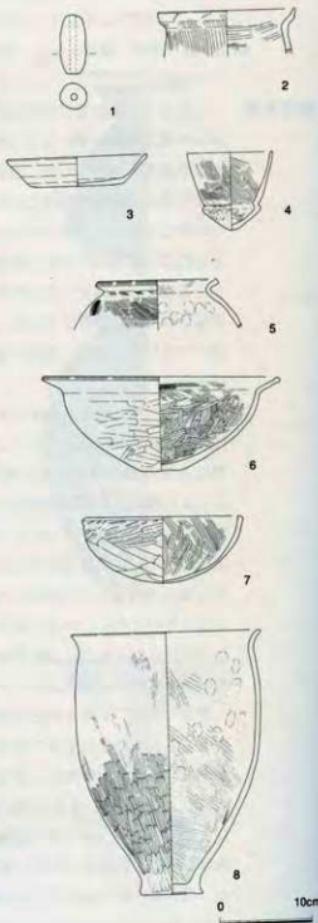
担当者 荒瀬 井利元

整理概要 本遺跡は県道石井・神山線道路改良事業に伴い、1次調査（1994年度850m²）、2次調査（1995年度1,700m²）、3次調査（1996年度2,700m²）、4次調査（1997年度1,300m²）にわたり、計6,550m²を調査したものである。本年度の整理作業は、1～3次調査の遺物について、注記、接合、復元などの基礎整理および実測、トレースなどの作業を行った。本遺跡の1～3次調査において検出された遺構は、溝58条、土坑113基、ピット213基、不明遺構26基、土器だまり2基である。遺物は、渡内川以北の調査区では、古代の遺物が大部分を占め、渡内川以南の調査区では、それに加えて、弥生時代終末期から古墳時代初頭の遺物が多数出土しており、3次調査では、弥生時代中期の遺物も出土した。

渡内川以北の調査区で検出された土坑の多くは、その形状・規模から土壙墓であると考えられ、その主軸はN10°Wあるいは、それに直交する方位を向いており、ほぼ等間隔に並んでいる。また、これと同方位に延びる溝も検出されている。この方位は、これまでに研究諸氏によって復元された吉野川下流平野の条里の地割方位と一致するものである。

また、布目圧痕などがみられる平瓦や、均整唐草文軒平瓦、綠釉陶器など、石井庵寺など近辺の寺院との関連を窺わせる遺物や、弥生時代終末期から古墳時代初頭の水銀朱の付着した土器の出土が確認された。

平成9年度には4次調査の整理作業が予定されており、報告書は平成10年度刊行の予定である。（井利元）



出土遺物

1次調査出土遺物 1、2 包含層 3 SP1271

2次調査出土遺物 4、5、6 包含層

3次調査出土遺物 7 SD3206 8 SD3119

庄遺跡（大蔵省蔵本住宅宿舎地点）

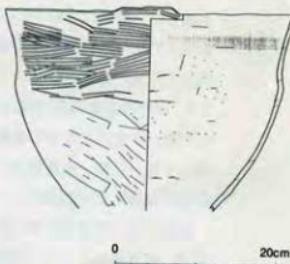
所在地 徳島市庄町1丁目77

整理期間 第1期工事分（A・C・D調査区）

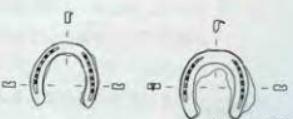
1996年6月1日～7月31日

1996年12月1日～1997年3月31日

担当者 前川 湯浅



1 SR3001 出土縄文土器



2 ST1001・1003 出土踏鉄

整理概要 本調査は、大蔵省蔵本住宅宿舎新営工事関連埋蔵文化財発掘調査である。

1995年度に608m²、1996年度に359m²の合わせて967m²につき発掘調査を実施した。その結果、縄文時代晩期から近代に至る遺構・遺物が確認された。整理作業は、遺物の洗浄、注記、接合、復元等の基礎整理及び、遺物の実測、トレース、レイアウト、原稿執筆等の作業を行い、併せて出土した縄文土器の類例調査及び土壌墓出土の獣骨の鑑定を関係機関に依頼し、蹄鉄の保存処理も行った。

遺跡は、鮎喰川右岸の沖積低地に形成された微高地上に位置する。遺構は、溝2条、土坑12基、柱穴4基、自然流路5条、土壌墓3基が検出されている。時代の判明するものについては、縄文時代の自然流路1条、弥生時代の自然流路1条、古代の溝1条、土坑2基、中世の自然流路3条、近代の土壌墓3基等である。

縄文時代の自然流路からは、縄文晩期の深鉢・浅鉢が出土した。遺物は、あまり磨滅しておらず、互いに隣接している遺物が接合された。また、深鉢の外面には、煮こぼれて炭化し付着したが多く、浅鉢には補修孔をもつなど、非常に生活臭を感じさせる。類例調査から篠原式中段階の一括資料であると考えられる。

土壌墓からは、馬の骨（ほほ一頭分）やそれに伴う蹄鉄が出土し、練兵場との関連が推察される。

報告書は平成9年度刊行予定である。（湯浅）

しんくらちょういっしちょう め
新蔵町1丁目遺跡（企業局総合管理センター地点）

所在地 徳島市新蔵町1丁目86

調査期間 1996年10月1日～1997年3月31日

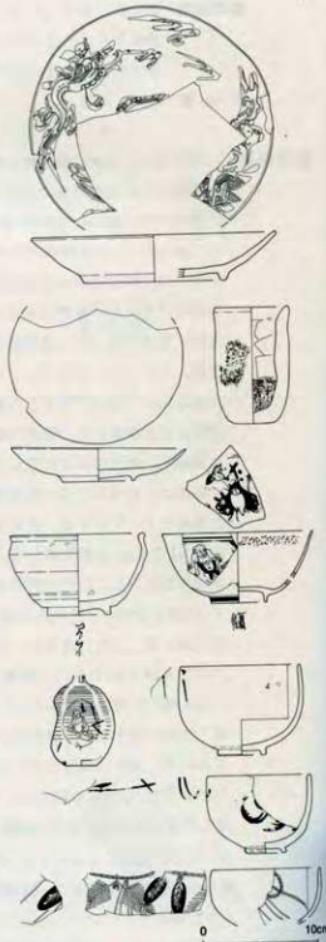
担当者 逢坂 日下

整理概要 本遺跡は徳島県の総合管理センター建設事業に伴い、平成4年度に600m²の発掘調査を実施した。遺跡は吉野川河口低地に広がる三角州上にあり、1587年に蜂須賀氏が徳島城を落成した後、形成された城下町の武家屋敷跡から、建物の基礎部分、屋敷境を構成する溝、石列及び多数の土坑等の遺構と大量の陶磁器類、土器、瓦類、金属製品、木製品、骨格製品等の遺物を出土した。

整理作業は遺物の洗浄、注記、接合復元、実測、写真撮影を行い、陶磁器、土器類の胎土、施釉技法、成形技法、器形、文様等の特徴により器種、産地、年代等の分類を行い、各遺構の実年代を追った。その結果、江戸時代を中心として安土桃山時代から明治時代初頭におよぶ、肥前系、瀬戸・美濃系、京・信楽系、三田・王子山系を含む関西系の陶磁器、中国系の磁器、備前系、丹波系、堺・明石系の炻器、大谷焼をはじめとする在地系の陶器、土器等が確認され、当時の製品流通と生活形態を知ることができる。

18～19世紀中葉の京・信楽系の灰釉の陶器碗類のうち、体部外面に注連縄文を赤、金、緑色等で上絵付けし、その反対側には海老や宝珠を同様に描いたものもある。これら特異な文様を有する碗類は、所謂「茶碗」の一種であり、徳島藩の正月行事に使用された、徳島固有の出土遺物として特に注目されるところである。

引き続き平成9年度に整理作業、執筆を行い、報告書を刊行する予定である。(日下)



出土遺物

しんくらちょういいつちょうめ
新蔵町1丁目遺跡（合同庁舎地点）

所在地 徳島市新蔵町1丁目35番地

整理期間 1996年10月1日～1997年3月31日

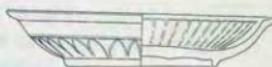
担当者 上藤 宮本宏

整理概要 本遺跡は平成6年度900m²の発掘調査が実施された。発掘調査では、蜂須賀が入国した16世紀末から幕末にかけての遺物が出土し、遺構を検出した。整理作業は、遺物洗浄・注記、接合・復元、遺物実測、トレース、写真撮影等の作業をおこなった。

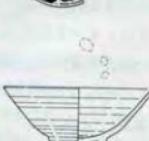
合同庁舎地点は、佐渡（1,500石）と戸田（200石）の屋敷境が調査地中央を走る。江戸時代を通してその位置にほとんど変化がないため、屋敷境の区画方法の変遷を追うことができる。調査では、幕末、18世紀後半から19世紀初頭、16世紀後半から17世紀前半の3面で遺構を確認した。第1面では井戸の構造と柱の基礎下部に杭を打ち込んだ基礎土工の跡や版築跡、第2面では屋敷境を決める最大幅3.5m前後の2条の溝の存在を、第3面では、掘立柱列によって区画される屋敷と肥前陶磁器搬入以前の土坑を検出した。この土坑の中には景德鎮窯、龍泉窯といった明末の中国陶磁器や李朝陶器、黄瀬戸などの瀬戸の陶器、15世紀後半の信楽及び備前の窓が破棄されており、肥前陶磁器は一点も出土していない。城下町形成当時の様子が伺える資料である。

報告書は平成9年度刊行予定である。

(宮本宏)



0 10cm



0 5cm

出土遺物

立善寺跡遺跡

所在地 阿南市宝田町今市中新聞10-6

整理期間 1996年4月1日~9月30日

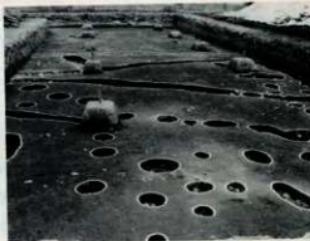
担当者 石尾 日下

整理概要 本遺跡は、阿南工業高等学校電子機械科第2棟新築工事に伴って1995年度に発掘調査されたものである。調査地は那賀川やその支流の岡川、さらに桑野川が形成する標高約4mの沖積平野上に位置する。

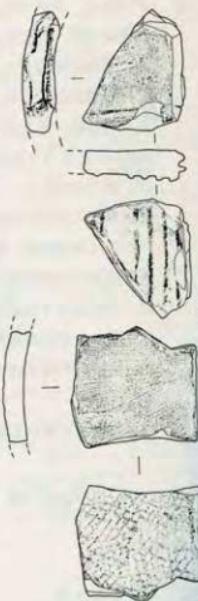
調査地点近傍は、旧来より古瓦が表採・出土しており、白鳳期に建立された寺院の所在が想定されている場所にあたる。古瓦の出土は、江戸時代の地誌類にも見られるが、遺構についてはこれまでの発掘調査も確認されてはいない。

今回の調査でも寺院跡を示す遺構は検出できなかったが、重弧文軒平瓦（1）や複弁蓮華文軒丸瓦をはじめ、白鳳期にまでさかのぼる年代観が与えられる格子目叩き平瓦片（2）が多量に出土し、旧来より考えられてきている白鳳期の寺院の存在が調査地近傍であることを裏付けた。その他、遺物としては土師質の鍋や西日本で少ない「永楽通宝」などの室町期の遺物が包含層より出土している。

本年度の整理作業は、出土した瓦や須恵質土器などの洗浄・注記・復元作業、遺物実測、トレース、遺構実測図トレース及びレイアウト作業をすすめた。特に古瓦が多く、平瓦の凸面の叩き痕・凹面の布目痕の拓本作業が大きなウェイトを占めた。また、同時にあわせて、本文執筆作業と遺物観察表の作成とあわせて、平成9年度には報告書の刊行のはこびである。（石尾）



1 遺構実測状況（西より）



2 出土瓦実測図 (S=1/4)

IV 埋蔵文化財センターの活動

本センターでは、常設展示の他に下記のような業務を平成8年度に行った。

(1) 講演会等の開催

徳島県立埋蔵文化財総合センター開館1周年記念講座『中世をかたる』

期日	内容	講師	参加人数
H8. 11. 3	『備前焼ものがたり』	岡壁忠彦	63名
H8. 11. 10	『遺跡が語る阿波中世の流通』	福家清司	75名
H8. 11. 17	『ムラと埋納銭と民衆の生活』	石尾和仁	44名
H8. 11. 24	『草戸千軒町遺跡にみる中世の町並みと暮らし』	佐藤昭嗣	45名

(2) 資料の貸出

本年度行った資料の貸出は以下の通りである。

No	貸出先機関等	目的	貸出資料	期間
1	野洲町立歴史民俗資料館	春期特別展団『鋼鐸』掲載	矢野遺跡銅鐸出土状況写真 矢野遺跡出土銅鐸写真	H8. 4. 18~5. 13
2	大阪府教育委員会文化財保護課	『大阪府立弥生文化博物館研究報告』第5集掲載	萩原墳墓群出土「船載画文帶同向式神獸鏡」写真	H8. 5. 26
3	中四国縄文研究会	研究会の参考資料	矢野遺跡出土縄文土器他	H8. 6. 21~6. 24
4	NHK 徳島放送局	地震関係の番組内噴砂波状化	宮ノ前・神宅・古城遺跡写真	H8. 8. 23~H8. 9. 10
5	朝日新聞社出版局	『古代史発掘91~95』掲載	菖蒲谷西山A遺跡出土人物形埴輪写真	H8. 9. 3
6	正進社	『中学校社会科副読本』掲載	矢野遺跡出土銅鐸 矢野遺跡銅鐸出土状況写真	H8. 10. 8
7	三好町教育委員会	三好町産業まつり展示	大谷尻遺跡発掘状況 大柿遺跡出土白磁・瓦質壺・須恵器・土師器	H8. 11. 3
8	徳島市教育委員会	『阿波を掘る』展示	名東遺跡出土朱付着土器・石杵・石臼・剥ぎ取り資料	H9. 1. 17~3. 7
9	テレビ朝日	ニュースステーション特集	矢野遺跡銅鐸出土状況写真	H9. 1. 20~2. 15
10	板野西小学校	教材	発掘のビデオテープ	H9. 1. 24
11	北條ゆうこ	考古学調査報告会資料掲載	延生軒・城の内・新蔵町1丁目遺跡陶器	H9. 3. 23
12	三好町教育委員会	文化まつり目録表紙	白磁壺	H9. 1. 29
13	(株)ビ・エル・ティー	NEC (PR誌)掲載	矢野遺跡銅鐸写真	H9. 3. 1~4. 12
14	三好町教育委員会	文化まつり展示	大柿遺跡出土白磁壺	H9. 2. 22~2. 23
15	プロジェクト進進局	あさんライブミュージアム情報提供	黒谷川都頭遺跡スライド	H9. 2. 19~3. 5
16	京都科学	納入実績カタログ掲載	矢野銅鐸出土状況複製	H9. 3. 4
17	三好町史編纂室	三好町史歴史編掲載	大柿遺跡中世水田遺構	H9. 3. 5~3. 21
18	牟岐町教育委員会	『牟岐町ふるさと探訪』展示	分布調査風景・石獅写真	H8. 10. 20~11. 20
19	板野警察署	『交通白書』表紙	弥生の音色広場写真	H9. 3. 19~3. 31

(3) 現地説明会等の開催

本年度に実施した発掘調査のうち、次の4遺跡について現地説明会を開催した。

No	遺跡名	説明内容	期日	参加人数
1	大柿遺跡	平成8年度調査成果の公表	H8.10.12	250名
2	丸山遺跡	平成8年度調査成果の公表	H8.11.23	170名
3	井出上遺跡	平成8年度調査成果の公表	H8.12.1	100名
4	西原遺跡	平成8年度調査成果の公表	H9.3.2	180名
5	西原・東原遺跡	普及事業・西部地区遺跡見学会	H8.8.5	50名
6	矢野遺跡	普及事業・東部地区遺跡見学会	H8.8.26	34名



西原遺跡現地説明会風景▶

(4) 埋蔵文化財センターの見学

期日	団体名
H8.4.21	財団法人滋賀県文化財保護協会（7名）
5.8	三重県埋蔵文化財センター（2名）
5.27	歴史地理学会巡査（55名）
6.6	鹿児島県内蔵文化財センター（2名）
7	広島市歴史科学事業団（2名）
7.3	徳島市中央公民館「阿波の歴史」館外研修（48名）
8.21	三好郡土史研究会（50名・大柿遺跡）
9.1	井川町古文書教室（17名）
18	徳島文理大学社会教育現地研修（56名）
19	NHK 文化講座研修（45名）・井川町文化財保護審議委員（18名）
25	NHK 文化講座研修（76名）
27	神山町教育委員会（59名）
10.18	財団法人千葉県文化財センター（1名）
11.10	徳島歴史研究会（14名）
8	山城町教育委員会（15名）
H9.1.29	財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター（2名）
2.16	中世土器研究会（15名）
3.6	福島県教育厅文化課遺跡班（1名）
3.24	財団法人かながわ考古学財团（3名）

(5) 平成8年度来館者数

月	開館日数	来館者数				
		一般	高校生	中学生	小学生	計
4	25日	956	6	16	199	1,177
5	27日	1,035	22	27	714	1,798
5	27日	498	2	9	168	676
6	25日	726	3	5	78	812
7	26日	625	13	29	261	928
8	25日	923	4	15	106	1,048
10	26日	673	116	2	1,351	2,142
11	25日	1,058	1	24	598	1,681
12	23日	196	0	6	128	330
1	22日	226	2	3	36	267
2	23日	368	2	1	59	430
3	25日	321	3	10	96	430
計	299日	7,605	174	147	3,794	11,719

(6) 職員の対外活動

他機関との情報交換や、職員の専門的知識・技術的向上を目的として下記のような会議等に参加した。

No	期間	人 員	内 容
1	H8 5 24~5 26	研究員1	日本考古学協会第62回総会（東京都）
2	H8 6 5~6 7	局長 次長 課長1	全埋協第17回総会（松山市）
3	H8 6 ~10.	課長1	徳島市市民講座講師（徳島市）
4	H8 6 14~6 16	研究員1	日本文化財科学会（東京都）
5	H8 7 21	課長1	いたの彩り市開連古代のくらしぶり（埋文センター）
6	H8 7 23	研究員2	国府中学校埋蔵文化財発掘体験指導（徳島市）
7	H8 8 12	研究員1	井川町文化財保護審議委員研修会の指導（徳島県井川町）
8	H8 9 19	係長1	シルバー大学講師（鳴門市）
9	H8 9 27~9 28	研究員4	全埋協コンピュータ等研究委員会（広島市） 中国 四国 九州ブロック地区委員会
10	H8 10. 1	研究員1	美馬郡民生委員児童委員全員研修会の講師（徳島県山川町）
11	H8 10. 2 ~10. 5	課長1 研究員1	全埋協研修会（山形市）
12	H8 10. 9 ~16. 30	研究員2	板野高校外部講師招へい事業講師（埋文センター）
13	H8 10. 19	課長1	中四国前方後円墳研究会（高松市）
14	H8 11. 2	課長1	よみうり神戸文化セミナー講師（神戸市）
15	H8 11. 9 ~11. 11	研究員2	日本考古学協会大会（津市）
16	H8 11. 12	係長1	シルバー大学講師（徳島県三加茂町）委員会（鳥取県）
17	H8 11. 14~11. 16	局長 次長 課長 係長	全埋協中国 四国 九州ブロック会議（東広島市）
18	H9 2 20~2 21	研究員1	保存科学研究集会（奈良市）
19	H9 2 28~3 2	研究員1	第41回埋蔵文化財研究集会（福岡市）
20	H8 3 5	係長1	シルバー大学講師（徳島県穴吹町）
21	H8 3 13	係長1	シルバー大学講師（徳島県鴨島町）

(7) 刊行物	
古代からのおくりもの（小・中学生用ガイド）	H8年
古代への招待（高校・一般用ガイド）	H8年
徳島県立埋蔵文化財総合センター・(財)徳島県埋蔵文化財センター要覧（改訂印刷）	H8年
『徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol. 7』	H8年6月
『中島田遺跡Ⅱ』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第15集	H8年9月
徳島県立埋蔵文化財総合センター開館記念シンポジウム講演録『弥生の精華—銅鐸に迫る—』	
徳島県立埋蔵文化財総合センター開館1周年記念講座『中世をかたる』	H8年11月
	H8年11月

V 受贈図書

書名	寄贈者等名
北海道	
キウス5遺跡（2）B地区	（財）北海道埋蔵文化財センター
フレベツ遺跡群Ⅲ 美沢16遺跡	（財）北海道埋蔵文化財センター
芦別市滝里遺跡群VI 滝里4遺跡（2）	（財）北海道埋蔵文化財センター
七飯町大中山13遺跡（3）	（財）北海道埋蔵文化財センター
千歳市 キウス7遺跡（3）	（財）北海道埋蔵文化財センター
千歳市オサツ2遺跡（2）	（財）北海道埋蔵文化財センター
千歳市ニカンボシ C9遺跡	（財）北海道埋蔵文化財センター
中野B遺跡	（財）北海道埋蔵文化財センター
中野B遺跡	（財）北海道埋蔵文化財センター
調査年報8 平成7年度	（財）北海道埋蔵文化財センター
函館市 石倉貝塚	（財）北海道埋蔵文化財センター
函館市西桔梗1遺跡	（財）北海道埋蔵文化財センター
美沢川流域の遺跡群	（財）北海道埋蔵文化財センター
豊浦町 高岡1遺跡（3）・高岡2遺跡	（財）北海道埋蔵文化財センター
豊浦町 東雲遺跡	（財）北海道埋蔵文化財センター
H37遺跡 丘珠空港内	札幌市教育委員会
K113遺跡北35条地点	札幌市教育委員会
N175遺跡	札幌市教育委員会
T276遺跡	札幌市教育委員会
はっけま3遺跡	小樽市教育委員会
忍路神社遺跡	小樽市教育委員会
文庫敷遺跡	小樽市教育委員会
蘭島餅屋沢2遺跡	小樽市教育委員会
目でみる苫小牧市のぶんかざい（埋蔵文化財編）	苫小牧市教育委員会
大昔の苫小牧 よみがえる古代人のくらし	苫小牧市博物館
苫小牧の埋蔵文化財 No.7	苫小牧市埋蔵文化財調査センター
苫小牧の埋蔵文化財 No.8	苫小牧市埋蔵文化財調査センター
苫小牧の埋蔵文化財 No.9	苫小牧市埋蔵文化財調査センター
苫小牧市埋蔵文化財調査センター概要 No.12	苫小牧市埋蔵文化財調査センター
カンカン2遺跡	平取町教育委員会
旧平取小学校植物園遺跡	平取町教育委員会
平取町オバシナ1遺跡	平取町教育委員会
川端遺跡・川端2遺跡	由仁町教育委員会
青森県	
熊ヶ平遺跡・板子塚遺跡発掘調査報告書	青森県教育委員会
旗沢（42）遺跡外試掘調査報告書	青森県教育委員会
戸沢川代遺跡・熊ヶ平遺跡	青森県教育委員会
高野川（3）遺跡	青森県教育委員会
佐野平船跡・上佐野遺跡	青森県教育委員会
三内丸山（2）遺跡II	青森県教育委員会
三内丸山（2）遺跡III	青森県教育委員会
山元（2）遺跡発掘調査報告書	青森県教育委員会
四ツ役遺跡	青森県教育委員会
十三湊遺跡I	青森県教育委員会
上蛇沢（1）遺跡	青森県教育委員会
上蛇沢（2）遺跡	青森県教育委員会
上田遺跡	青森県教育委員会
水木船遺跡	青森県教育委員会
西張（3）遺跡	青森県教育委員会
東山遺跡III	青森県教育委員会
大平（5）遺跡・草薙（1）遺跡・湯ヶ森（2）遺跡	青森県教育委員会
白砂遺跡	青森県教育委員会
畠内遺跡III	青森県教育委員会
平野遺跡	青森県教育委員会

書名	寄贈者等名
研究紀要 第1号	青森県埋蔵文化財調査センター
岩手県	
岩手県内道路発掘調査報告書	岩手県教育委員会
岩崎台地道路群発掘調査報告書（第1分冊本文編）	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成6年度分）	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
荒田Ⅲ・荒田Ⅳ遺跡第1・2次発掘調査報告書	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
志羅山遺跡第14・25次発掘調査報告書	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
松屋敷遺跡発掘調査報告書	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
上村遺跡発掘調査報告書	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
上八木本I遺跡発掘調査報告書	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
上米内遺跡調査報告書	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
上野々遺跡	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
水吉VI遺跡発掘調査報告書	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
西田東遺跡発掘調査報告書	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
大渡II遺跡発掘調査報告書	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
大畑I遺跡・大畑II遺跡発掘調査報告書	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
猪川館跡発掘調査報告書	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
田代IV遺跡・田代VI遺跡発掘調査報告書	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
土場遺跡発掘調査報告書	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
馬場館遺跡・小吹野遺跡	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
本宮熊堂B遺跡第1次発掘調査報告書	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
本内I遺跡発掘調査報告書	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
柳上遺跡発掘調査報告書	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
柳之御所跡	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
長倉IV遺跡・長倉V遺跡発掘調査報告書	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
杉の堂遺跡	(財) 水沢市埋蔵文化財調査センター
雷神I遺跡	(財) 水沢市埋蔵文化財調査センター
龍ヶ馬場II遺跡	(財) 水沢市埋蔵文化財調査センター
宮城県	
地底の森ミュージアム開館記念特別企画展 水河期を生きる	(財) 仙台市歴史文化事業団
地底の森ミュージアム常設展示案内	(財) 仙台市歴史文化事業団
地底の森ミュージアム要覧	(財) 仙台市歴史文化事業団
下草古城跡ほか	宮城県教育委員会
下草古城跡ほか	宮城県教育委員会
山王遺跡II	宮城県教育委員会
山王遺跡八幡地区の調査	宮城県教育委員会
大畑遺跡ほか	宮城県多賀城跡調査研究所
宮城県多賀城跡調査研究所年報1994	宮城県多賀城跡調査研究所
桃生城跡III	仙台市教育委員会
下ノ内道路	仙台市教育委員会
郡山遺跡	仙台市教育委員会
今泉遺跡	仙台市教育委員会
今泉遺跡発掘調査報告書	仙台市教育委員会
仙台平野の遺跡群	仙台市教育委員会
大野田道路	仙台市教育委員会
南小泉道路	仙台市教育委員会
北原街道B遺跡-仙台市宮城地区-	仙台市教育委員会
六反田遺跡	仙台市教育委員会
市川橋遺跡-第19回調査報告書-	多賀城市教育委員会
多賀城市埋蔵文化財調査センター年報-平成6年度-	多賀城市埋蔵文化財調査センター
東北大學埋蔵文化財調査年報6	東北大學埋蔵文化財調査委員会
東北大學埋蔵文化財調査年報7	東北大學埋蔵文化財調査委員会
高森遺跡III	東北歴史資料館
佐藤家文書目録（文書目録第9号）	東北歴史資料館
東北歴史資料館研究紀要第15卷	東北歴史資料館
東北歴史資料館年報 平成7年度	東北歴史資料館
秋田県	
大平遺跡	秋田県教育委員会

書名	寄贈者等名
東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書—岩瀬道路—ⅩⅡ	秋田県教育委員会
東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書ⅩⅩ—蟹子沢道路—Ⅹ	秋田県教育委員会
弘法橋跡—第103~106次調査概要—	秋田県教育委員会
片野Ⅰ遺跡	秋田県教育委員会
伊勢堂岱遺跡	秋田県埋蔵文化財センター
秋田県埋蔵文化財センター研究紀要第11号	秋田県埋蔵文化財センター
秋田県埋蔵文化財センター年報14 平成7年度	秋田県埋蔵文化財センター
山形県	
年報 平成7年度	(財)山形県埋蔵文化財センター
下柳A 遺跡発掘調査報告書	(財)山形県埋蔵文化財センター
宮ノ下道路発掘調査報告書	(財)山形県埋蔵文化財センター
向田遺跡発掘調査報告書	(財)山形県埋蔵文化財センター
上荒谷道路発掘調査報告書	(財)山形県埋蔵文化財センター
西谷地道路第3次発掘調査報告書	(財)山形県埋蔵文化財センター
渡戸道路発掘調査報告書	(財)山形県埋蔵文化財センター
富沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書	(財)山形県埋蔵文化財センター
北目長田遺跡・備待道路第2次発掘調査報告書	(財)山形県埋蔵文化財センター
落合道路発掘調査報告書	(財)山形県埋蔵文化財センター
山形県中世城館道路調査報告書第1集	山形県教育委員会
上谷地C 遺跡発掘調査報告書	山形県教育委員会
分布調査報告書(21)	山形県教育委員会
分布調査報告書(22)	山形県教育委員会
分布調査報告書(23)	山形県教育委員会
縄文のタイムカプセル—押出遺跡—	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
福島県	
清水台遺跡—第15次A 地点調査報告—	(財)郡市埋蔵文化財発掘調査事業団
東山田遺跡—第1次大調查報告—	(財)郡市埋蔵文化財発掘調査事業団
三春ダム関連遺跡発掘調査報告書	(財)福島県文化センター
原田窯跡・原田C 遺跡	いわき市教育委員会
網取貝塚	いわき市教育委員会
根岸遺跡	いわき市教育委員会
大平B 遺跡・大平C 遺跡 古代集落・近代屋敷跡の調査	いわき市教育委員会
木簡で語る古代のいわき	いわき市教育委員会
番匠地遺跡—水田跡の調査—	いわき市教育委員会
鬼ヶ城跡	建設省磐城国造工事事務所
鬼ヶ城跡	猪苗代町教育委員会
三城潟村北遺跡	猪苗代町教育委員会
三条潟村前遺跡	猪苗代町教育委員会
町内道路調査詳細分布調査報告書Ⅲ	猪苗代町教育委員会
横山A・谷地前C・佐平林・干草場B・反町・戸・中ノ作・反田B	猪苗代町教育委員会
弓手原A 遺跡	福島県教育委員会
五十堀田A 遺跡・予備調査	福島県教育委員会
獅子内遺跡	福島県教育委員会
勝利ヶ岡遺跡	福島県教育委員会
常磐自動車道遺跡調査報告4	福島県教育委員会
常磐自動車道遺跡調査報告6	福島県教育委員会
請戸川地区遺跡発掘調査報告Ⅲ	福島県教育委員会
請戸川地区遺跡発掘調査報告Ⅳ	福島県教育委員会
相馬開発関連遺跡調査報告Ⅳ	福島県教育委員会
連中央保育園・上森保育園跡・佐平林遺跡(M区)・板倉前B遺跡・猪内古墳群	福島県教育委員会
福島県道路地図	福島県教育委員会
福島県内遺跡分布調査報告2	福島県教育委員会
遠後遺跡	郡山市教育委員会
郡山東部15	郡山市教育委員会
郡山東部16	郡山市教育委員会
郡山東部17	郡山市教育委員会
上之内遺跡	郡山市教育委員会
二池遺跡	郡山市教育委員会
二池遺跡	郡山市教育委員会

書名	寄贈者等名
安倍道路第1次調査報告書	郡山市教育委員会
影道跡一発掘調査報告書	郡山市教育委員会
割田B遺跡	郡山市教育委員会
鴨打A遺跡(遺構編)	郡山市教育委員会
柳ノ木沢遺跡	郡山市教育委員会
郡山市埋蔵文化財分布調査報告1	郡山市教育委員会
郡山市埋蔵文化財分布調査報告2	郡山市教育委員会
広畠遺跡	郡山市教育委員会
咲田遺跡-赤木地区第1次調査報告-	郡山市教育委員会
城山館遺跡	郡山市教育委員会
大安塙古墳群測量調査報告書	郡山市教育委員会
大根畠遺跡-第4次調査報告-	郡山市教育委員会
桃見台遺跡 第2次調査報告書	郡山市教育委員会
南山田遺跡	郡山市教育委員会
分析・試験結果報告書	郡山市教育委員会
茨城県	
玉里村立史料館 第1号	玉里村立史料館
地方王権の誕生-企画展-	玉里村立史料館
海に暮らす織文の人-企画展-	玉里村立史料館
研究ノート 5号	(財)茨城県教育財團
(仮称)常陸九条地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書I	(財)茨城県教育財團
(仮称)島名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書	(財)茨城県教育財團
伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2	(財)茨城県教育財團
一般国道354号(水海道バイパス)道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書	(財)茨城県教育財團
主要地方道常陸那珂港山方線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書	(財)茨城県教育財團
都市計画道荒川沖本田余線街路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書	(財)茨城県教育財團
(仮称)葛城市地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書I	(財)茨城県教育財團
(仮称)北条住宅団地建設工事地内埋蔵文化財調査報告書	(財)茨城県教育財團
一般県道石岡つくば線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書	(財)茨城県教育財團
一般県道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書	(財)茨城県教育財團
一般国道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書	(財)茨城県教育財團
牛久東下根特定期土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書	(財)茨城県教育財團
牛久北西部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書	(財)茨城県教育財團
牛久北西部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)	(財)茨城県教育財團
国営常陸海滨公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書N	(財)茨城県教育財團
国道29号線国補道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書	(財)茨城県教育財團
取手市計画事業下高井特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書	(財)茨城県教育財團
主要地方道水戸茂木線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書	(財)茨城県教育財團
主要地方道土浦竜ヶ崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書	(財)茨城県教育財團
常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書	(財)茨城県教育財團
常北町道105号線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書	(財)茨城県教育財團
常陸那珂有料道路事業地内埋蔵文化財調査報告書	(財)茨城県教育財團
年報15 平成7年度	(財)茨城県教育財團
公社要覧 昭和59年度~平成6年度	(財)茨城県教育財團
武田 I X	(財)茨城県教育財團
第2回企画展「企画展・土浦の遺跡1」	(財)茨城県教育財團
第2回埋蔵鉄の物語	(財)茨城県教育財團
笠間市西田遺跡の研究-縄文時代における石族の製作と流通に関する研究	(財)茨城県教育財團
筑波大学先史学・考古学研究第7号	筑波大学歴史・人類学系
土浦市中村西根地内中新台遺跡発掘調査報告書	土浦市教育委員会
柳沢・妻老田・寿行地北道跡発掘調査報告書	土浦市教育委員会
寿行地古墳	土浦市教育委員会・出島村教育委員会

書名	寄贈者等名
倉賀野中里前遺跡	高崎市遺跡調査会
倉賀野中里前遺跡	高崎市遺跡調査会
中尾村前V遺跡	高崎市遺跡調査会
中尾村前V遺跡	高崎市遺跡調査会
矢中村西I遺跡	高崎市遺跡調査会
井野矢ノ上遺跡	高崎市遺跡調査会
江木 調訪西遺跡	高崎市教育委員会
倉賀野 下天神遺跡	高崎市教育委員会
福荷町2遺跡	高崎市教育委員会
岡久保遺跡	高崎市教育委員会
下中居条里遺跡	高崎市教育委員会
高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書10	高崎市教育委員会
山名原口I遺跡	高崎市教育委員会
寺尾東館I・II・III遺跡	高崎市教育委員会
真町I遺跡	高崎市教育委員会
東町V遺跡	高崎市教育委員会
平成6年度 高崎市内小規模埋蔵文化財緊急発掘調査概要	高崎市教育委員会
平成7年度 高崎市内小規模埋蔵文化財発掘調査概報	高崎市教育委員会
並桜北II・III・IV・V遺跡	渋川市教育委員会
八木原沖田V遺跡	渋川市教育委員会
半田中原・南原遺跡 第2分冊	渋川市教育委員会
半田南原遺跡 第1分冊	渋川市教育委員会
布施大塙遺跡	新治村教育委員会
石闇西梁瀬遺跡 西片貝原田島遺跡	石闇西梁瀬遺跡調査会
前橋城三ノ丸遺跡	前橋地方・家庭裁判所遺跡調査会
埼玉県	
横田遺跡	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
丸山／青梅道南／十文字原／東武藏野／西武藏野	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
宮ヶ谷戸／根岸／八日市／城西	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
栗屋／星洞／中台	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
研究紀要第12号	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
広本上宿遺跡－古代・中世編－	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
今井川越田遺跡	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
今羽丸山遺跡	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
坂東山／坂東山西／後B	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
山王裏遺跡	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
新屋敷遺跡C区	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
深谷城跡	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
菅原遺跡	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
中里前原北遺跡	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
堂山公園／久台	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
年報16 平成7年度	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
八木上／八木／八木前／上庄湖北／森坂北／森坂	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
埼玉県埋蔵文化財調査年報 平成6年度	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
中世石造遺物調査概報(4)	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
埼玉県立埋蔵文化財センター年報5－平成6年度－	埼玉県教育委員会
研究紀要第18号	埼玉県教育委員会
市内遺跡群調査報告書2	埼玉県立歴史資料館
勝棚遺跡第9次調査	所沢市教育委員会
東の上遺跡 第12次調査	所沢市教育委員会
東の上遺跡 第61次調査	所沢市教育委員会
所沢市立埋蔵文化財調査センター年報 No.1	所沢市立埋蔵文化財調査センター
千葉県	
千葉県立印旛郡酒々井町 墨水戸	(株)すかいらーく
千葉中央ゴルフ場遺跡群発掘調査報告書	(株)東急リゾートサービス勝浦
油井古墳原遺跡群	(株)千葉カントリー俱楽部
佐倉城跡	(財)印旛郡市文化財センター
上本佐倉上宿遺跡	(財)印旛郡市文化財センター
新橋高松遺跡	(財)印旛郡市文化財センター

書名	寄贈者等名
千葉県八街市米ケ崎遺跡	(財)印旛都市文化財センター
南西護台遺跡(第一地点)	(財)印旛都市文化財センター
白池台遺跡・西御門荒生遺跡A地区・西御門荒生遺跡B地区	(財)印旛都市文化財センター
奥中谷古墳群発掘調査報告書	(財)君津都市文化財センター
君津都市文化財センター年報No.13	(財)君津都市文化財センター
君津市 南子安金井塚遺跡	(財)君津都市文化財センター
市宿横穴墓群発掘調査報告書	(財)君津都市文化財センター
上ノ山A・上ノ山B・下根田A・下根田B・御所塚遺跡	(財)君津都市文化財センター
清水沢遺跡発掘調査報告書	(財)君津都市文化財センター
石神横穴墓群・石神古墳群・石神遺跡	(財)君津都市文化財センター
千葉県木更津市 高砂遺跡	(財)君津都市文化財センター
泉遺跡発掘調査報告書I	(財)君津都市文化財センター
大竹遺跡群IV-向神納里遺跡・上南原遺跡・狐谷遺跡・大竹古墳群-	(財)君津都市文化財センター
谷ノ台遺跡(B地点)	(財)君津都市文化財センター
兎谷・上時田・下時田・向台本・台木B遺跡	(財)君津都市文化財センター
伊地山石塔前II遺跡	(財)香取都市文化財センター
月輪神社遺跡	(財)香取都市文化財センター
高岡清水遺跡	(財)香取都市文化財センター
桜野田馬土手跡	(財)香取都市文化財センター
事業報告V-平成6年度-	(財)香取都市文化財センター
大六天遺跡	(財)香取都市文化財センター
猫作・栗山16号墳	(財)香取都市文化財センター
大網山田台遺跡群I	(財)山武都市文化財センター
一般県道横芝山武線道路改良事業埋蔵文化財調査報告書	(財)千葉県文化財センター
一般国道296号国道路改良事業埋蔵文化財調査報告書1	(財)千葉県文化財センター
一般国道296号国道路改良事業埋蔵文化財調査報告書2	(財)千葉県文化財センター
一般国道464号県単道路改良事業埋蔵文化財調査報告書	(財)千葉県文化財センター
研究連絡誌 第45号	(財)千葉県文化財センター
研究連絡誌 第46号	(財)千葉県文化財センター
研究連絡誌 第47号	(財)千葉県文化財センター
佐原市鶴崎貝塚発掘調査報告書	(財)千葉県文化財センター
市原市帆瀬山古墳群発掘調査報告書	(財)千葉県文化財センター
市原市西野遺跡第1次発掘調査報告書	(財)千葉県文化財センター
市原市武士遺跡1	(財)千葉県文化財センター
主要地方道多古笠本線埋蔵文化財調査報告書	(財)千葉県文化財センター
主要地方道多古笠本線埋蔵文化財調査報告書	(財)千葉県文化財センター
成田市松崎遠原遺跡	(財)千葉県文化財センター
千葉県中近世城跡研究調査報告書	(財)千葉県文化財センター
千葉県文化財センター年報No.21-平成7年度-	(財)千葉県文化財センター
千葉市西唐沢遺跡	(財)千葉県文化財センター
袖ヶ浦市堂庭山B遺跡	(財)千葉県文化財センター
大多喜町市場遺跡	(財)千葉県文化財センター
大多喜町女ヶ谷遺跡	(財)千葉県文化財センター
八日市場市大堀・塔ノ前遺跡	(財)千葉県文化財センター
多古町千田台遺跡	(財)千葉県文化財センター
(財)千葉市文化財調査協会年報4-平成2年度-	(財)千葉市文化財調査協会
(財)千葉市文化財調査協会年報5-平成3年度-	(財)千葉市文化財調査協会
(財)千葉市文化財調査協会年報6-平成4年度-	(財)千葉市文化財調査協会
(財)千葉市文化財調査協会年報7-平成5年度-	(財)千葉市文化財調査協会
砂子遺跡(D区) 発掘調査報告書	(財)千葉市文化財調査協会
上深見沢遺跡発掘調査報告書	(財)千葉市文化財調査協会
千葉市水北古北跡	(財)千葉市文化財調査協会
千葉市熊ノ台西遺跡	(財)千葉市文化財調査協会
千葉市狐塚西遺跡	(財)千葉市文化財調査協会
千葉市根崎遺跡(I地区)	(財)千葉市文化財調査協会
千葉市砂子遺跡(C区)	(財)千葉市文化財調査協会
千葉市山王遺跡	(財)千葉市文化財調査協会
千葉市若郷遺跡-平成3年度 発掘調査報告書-	(財)千葉市文化財調査協会
千葉市小中台遺跡	(財)千葉市文化財調査協会
千葉市松ヶ丘遺跡	(財)千葉市文化財調査協会
千葉市上鶴牧遺跡-平成5年度発掘調査報告書-	(財)千葉市文化財調査協会

書	名	寄贈者等名
千葉市長堤東遺跡		(財)千葉市文化財調査協会
千葉市蛤谷津上遺跡		(財)千葉市文化財調査協会
土気南遺跡群Ⅰ		(財)千葉市文化財調査協会
土気南遺跡群Ⅱ		(財)千葉市文化財調査協会
土気南遺跡群Ⅲ		(財)千葉市文化財調査協会
土気南遺跡群Ⅳ		(財)千葉市文化財調査協会
福寿院遺跡		(財)千葉市文化財調査協会
平川町向工遺跡第二次発掘調査報告書		(財)千葉市文化財調査協会
(財)船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター年報1-平成7年度一		(財)船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター
中びょう遺跡第1次・2次発掘調査報告書		(財)船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター
中野木台遺跡群(4)		(財)船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター
海上町岩井安町遺跡		(財)東絶文化財センター
千葉県旭市坊ノ場遺跡		旭市教育委員会
千葉県印旛郡印旛村油作1-Ⅱ遺跡発掘調査報告書		印旛村
平賀細町遺跡		印旛村
上岩橋岩崎遺跡		公栄リアルエステート株式会社
1996発掘 寺方遺跡		光町
神門房下遺跡発掘調査報告書		佐倉市
間野台貝塚		佐倉市教育委員会
千葉県佐倉市城次郎丸遺跡		佐倉市教育委員会
千葉県茂原市長尾遺跡群		佐藤工業株式会社
市原市文化財センター年報 平成5年度		(財)市原市文化財センター
第11回 市原市文化財センター 遺跡発表会要旨 平成7年度		(財)市原市文化財センター
第12回 市原市文化財センター 遺跡発表会要旨 平成8年度		(財)市原市文化財センター
吉見福荷山遺跡		(財)印旛都市文化財センター
千葉県佐倉市 八木宇廣遺跡発掘調査報告書		(財)印旛都市文化財センター
千葉県成田市野毛平泉台遺跡発掘調査報告書		(財)印旛都市文化財センター
財團法人山武都市文化財センター年報 No.11		(財)山武都市文化財センター
合居台遺跡		(財)山武都市文化財センター
千葉県茂原市庄吉遺跡		(財)長生都市文化財センター
長生都市文化財センター年報 No.9		(財)長生都市文化財センター
立木南遺跡		(財)同人会
西毛の古代		山武考古学研究所
下総国分寺		市立市川考古博物館
平成6年度市立市川考古博物館年報第23号		市立市川考古博物館
千葉県長生郡長南町川島遺跡		住建不動産株式会社東京支店
都遺跡群発掘調査報告書II		(財)君津都市文化財センター
山ノ下製鉄遺跡		(財)君津都市文化財センター
台木A遺跡		(財)君津都市文化財センター
常代遺跡群		(財)君津都市文化財センター
大井戸25号墳・大井戸八木遺跡		(財)君津都市文化財センター
千葉県印旛郡印西町 曽谷窪遺跡発掘調査報告書		石津建材株式会社・北総地所株式会社
千葉県海上郡海上町蛇籠猪鹿々野遺跡		石毛一男
山田・宝馬古墳群(宝馬93-42地点)		芝山町教育委員会
浅間台遺跡		松尾町
小泉遺跡(御用地3257地点)		成東町企画課
千葉県八日市場市矢掛泥炭遺跡I		八日市場市建設課
千葉県八日市場市矢掛泥炭遺跡II		千葉県八日市場市建設課
稲荷台遺跡		千葉市教育委員会
千葉市枯木台遺跡-昭和の森遺跡群平成2年度調査報告書-		千葉市教育委員会
千葉市神門遺跡		千葉市教育委員会
千葉市芳賀輪遺跡-平成2年度調査報告書-		千葉市教育委員会
千葉市芳賀輪遺跡-平成3年度調査報告書-		千葉市教育委員会
千葉市芳賀輪遺跡-平成4年度調査報告書-		千葉市教育委員会
千葉市立山跡		千葉市教育委員会
谷津遺跡(国版編)		千葉大学文学部考古学研究室
千葉県大寺山洞穴		船橋市遺跡調査会
夏見大塚遺跡		船橋市遺跡調査会
佐倉道南遺跡		大明株式会社
鐘塚 No. 2 遺跡		

書名	寄贈者等名
淀木浦遺跡	大明株式会社
新農遺跡	銚子観光開発株式会社
大網山田台遺跡群Ⅱ 仲戸遺跡 佐野原北遺跡・荒野台遺跡・栗島台遺跡	東急不動産株式会社
東邦考古第20号	東京電力株式会社
奈和15周年記念論文集	東邦大学附属高等学校
奈和 第25号	奈和同人会
奈和 第26号	奈和同人会
奈和 第30号	奈和同人会
奈和 第31号	奈和同人会
奈和 第32号	奈和同人会
奈和 第33号	奈和同人会
奈和 第34号	奈和同人会
小菅法華塚 I・II 遺跡	日本ビューホテル株式会社
生尾遺跡	八重木道企業團
小高遺跡	八日市場市
富士見台遺跡・飯野陣屋三の丸跡・植ノ台遺跡・亀梨子遺跡・東天王台遺跡	富津市教育委員会
千葉県長生郡鰐沢町石川横穴墓群B支群	睦沢町教育委員会
本納城外郭跡 - 2	茂原市教育委員会
千束台遺跡群発掘調査報告書Ⅱ	本更津市教育委員会
千葉県本更津市内遺跡発掘調査報告書 - 高砂遺跡・野焼B遺跡 -	本更津市教育委員会
大庭台遺跡群発掘調査報告書 I	本更津市教育委員会
中尾遺跡群発掘調査報告書 II	本更津市教育委員会
東京都	
汐留遺跡	(財) 東京都教育文化財団
多摩ニュータウン遺跡	(財) 東京都教育文化財団
東京都埋蔵文化財センター年報 16	(財) 東京都教育文化財団
平成8年度東京都埋蔵文化財センター要覧	(財) 東京都教育文化財団
なすな原遺跡	なすな原遺跡調査会
井の頭池遺跡群 C 地点	井の頭池遺跡群遺跡調査会
井の頭池遺跡群御殿山遺跡	井の頭池遺跡群遺跡調査会
麻布越戸坂口町屋跡発掘調査報告書	岐阜県・中央信託銀行株式会社
東京都井の頭池遺跡群吉祥寺南町1丁目遺跡 E 地点	吉祥寺南町1丁目遺跡調査会
久保田遺跡	久保田遺跡調査会
書院部紀要第47号	宮内庁書院部
芝田町四丁目町屋跡遺跡発掘調査報告書	港区遺跡調査事務局
野川遺跡	国際基督教大学考古学研究センター
恋ヶ窓遺跡調査報告書	国分寺市遺跡調査会
武藏国分寺跡発掘調査概報 X X I	国分寺市教育委員会
武藏国分尼寺跡 I 平成4年度発掘調査概報	国分寺市教育委員会
武藏国分尼寺跡 II 平成5年度発掘調査概報	国分寺市教育委員会
上野忍ヶ窓遺跡國立西洋美術館地點調査報告書	國立西洋美術館
國立歴史民俗博物館要覧	國立歴史民俗博物館
日本古代印集成	國立歴史民俗博物館
農耕開始期の石器組成 1 近畿（大阪・兵庫）・中国・四國	國立歴史民俗博物館
農耕開始期の石器組成 2 九州	國立歴史民俗博物館
SAVE MOENJODARO	國立歴史民俗博物館
三河だい町遺跡発掘調査報告書	(財) ユネスコ・アジア文化センター
汐留跡	三菱地所株式会社
第5回研究成果検討会議論文集	汐留地区遺跡調査会
駿台史學第99号	重点領域研究「遺跡探査法の開発研究」総括班
東京都新宿区高田馬場三丁目遺跡	駿台史学会
東京都新宿区市谷仲之町遺跡Ⅲ	新宿区遺跡調査会
東京都新宿区住吉町遺跡	新宿区遺跡調査会
東京都新宿区百人町三丁目遺跡Ⅲ	新宿区遺跡調査会

書名	寄贈者等名
東京都新宿区若松町遺跡	新宿区遺跡調査会
東京都新宿区下戸塚遺跡Ⅱ	新宿区下戸塚遺跡調査団
東京都新宿区市谷加賀町一丁目遺跡Ⅰ	新宿区市谷加賀町一丁目遺跡調査団
東京都新宿区市谷本町遺跡	新宿区市谷本町遺跡調査団
東京都新宿区住吉町遺跡Ⅱ	新宿区住吉町遺跡調査団
東京都新宿区百人町三丁目遺跡Ⅳ	新宿区百人町三丁目遺跡調査団
東京都新宿区百人町三丁目西遺跡Ⅰ	新宿区百人町三丁目西遺跡調査団
1994年度世田谷区埋蔵文化財調査年報	世田谷区教育委員会
下神明遺跡Ⅲ	世田谷区教育委員会
喜多見陣屋遺跡Ⅲ	世田谷区教育委員会
三島野屋敷遺跡・下覚東南遺跡	世田谷区教育委員会
諏訪山遺跡Ⅳ	世田谷区教育委員会
中野田遺跡Ⅱ	世田谷区教育委員会
等々力根遺跡Ⅰ	世田谷区教育委員会
堂ヶ谷戸遺跡Ⅳ	世田谷区教育委員会
推定東山道武藏路	西国分寺地区遺跡調査会
武藏国分寺跡西北地区の遺跡	西国分寺地区遺跡調査会
武藏国分寺跡西北地区の遺跡発掘調査報告書	西国分寺地区遺跡調査会
下戸塚遺跡の調査	早稲田大学
下戸塚遺跡の調査	早稲田大学
早稲田大学東伏見総合グラウンド遺跡B地区調査報告書	早稲田大学
大久保山Ⅳ	早稲田大学
古代 第101号	早稲田大学考古学会
古代 第102号	早稲田大学考古学会
舍人遺跡	足立区伊興遺跡調査会
旧岩崎家住宅所在遺跡	台東区湯島貝塚遺跡調査団
大里東遺跡	大里東遺跡発掘調査会
地下鉄7号線白金台・東六木本間遺跡発掘調査報告書	地下鉄7号線白金台・東六木本間遺跡調査会
江戸城外堀跡四谷御門外橋詰・御堀端通・町屋跡	帝都高速度交通開拓団
江戸城外堀跡四谷御門外町屋跡	帝都高速度交通開拓団
江戸城外堀跡市谷御門外橋詰・御堀端	帝都高速度交通開拓団
地下鉄南北線溜池・駒込間遺跡調査の概要	駒込間遺跡調査会
烏山遺跡	都立学校遺跡調査会
富士見台遺跡 都立中野富士高校内埋蔵文化財発掘調査報告書	都立学校遺跡調査会
岡本前耕地	都立学校遺跡調査会
ライコロ右岸遺跡	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部
東京大学文学部考古学研究室研究紀要第14号	東京大学文学部考古学研究室
文化財の保護第28号	東京都教育委員会
学芸研究紀要第12集	東京都教育局生涯学習部文化課
港区文化財調査集録第3集	港区教育委員会
港区立港博士資料館所蔵文書目録	港区教育委員会
日野市宋町遺跡第1分冊(本文編)	東京都住宅局・日野市宋町遺跡調査会
東京都新宿区愛住町遺跡Ⅰ	新宿区愛住町遺跡調査団
志茂遺跡・神谷遺跡	北区教育委員会社会教育課
袋低地遺跡・道合遺跡	北区教育委員会社会教育課
田端西台遺跡Ⅲ・田端不動坂遺跡Ⅲ	北区教育委員会生涯学習推進課
南塙遺跡Ⅱ	北区教育委員会生涯学習推進課
資料目録8	東京都埋蔵文化財センター
多摩ニュータウン遺跡22	東京都埋蔵文化財センター
多摩ニュータウン遺跡23	東京都埋蔵文化財センター
多摩ニュータウン遺跡24	東京都埋蔵文化財センター
多摩ニュータウン遺跡25	東京都埋蔵文化財センター
多摩ニュータウン遺跡26	東京都埋蔵文化財センター
多摩ニュータウン遺跡27	東京都埋蔵文化財センター
多摩ニュータウン遺跡28	東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財センター研究論集XV	東京都埋蔵文化財センター
尾張藩上屋敷遺跡発掘調査報告書I	東京都埋蔵文化財センター
尾張藩上屋敷跡発掘調査報告書IV	東京都埋蔵文化財センター
府中市 No.29遺跡	東京都埋蔵文化財センター
武藏国分寺関連遺跡調査報告書17	府中市教育委員会
武藏国分寺関連遺跡の調査Ⅱ	武藏国分寺関連遺跡調査会

書名	寄贈者等名
井の頭池遺跡群吉祥寺南町1丁目遺跡G地点調査報告 駕籠町遺跡 小石川町遺跡 新瀬訪町遺跡 龍岡町遺跡 伊藤鉄夫・陽夫考古学資料目録II -伊藤鉄夫収集資料編- 落川・一の宮遺跡調査略報IV 物見処遺跡1995	武藏野市教育委員会 文京区遺跡調査会 文京区遺跡調査会 文京区遺跡調査会 文京区遺跡調査会 法政大学 落川・一の宮遺跡（日野3・2・7号線）調査会 國學院大學文学部考古学研究室
神奈川県	
吉岡遺跡群 吉岡遺跡群I 宮ヶ瀬遺跡群6 宮ヶ瀬遺跡群7 宮ヶ瀬遺跡群8 小南遺跡（No.28）東北久保・鳥居松遺跡（No.29） 青野原バイパス間連遺跡 池子遺跡群 長津田遺跡群 長津田遺跡群調査概要II 年報2 平成6年度 年報3 平成7年度 本人こさつ原遺跡 財團法人 横浜市ふるさと歴史財团埋蔵文化財センター 年報6 古梅谷遺跡 神奈川県伊勢原市伊勢原上柏屋町地内遺跡 矢崎山古墳 老馬遺跡 雜色杉本道路発掘調査報告 縄文時代草創期資料集 縄文文化誕生 海老名市史叢書4 仮柵坂周辺詳細分布調査報告書 鎌倉市埋蔵文化財1 鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12 由比ヶ浜中世集団墓地道路発掘調査報告書 神奈川県埋蔵文化財調査報告38 かながわの考古学 神奈川県立埋蔵文化財センター年報14 神奈川県立埋蔵文化財センター年報15 専修考古学 第6号 神奈川指定史跡 馬糞古墳保存整備・活用事業報告書 川崎市東柿生小学校内遺跡発掘調査報告書 川崎市文化財調査集録30 川崎市文化財調査集録31 開発行為等に係る埋蔵文化財の手続き 大和135の物語り1996、大和歴史マップ 大和市No.202道路第1地点1~3次調査・大和市No.159遺跡 川崎市高津区 南谷一遺跡発掘調査報告書	(財)かながわ考古学財団 (財)かながわ考古学財団 (財)かながわ考古学財団 (財)かながわ考古学財団 (財)かながわ考古学財団 (財)かながわ考古学財団 (財)かながわ考古学財団 (財)かながわ考古学財団 (財)かながわ考古学財団 (財)かながわ考古学財団 (財)かながわ考古学財団 (財)かながわ考古学財団 (財)横浜市ふるさと歴史財团 埋蔵文化財センター 伊勢原市上柏屋町地内遺跡調査団 横浜市教育委員会 横浜市教育委員会 横浜市道路局 横浜市歴史博物館 横浜市歴史博物館 海老名市 鎌倉市教育委員会 鎌倉市教育委員会 鎌倉市教育委員会 鎌倉市教育委員会 鎌倉市教育委員会 神奈川県教育委員会 神奈川県立埋蔵文化財センター 神奈川県立埋蔵文化財センター 神奈川県立埋蔵文化財センター 専修大学考古学会 川崎市教育委員会 川崎市教育委員会 川崎市教育委員会 川崎市教育委員会 川崎市教育委員会 大和市教育委員会 大和市教育委員会 南谷一遺跡発掘調査団
新潟県	
新潟県埋蔵文化財調査事業団年報平成7年度 吉田遺跡 横引遺跡・越峰遺跡・柳平遺跡 吉ヶ沢遺跡 A 地点・上ノ平遺跡 B 地点・中峰遺跡 江内遺跡 獅子沢遺跡 上小島遺跡 水久保遺跡・宮平遺跡II 清水上遺跡II 坂上道遺跡・猿額遺跡・中棚遺跡・牧ノ沢遺跡	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 三和村教育委員会 新潟県教育委員会 新潟県教育委員会 新潟県教育委員会 新潟県教育委員会 新潟県教育委員会 新潟県教育委員会 新潟県教育委員会 新潟県教育委員会 新潟県教育委員会 新潟県教育委員会

書名	寄贈者等名
福井県 北陸自動車道関係遺跡調査報告書第13集 鍾坂遺跡 光源寺遺跡 舟場塗跡 曾々木谷田遺跡 大土呂遺跡 長泉寺遺跡 南江守大橋遺跡 年報-10-平成6年度 年報-9-平成5年度 八田新保1号窯跡 尾水見遺跡・下田遺跡・繩境遺跡・犬山遺跡 六条・和田地区遺跡群 一乗谷朝倉氏遺跡資料館紀要 1995 環境整備報告Ⅲ 第9回企画展 海のネットワーク 町並立体復原事業完成記念シンポジウム 特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡1995	福井県教育委員会 福井県教育厅埋蔵文化財調査センター 福井県教育厅埋蔵文化財調査センター 福井県教育厅埋蔵文化財調査センター 福井県教育厅埋蔵文化財調査センター 福井県教育厅埋蔵文化財調査センター 福井県教育厅埋蔵文化財調査センター 福井県教育厅埋蔵文化財調査センター 福井県教育厅埋蔵文化財調査センター 福井県教育厅埋蔵文化財調査センター 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館
山梨県 甲ヶ原遺跡(第5次) I 立石・宮の上遺跡 村前東A遺跡概報3 十五所遺跡II 山梨県指定史跡甲府城跡III 地下からのたりより95 年報12 平成7年度 研究紀要 12 三井氏館跡(北村遺跡)概報 帝京大学山梨文化財研究所研究報告第7集	山梨県教育委員会 山梨県教育委員会 山梨県教育委員会 山梨県教育委員会 山梨県教育委員会・山梨県土木部 山梨県埋蔵文化財センター 山梨県埋蔵文化財センター 山梨県立考古博物館 長坂町教育委員会 帝京大学山梨文化財研究所
長野県 上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 長野県の考古学 長野県屋代遺跡群出土木簡 長野県埋蔵文化財センター紀要4 長野県埋蔵文化財センター年報12 境田遺跡・西田遺跡 四日市遺跡 四日市遺跡II 四日市遺跡III 真田氏館跡 下条道(駒場道) 三才山道 法華道 春日街道 長野県立歴史館研究紀要第2号 柳又遺跡 A 地点第6次発掘調査報告書 柳又遺跡 A 地点第5次発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター (財)長野県埋蔵文化財センター (財)長野県埋蔵文化財センター (財)長野県埋蔵文化財センター (財)長野県埋蔵文化財センター 真田町教育委員会 真田町教育委員会 真田町教育委員会 真田町教育委員会 長野県教育委員会 長野県教育委員会 長野県教育委員会 長野県教育委員会 長野県立歴史館 國学院大學文学部考古学研究室 國學院大學文学部考古学研究室
岐阜県 岡本山横穴墓 牧野小山遺跡発掘調査概報 岐阜県吉城郡宮川村堂ノ前遺跡発掘調査報告書 '96岐阜県新発見考古速報 岡前遺跡 下巾上遺跡 西乙原遺跡・勝更白山神社周辺遺跡	(財)岐阜県文化財保護センター (財)岐阜県文化財保護センター 岐阜県・宮川村教育委員会 岐阜県教育委員会 岐阜県土木部・(財)岐阜県文化財保護センター 建設省中部地方建設局岐阜国道工事事務所 日本道路公团

書名	寄贈者等名
静岡県	
曲金北遺跡（遺構編）	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
小鹿杉本駆合坪遺跡	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
水井遺跡・清水遺跡	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
石成遺跡	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
川合遺跡・八反田地区 II	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
保録ヶ谷遺跡	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
10周年記念論文集	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
遠江国分寺跡の調査	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
岳美遺跡 II（遺物編）	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
曲金北遺跡	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
元島遺跡	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
御殿川流域遺跡群 III	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
瀬名遺跡 I V（自然科学編）	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所年報 X II（平成 7 年度事業概要）	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
川田・藤藏洞遺跡	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
椿野遺跡	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
瀬名遺跡 I （遺構編 I）	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
ひる沢古墳群 II	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
焼津市歴史民俗資料館年報 10	焼津市歴史民俗資料館
焼津市歴史民俗資料館年報 9	焼津市歴史民俗資料館
第12回（平成 8 年度）特別展 玉と鏡—玉の穴から古代の仕事が見える—	焼津市教育委員会
駿河・伊豆の横穴群（静岡県内横穴群分布調査報告書 II）	焼津市教育委員会
静岡の原像をさぐる	焼津市教育委員会
静岡の原像をさぐる	焼津市教育委員会
中尾殿之谷横穴群	浜松市教育委員会
久野城・平成 6・7 年度発掘調査概報—	袋井市教育委員会
金山古墳群・金山横穴群 I・II	袋井市教育委員会
高尾山遺跡 II	袋井市教育委員会
御殿・二之宮遺跡 第 27 次発掘調査報告書	磐田市教育委員会
大宝院庵寺跡 第 7 次発掘調査報告書	磐田市教育委員会
長江崎遺跡発掘調査報告書	磐田市教育委員会
平成 7 年度 遠江国分寺跡周辺 国分寺・国府台遺跡発掘調査報告書	磐田市教育委員会
平成 7 年度 中山古墳群・二ヶ谷遺跡発掘調査報告書	磐田市教育委員会
平成 7 年度 勾坂下原古墳群・勾坂上 5 遺跡発掘調査報告書	磐田市教育委員会
磐田の古墳	磐田市教育委員会文化財課
愛知県	
愛知県埋蔵文化財情報 11 平成 6 年度	(財)愛知県埋蔵文化財センター
鳥帽子遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター
儀長楽寺遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター
広坪遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター
清洲城下町遺跡 VI	(財)愛知県埋蔵文化財センター
大毛沖遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター
鳥羽城跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター
年報 平成 7 年度	(財)愛知県埋蔵文化財センター
北道手遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター
(財)瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第 4 輯	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター
古瀬戸をめぐる中世陶器の世界	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター
古瀬戸をめぐる中世陶器の世界—その生産と流通—	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター
赤重窯跡	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター
東洋戸 A 窯跡	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター
平成 7 年度 瀬戸市埋蔵文化財センター年報	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター
(財)瀬戸市埋蔵文化財センター設立 5 周年記念企画展	南山大学人類学博物館
千葉県市川市根古谷貝塚の土器	豊橋市教育委員会
鎌田遺跡・西新屋遺跡・西新屋古墓群	豊橋市教育委員会
大西貝塚（II）	豊橋市教育委員会
南田遺跡・瓜郷道路（III）	豊橋市教育委員会
百々池 B 古窯・東田遺跡（II）	豊橋市教育委員会

書名	寄贈者等名
神明遺跡	豊田市教育委員会
梅坪遺跡Ⅲ	豊田市教育委員会
味まB道路調査報告書	味まB遺跡調査会
見晴台遺跡第35次発掘調査概要報告書	名古屋市教育委員会
高蔵遺跡第10次調査の概要	名古屋市教育委員会
高蔵遺跡第11次発掘調査の概要	名古屋市教育委員会
正木町遺跡－第5次調査の概要－	名古屋市教育委員会
正木町遺跡第6次発掘調査概要報告書1996	名古屋市教育委員会
西志賀遺跡発掘調査の概要	名古屋市教育委員会
轟下小学校遺跡－第4次発掘調査の概要－	名古屋市教育委員会
平田城跡発掘調査報告書	名古屋市教育委員会
片山神社遺跡第2次発掘調査報告書	名古屋市教育委員会
名古屋城三の丸遺跡第6・7次発掘調査報告書	名古屋市教育委員会
鳴海城跡第2次発掘調査概要報告書	名古屋市教育委員会
鳴海城跡発掘調査概要報告書	名古屋市教育委員会
雷貝塚第2次発掘調査報告書	名古屋市教育委員会
見晴台遺跡第32次・33次発掘調査の記録	名古屋市見晴台考古資料館
特別展「城下町大発掘」	名古屋市見晴台考古資料館
名古屋市見晴台考古資料館年報13	名古屋市見晴台考古資料館
名古屋大学文学部研究論集125	名古屋大学文学部
考古資料ソフテックス写真集第11集	名古屋大学文学部考古学研究室
三重県	
野田遺跡発掘調査報告	緒野町教育委員会
国史跡斎宮跡	斎宮歴史博物館
国史跡斎宮跡	斎宮歴史博物館
史跡斎宮跡	斎宮歴史博物館
史跡斎宮跡	斎宮歴史博物館
史跡斎宮跡 平成7年度発掘調査概報	斎宮歴史博物館
特別展 斎宮・国府・国分寺－伊勢のまつりと古代の役所－	斎宮歴史博物館
三重県南牟婁郡紀和町赤本国史跡赤本城跡発掘調査概要	紀和町教育委員会
一般国道42号松阪・多気バイパス 埋蔵文化財発掘調査概報VI	三重県教育委員会
近畿自動車道(久居~勢和) 埋蔵文化財発掘調査報告第3分冊8	三重県教育委員会
伊賀国府跡	三重県埋蔵文化財センター
井尻遺跡 発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
一般国道23号中勢道路建設事業に伴う大古曾遺跡・山籠遺跡・宮ノ前遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
火山遺跡・山神遺跡・真福寺跡・高寺南遺跡	三重県埋蔵文化財センター
岩出地区内遺跡群発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
居敷遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
研究紀要第4号	三重県埋蔵文化財センター
研究紀要第5号	三重県埋蔵文化財センター
古川遺跡・山口遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
溝端遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
三重県埋蔵文化財年報7－平成7年度－	三重県埋蔵文化財センター
次郎六郎東遺跡	三重県埋蔵文化財センター
朱中遺跡・朱中古墳	三重県埋蔵文化財センター
松坂城三の丸五曲口跡	三重県埋蔵文化財センター
上ノ垣外遺跡	三重県埋蔵文化財センター
石薬師東古墳群・石薬師東遺跡（第4次）	三重県埋蔵文化財センター
曾祢崎遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
相可出張遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
多気遺跡群発掘調査報告II	三重県埋蔵文化財センター
多気遺跡群発掘調査報告III	三重県埋蔵文化財センター
大鼻遺跡	三重県埋蔵文化財センター
長者屋敷遺跡・峯城跡・中富田西浦遺跡第1分冊	三重県埋蔵文化財センター
天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告遺跡	三重県埋蔵文化財センター
奈可切遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
敷伝遺跡（第2次）発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
平成6年度一般国道25号閔IC改良事業に伴う切山瓦窯跡・浦ノ山中世墓発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター

書名	寄贈者等名
平成7年度三重県埋蔵文化財センター年報7 北野遺跡(第5次)発掘調査概報 埋蔵文化財発掘調査概報II 埋蔵文化財発掘調査概報III 明氣塗跡群・大日山古墳群・甘糟遺跡・果瀬遺跡 北垣内遺跡発掘調査報告 日本考古学協会 1996年度三重大会 日本考古学協会1996年度三重大会	三重県埋蔵文化財センター 三重県埋蔵文化財センター 三重県埋蔵文化財センター 三重県埋蔵文化財センター 三重県埋蔵文化財センター 津市教育委員会 日本考古学協会三重県実行委員会 日本考古学協会三重県実行委員会
滋賀県	
栗東町埋蔵文化財発掘調査1993年度年報 栗東町埋蔵文化財発掘調査1994年度年報 栗東町埋蔵文化財発掘調査1995年度年報 「繩文カタログーくらしと道具ー」 紀要第8号 紀要第9号 レトロ・レトロの展覧会1996 橋本左右神社文書目録 滋賀県安土城郭調査研究所年報 1994年度 東家文書目録 特別史跡安土城跡 - 発掘調査の5年 - (板矢)大上養護学校建設に伴う金屋南古墳群発掘調査報告書 そう見寺文書目録II・淨嚴院文書目録 岡遺跡発掘調査報告書 研究紀要第3号 在土北遺跡2 尼子遺跡 小川原遺跡2 長束三坊・中堂遺跡発掘調査報告書 特別史跡安土城跡環境整備事業概要報告書I 特別史跡安土城跡環境整備事業概要報告書II 特別史跡安土城跡発掘調査報告4 尼子南遺跡2 尼子西遺跡1 北落古墳群III・金屋南古墳群 靈仙寺遺跡発掘調査報告書II 雪野山古墳の研究 うみっこ創刊号 第1巻 第1号(通巻1号) 金剛寺遺跡 銅鐸 御上神社の歴史と美術 常設展示図録 大岩山出土銅鐸図録 竜王町内遺跡詳細分布調査	(財)栗東町文化体育振興事業団 (財)栗東町文化体育振興事業団 (財)栗東町文化体育振興事業団 (財)滋賀県文化財保護協会 (財)滋賀県文化財保護協会 (財)滋賀県文化財保護協会 (財)滋賀県文化財保護協会 (財)滋賀県文化財保護協会 滋賀県安土城郭調査研究所 滋賀県安土城郭調査研究所 滋賀県安土城郭調査研究所 滋賀県安土城郭調査研究所 滋賀県安土城郭調査研究所 滋賀県教育委員会 滋賀県教育委員会 滋賀県教育委員会 滋賀県教育委員会 滋賀県教育委員会 滋賀県教育委員会 滋賀県教育委員会 滋賀県教育委員会 滋賀県教育委員会 滋賀県教育委員会 滋賀県教育委員会 滋賀県教育委員会 滋賀県立琵琶湖博物館 長浜市教育委員会 野洲町立歴史民俗資料館(銅鐸博物館) 野洲町立歴史民俗資料館(銅鐸博物館) 野洲町立歴史民俗資料館(銅鐸博物館) 野洲町立歴史民俗資料館(銅鐸博物館) 竜王町教育委員会
京都府	
つちの京都 京都発掘20年 研究紀要第2号 研究紀要第3号 平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要 平成6年度京都市埋蔵文化財調査概要 木村とし三郎収集瓦図録1996年 OUTLINE 京都府遺跡調査概報 第70冊 京都府遺跡調査概報 第71冊 京都府遺跡調査概報 第72冊 京都府遺跡調査概報 第73冊 京都府遺跡調査概報 第68冊 京都府遺跡調査概報 第69冊 京都府埋蔵文化財情報第60号 京都府埋蔵文化財情報第59号 京都府埋蔵文化財情報第61号 京都府埋蔵文化財情報第62号	(財)京都市埋蔵文化財研究所 (財)京都市埋蔵文化財研究所 (財)京都市埋蔵文化財研究所 (財)京都市埋蔵文化財研究所 (財)京都市埋蔵文化財研究所 (財)京都市埋蔵文化財研究所 (財)京都市埋蔵文化財研究所 (財)京都市埋蔵文化財調査研究センター (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

書名	寄贈者等名
池島・福万寺遺跡発掘調査概要Ⅱ	(財)大阪文化財センター
池島・福万寺遺跡発掘調査概要Ⅲ	(財)大阪文化財センター
福田遺跡	(財)大阪文化財センター
枚方市文化財年報16(1994年度分)	(財)枚方市文化財研究調査会
枚方市文化財年報17(1995年度分)	(財)枚方市文化財研究調査会
太子カントリー俱楽部建設に伴う植田遺跡ほか発掘調査報告書	須賀古墳群発掘調査委員会(大阪府・河南町・太子町)
平成7年度発掘調査概報	茨木市教育委員会
野々上I・野々上遺跡発掘調査報告書-	羽曳野市遺跡調査会
古市遺跡群XⅦ	羽曳野市教育委員会
大阪府羽曳野市野々上遺跡	羽曳野市教育委員会
第13回歴史資料室テーマ展示	羽曳野市教育委員会生涯教育部文化財保護課
ジョウマエ遺跡・尾崎北遺跡・菱子尻遺跡・市町東遺跡	河内長野市遺跡調査会
錦町北遺跡	河内長野市遺跡調査会
高向遺跡	河内長野市教育委員会
河内長野市埋蔵文化財調査報告書XⅡ	貝塚市教育委員会
加治・神前・畠中遺跡発掘調査概要	貝塚市教育委員会
貝塚市遺跡群発掘調査概要18	貝塚市教育委員会
貝塚寺内町遺跡	貝塚市教育委員会
東遺跡発掘調査概要I	関西大学工業技術研究所
関西大学考古学等資料室所蔵石器資料の石質調査	岸和田市教育委員会
岸和田城遺跡	岸和田市教育委員会
久米田古墳群発掘調査概要	岸和田市教育委員会
上松宮之遺跡	岸和田市教育委員会
平成7年度 発掘調査概要	岸和田市教育委員会
芥川遺跡発掘調査報告書	高槻市教育委員会
古曾部・芝谷遺跡	高槻市教育委員会
高槻市文化財年報 平成6年度	高槻市教育委員会
鷲上遺跡群20	高槻市教育委員会
若江遺跡第38次発掘調査報告 1993	(財)東大阪市文化財協会
西ノ江遺跡第27次・鬼虎川遺跡第32次発掘調査報告書	(財)東大阪市文化財協会
西ノ江遺跡第30次発掘調査報告 1995	(財)東大阪市文化財協会
西ノ江遺跡第9次発掘調査報告 1996	(財)東大阪市文化財協会
東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告-1993年度-	(財)東大阪市文化財協会
財團法人 八尾市文化財調査研究会報告50	(財)八尾市文化財調査研究会
成法寺遺跡	(財)八尾市文化財調査研究会
中田遺跡	(財)八尾市文化財調査研究会
東郷遺跡 財団法人 八尾市文化財調査研究会報告48	(財)八尾市文化財調査研究会
平成7年度 (財)八尾市文化財調査研究会事業報告	(財)八尾市文化財調査研究会
鏡原古墳・旅宿古墳発掘調査報告	(財)八尾市文化財調査研究会
長曾根遺跡発掘調査概要報告	堺市教育委員会
田出井山古墳・定の山古墳・木下山・渡矢古墳・四ツ池遺跡・毛穴遺跡・百舌鳥陵南遺跡	堺市教育委員会
平成元年度下水道工事に伴う発掘調査概要報告	堺市教育委員会
史跡池上曾根5	史跡池上曾根跡整備委員会
三軒屋・諸目遺跡	泉佐野市教育委員会
上町東遺跡	泉佐野市教育委員会
泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 第18号	泉佐野市教育委員会
泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 第19号	泉佐野市教育委員会
泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 第20号	泉佐野市教育委員会
泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 第21号	泉佐野市教育委員会
泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 第22号	泉佐野市教育委員会
泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 平成6年度	泉佐野市教育委員会
白水池遺跡	泉佐野市教育委員会
仏教の受容と古代国家-日本古代国家の成立を探る・Ⅲ-	泉南市・泉南市教育委員会
市道市場岡田線新設に伴う岡田氏・氏の松除跡発掘調査報告書	泉南市・泉南市教育委員会
泉南市文化財報No.1-昭和57年度~平成5年度-	泉南市・泉南市教育委員会
平成6年度 大阪市下埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	大阪市・大阪市教育委員会
大阪府下埋蔵文化財研究会(第34回)資料	大阪市・大阪市教育委員会
ナガミ山古墳発掘調査報告書	大阪市・大阪市教育委員会

書名	寄贈者等名
一級河川長谷川改修工事に伴うコロモ・上椿遺跡発掘調査概要	大阪府教育委員会
須賀古墳群資料目録 I 土器編 (写真図版編)	大阪府教育委員会
河内平野遺跡群の動態 I	大阪府教育委員会
柿ヶ坪・尾平・西桜持・寛弘寺道路発掘調査概要	大阪府教育委員会
寛弘寺遺跡発掘調査概要・XIV	大阪府教育委員会
寛弘寺遺跡発掘調査概要・XV	大阪府教育委員会
鬼虎川遺跡26次・西ノ辻遺跡18~20次調査概要報告	大阪府教育委員会
吉野遺跡発掘調査概要Ⅲ	大阪府教育委員会
吉野間遺跡発掘調査概要	大阪府教育委員会
金岡神社道路発掘調査概要	大阪府教育委員会
堺環濠都市遺跡発掘調査概要・III	大阪府教育委員会
山内池尻遺跡・烟垣内遺跡発掘調査概要	大阪府教育委員会
志紀遺跡発掘調査概要・IV	大阪府教育委員会
諸目遺跡他発掘調査概要	大阪府教育委員会
上之郷遺跡他発掘調査概要	大阪府教育委員会
新庄遺跡	大阪府教育委員会
新堂庵寺発掘調査概要	大阪府教育委員会
音振遺跡	大阪府教育委員会
正法寺跡発掘調査概要・II	大阪府教育委員会
泉州における遺跡の調査 I 陶邑Ⅳ	大阪府教育委員会
總持寺遺跡発掘調査概要	大阪府教育委員会
大坂城一よみがえる豊臣期一	大阪府教育委員会
大庭寺遺跡 II・伏毛遺跡 I	大阪府教育委員会
大和川今池遺跡発掘調査概要・XII	大阪府教育委員会
大和川今池遺跡発掘調査概要・XIII	大阪府教育委員会
谷川遺跡発掘調査概要・I	大阪府教育委員会
中垣内・弓削・志紀・大平寺遺跡発掘調査概要	大阪府教育委員会
長峯丘陵遺跡発掘調査概要・VIII	大阪府教育委員会
田治米官内遺跡発掘調査概要・II	大阪府教育委員会
東郷・成法寺道路発掘調査概要・VII	大阪府教育委員会
東郷地区遺跡群発掘調査概要・III	大阪府教育委員会
東郷地区遺跡群発掘調査概要・IV	大阪府教育委員会
東奈良Ⅲ・都遺跡発掘調査概要	大阪府教育委員会
陶器南遺跡発掘調査概要	大阪府教育委員会
陶器南遺跡発掘調査概要 II	大阪府教育委員会
陶邑・大庭寺遺跡 IV	大阪府教育委員会
陶邑VI-1	大阪府教育委員会
日根野遺跡発掘調査概要	大阪府教育委員会
日置莊遺跡	大阪府教育委員会
八下道路発掘調査概要	大阪府教育委員会
末廣遺跡・中開遺跡・松原遺跡	大阪府教育委員会
名古山遺跡・名古山古墳発掘調査概要	大阪府教育委員会
木の本遺跡発掘調査概要報告書	大阪府教育委員会
大阪府立近つ飛鳥博物館	大阪府立近つ飛鳥博物館
仁德院古墳-製造の時代-	大阪府立近つ飛鳥博物館
金の大刀と銀の大刀-古墳・飛鳥の貴人と階層-	大阪府立近つ飛鳥博物館
大阪府立近つ飛鳥博物館 館報 1	大阪府立近つ飛鳥博物館
北の列島文化-清野謙次コレクションから-	大阪府立近つ飛鳥博物館
青銅と鉄-文明の誕生-	大阪府立近つ飛鳥博物館
大阪府立弥生文化博物館 平成9年冬季企画展図録 発掘速報展 大阪'97	大阪府立弥生文化博物館
中国・仙人のふるさと-山東省文物展-平成8年秋季特別展 開館5周年記念	大阪府立弥生文化博物館
平成8年春季特別展卓弥呼の動物ランド	大阪府立弥生文化博物館
弥生文化博物館研究報告第4集	大阪府立弥生文化博物館
弥生文化博物館を見た 2000年度	大阪府立弥生文化博物館
池上曾根遺跡史跡指定20周年記念-弥生の環濠都市と巨大神殿-	池上曾根遺跡史跡指定20周年記念事業実行委員会
弥生の環濠都市と巨大神殿-徹底討論池上曾根遺跡-	池上曾根遺跡史跡指定20周年記念事業実行委員会
池上曾根遺跡を掘る-100年の軌跡-みえてきた弥生都市	池上曾根遺跡史跡指定20周年記念事業実行委員会
宮ノ下道路第1次発掘調査報告書 1996	東大阪市教育委員会
西ノ辻遺跡第22次発掘調査報告書	東大阪市教育委員会

書名	寄贈者等名
大里遺跡発掘調査報告書II 能勢町埋蔵文化財調査概要 木野川流域遺跡群発掘調査事業報告書 高井田山古墳 大県の鉄 柏原市遺跡群発掘調査概報1995年度 柏原市埋蔵文化財発掘調査概報1995年度 平野・大県古墳群 農中市埋蔵文化財発掘調査概要 平成7(1995)年度 旧川越村 枚方市社寺建築 水無瀬莊跡遺跡	能勢町教育委員会 能勢町教育委員会 能勢町教育委員会 柏原市教育委員会 柏原市教育委員会 柏原市教育委員会 柏原市教育委員会 柏原市教育委員会 柏原市教育委員会 柏原市教育委員会 柏原市教育委員会 柏原市教育委員会 枚方市教育委員会 枚方市教育委員会 名神高速道路内遺跡調査会
兵庫県 のじぎく文化財保護研究財団 紀要 刊行号 大唐王朝の華一都・長安の女性たち	(財)のじぎく文化財保護研究財団 「大唐王朝の華一都・長安の女性たち」展全国実行委員会
小野市好古館特別公開 淡河中村遺跡 平成4年度 尼崎市埋蔵文化財年報 平成7年度 年報 平成8年度 要覧 おかあさんの考古学 館報 1995 加陽土屋ケ鼻遺跡群 豊岡市森尾大内谷古墳群 立石山古墳群 よとおか発掘情報第1号(1995年度後期) 豊岡市出土文化財管理センター概要 神戸市中央区 離島遺跡-第2次調査- 神戸市北区 古寺山遺跡調査と多聞庵寺址概要 豊中市 服部遺跡-第5次調査-	小野市考古館 淡河文化財協会 尼崎市教育委員会 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 三田市教育委員会 兵庫県立歴史博物館 豊岡市教育委員会 豊岡市教育委員会 豊岡市教育委員会 豊岡市出土文化財管理センター 豊岡市出土文化財管理センター 六甲山麓遺跡調査会 六甲山麓遺跡調査会 六甲山麓遺跡調査会
奈良県 復元される文化財 1996年春季特別展「大和の大王の埴輪」 古代桜井の木製品 研究紀要 第三集 シルクロード学研究「宇宙考古学研究」 正倉院年報第十八号 1993年度秋季特別展 銅劍-保存科学からのアプローチ- 絵でみるかしば歴史年表 香芝市二上山博物館小・中学生用ガイド「原始・古代へいこう!」 紫式部「源氏物語」と恵心僧都源信 人類の起源とサスカイトーチンパンジーの文化・ヒトの文化-第10回特別展 桜井の文化財 桜原町遺跡調査集I 桜原町内遺跡発掘調査概要報告書-1993年度- 桜原町内遺跡発掘調査概要報告書-1994年度- 額田部の歴史と文化 第1回 こおりやま歴史フォーラム 講演資料 額田寺旧境内表採軒瓦調査報告 内山瓦窯 第4次発掘調査概報 豊臣秀長 コンピラ山古墳第4次発掘調査報告書 シンボジウム古代寺院の移建と再建を考える 激動の古代東アジア 考古学における計量分析 考古学における計量分析	(財)元興寺文化財研究所 (財)桜井市文化財協会 (財)桜井市文化財協会 (財)由真大和古代文化研究協会 シルクロード学研究センター 宮内庁正倉院事務所 元興寺 香芝市二上山博物館 香芝市二上山博物館 香芝市二上山博物館 香芝市二上山博物館 香芝市二上山博物館 桜井市 桜原町教育委員会 桜原町教育委員会 桜原町教育委員会 大和郡山市 大和郡山市 大和郡山市教育委員会 大和郡山市教育委員会 大和郡山市教育委員会 帝塚山考古学研究所 帝塚山考古学研究所 帝塚山考古学研究所

書名	寄贈者等名
第8回考古学におけるパーソナルコンピュータ利用の現状	帝塚山考古学研究所
朝鮮の古瓦を考える	帝塚山考古学研究所
渡米系氏族と古代寺院	帝塚山考古学研究所
天理参考館「資料を語る」	天理大学出版部
天理参考館報第9号	天理大学出版部
檜野照武氏旧蔵資料目録1—福島県いわき市出土品—	天理大学出版部
唐招提寺防災施設工事・発掘調査報告書	唐招提寺
奈良県口宇陀地域遺跡分布図	奈良県教育委員会
南郷遺跡群I	奈良県教育委員会
平城京右京一条北辻二坊三坪・四坪	奈良県立櫻原考古学研究所
櫻原考古学研究所紀要考古學論第20冊	奈良県立櫻原考古学研究所
櫻原考古学研究所年報 21	奈良県立櫻原考古学研究所
久安寺モッテン墓地跡	奈良県立櫻原考古学研究所
高家遺跡群I	奈良県立櫻原考古学研究所
只塚廐寺	奈良県立櫻原考古学研究所
奈良県遺跡調査概報 1991年度	奈良県立櫻原考古学研究所
奈良県遺跡調査概報 1993年度	奈良県立櫻原考古学研究所
奈良県遺跡調査概報 1995年度	奈良県立櫻原考古学研究所
奈良県遺跡調査概報1992年度	奈良県立櫻原考古学研究所
弥生の風景平成8年度春季特別展	奈良県立櫻原考古学研究所
山田寺出土建築部材集成	奈良県立櫻原考古学研究所附属博物館
奈良国立文化財研究所年報 1995	奈良国立文化財研究所
飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報12	奈良国立文化財研究所
平城宮雀門の復元の研究	奈良国立文化財研究所
平城宮発掘調査出土木簡概報31	奈良国立文化財研究所
斎明紀	奈良国立文化財研究所
山田寺	奈良国立文化財研究所飛鳥資料館
飛鳥・藤原宮発掘調査概報 26	奈良国立文化財研究所飛鳥資料館
ふりかえれば20年	奈良国立文化財研究所飛鳥資料館
官官工房研究会会報 2・3	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター
埋藏文化財ニュース	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター
奈良市埋藏文化財調査センター紀要1995	奈良市教育委員会
平城京東市跡推定地の調査XIV	奈良市教育委員会
平成7年度奈良市埋藏文化財調査概要報告書	奈良市教育委員会
文化財學報第十四集	奈良大学文学部文化財学科
平城京左京四条三坊十一坪発掘調査報告書	平城京左京四条三坊十一坪発掘調査会
布留遺跡布留(西小路)地区古墳時代の遺構と遺物 1976・9~1977・3	埋藏文化財天理教調査会
鳥取県	
除田遺跡群	(財)鳥取県教育文化財団
宮内第1遺跡・宮内第4遺跡・宮内第5遺跡・宮内2,63,64,65号墳	(財)鳥取県教育文化財団
桂見遺跡一八ツ割地区・堤谷東地区・堤谷西地区	(財)鳥取県教育文化財団
小町第1遺跡	(財)鳥取県教育文化財団
西桂見遺跡・鶴谷口地区・鶴谷奥地区・堤谷地区一倉見古墳群	(財)鳥取県教育文化財団
鶴田荒神ノ峯遺跡・鶴田堤ヶ谷遺跡・字代横平遺跡・字代寺中遺跡	(財)鳥取県教育文化財団
米子城跡6遺跡	(財)鳥取県教育文化財団
陰田広畠遺跡	(財)米子市教育文化事業団
萱原・奥除田 I	(財)米子市教育文化事業団
吉谷トコ遺跡	(財)米子市教育文化事業団
錦町第1遺跡	(財)米子市教育文化事業団
新山山田遺跡・陰田広畠遺跡調査概報	(財)米子市教育文化事業団
新山山田遺跡(6区)	(財)米子市教育文化事業団
米子城跡4	(財)米子市教育文化事業団
米子城跡5	(財)米子市教育文化事業団
米子城跡7遺跡	(財)米子市教育文化事業団
米子城跡8遺跡	(財)米子市教育文化事業団
米子城跡III	(財)米子市教育文化事業団
日久美遺跡IV	(財)米子市教育文化事業団
橋津の藩倉	羽合町教育委員会

書名	寄贈者等名
長瀬高浜遺跡緊急発掘調査報告書 松河原小倉山遺跡・小倉山第2たたら 大鳥居仙鶴塚遺跡 町内遺跡（鹿野城跡） 中山町内遺跡発掘調査報告書 中山町内遺跡発掘調査報告書 曲道跡発掘調査報告書1 町内遺跡発掘調査報告書第5集(菅峯長谷遺跡、丸山遺跡、北尾23号墳)第5集 大塚屋敷遺跡・大塚第2遺跡・大塚第3遺跡発掘調査報告書 名和町内遺跡分布調査報告書	羽合町教育委員会 関金町教育委員会 関金町教育委員会 鹿野町教育委員会 中山町教育委員会 中山町教育委員会 北条町教育委員会 北条町教育委員会 名和町教育委員会 名和町教育委員会
島根県 タイムトリップひがしいずも 古代出雲文化展 神々の国悠久の遺産 いにしえの島根ガイドブック かんどの流れ 塙津山1号墳が語る古代の出雲 御崎山古墳の研究 島根県教育庁文化財課 埋蔵文化財調査センター年報IV 門遺跡 しまねの古代文化第三号 古代文化研究第4号 出雲國風土記論究 下巻 「だれが埋めたのか」 「なぜ埋められたのか」 「荒神谷遺跡と邪馬台国」 「荒神谷遺跡と神話」 「荒神谷遺跡見の意義大むかしの人々と荒神谷遺跡」 「銅劍358本はどこで作られたのか」 荒神谷遺跡と環日本海（東海） '96特別展 黄金に魅せられた倭人たち 島根大学構内遺跡発掘調査概報II（諸田地区1）	建設省松江国道工事事務所 古代出雲文化展実行委員会 島根県教育委員会 島根県教育委員会 島根県教育委員会 島根県教育委員会 島根県教育委員会 島根県教育委員会 島根県教育委員会 島根県古代文化センター 島根県古代文化センター 島根県古代文化センター 簸川郡斐川町 簸川郡斐川町 簸川郡斐川町 簸川郡斐川町 簸川郡斐川町 簸川郡斐川町 簸川郡斐川町 簸川郡斐川町 簸川郡斐川町 簸川郡斐川町 簸川郡斐川町 簸川郡斐川町 簸川郡斐川町 簸川郡斐川町 簸川郡斐川町 簸川郡斐川町 島根県立八雲立つ風土記の丘 島根大学埋蔵文化財調査研究センター
岡山県 岡山県埋蔵文化財報告26 宮地遺跡・大木遺跡・大木古墳群・粂田山城跡・大村遺跡 斎富遺跡 西大沢古墳群・畠ノ平古墳群・黒土中世墓・虫尾遺跡・茂平古墓 ・茂平城 中池ノ内遺跡 津寺遺跡3 田益新田遺跡・青谷5号墳 南溝手遺跡2 百間川豪基遺跡2・百間川今谷遺跡2 恩原2号跡 岡山大学構内遺跡調査研究年報13 1995年度 自然科学研究所研究報告第21号 百間川原尾島遺跡5 絵図遺跡・南方遺跡 田益新田遺跡・西山古墳群 南方前池遺跡 倉敷埋蔵文化財センター年報2-1994年度- 茂浦古墳群 総社市埋蔵文化財調査年報6（平成7年度）	岡山県教育委員会 岡山県教育委員会 岡山県教育委員会 岡山県教育委員会 岡山県教育委員会 岡山県教育委員会 岡山県教育委員会 岡山県教育委員会 岡山県教育委員会 岡山県教育委員会 岡山県教育委員会 岡山県教育委員会 岡山県教育委員会 岡山県教育委員会 岡山県教育委員会 岡山県教育委員会 岡山大学文学部考古学研究室 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 岡山理科大学自然科学研究所 建設省岡山河川工事事務所 建設省岡山国道工事事務所 建設省岡山国道工事事務所 山陽町教育委員会 倉敷埋蔵文化財センター 倉敷埋蔵文化財センター 総社市教育委員会
広島県 下上戸遺跡 熊ヶ迫第1～3号窯跡 研究報告VI 城山	(財)広島県埋蔵文化財調査センター (財)広島県埋蔵文化財調査センター (財)広島県埋蔵文化財調査センター (財)広島県埋蔵文化財調査センター

書名	寄贈者等名
神崎遺跡発掘調査報告書 年報11 平成6年度 本地丸山遺跡発掘調査報告書 萬葉城跡 串山城遺跡発掘調査報告1995.3 広島城開削遺跡発掘調査報告1995.3 黒谷遺跡発掘調査1995.3 広島県蒲刈町防護行40周年記念 1996古代の塙作りシンポジウム 広島県中世城館遺跡調査報告書第四集 史跡吉川氏城館跡 吉川元春館跡 今吉田若林遺跡発掘調査報告書 門田下古墓 安芸国楽音寺－樂音寺縁起巻と樂音寺文書の全貌 安芸国沼田莊沼田市の調査 広島県立歴史博物館第二回新収蔵資料展 中世の港町－海の道から中世をみる I・春の企画展 古代の炎と器－えきひんひろしまー ¹ 広島大学文学部帝釈峠遺跡群発掘調査室年報Ⅹ 広島大学文学部帝釈峠遺跡群発掘調査室年報X 埋蔵文化財調査報告書 青追遺跡 山手1号 4号古墓 西東子遺跡発掘調査報告書 今田遺跡発掘調査報告書 広島県神石郡神石町 辰の口古墳発掘調査概報 神辺町埋蔵文化財調査報告X VI 鬼橋野路古墳発掘調査報告書 鶴亀山古墳群 第1・2号古墳発掘調査報告書 府中市内遺跡1 府中市内遺跡2 道隆寺下遺跡発掘調査報告(1995年度) <p>山口県 下関市立考古博物館常設展示図録 下関市立考古博物館年報1－平成7年度－ 吉政遺跡 且ヶ原遺跡 東禅寺、黒山遺跡I 平原遺跡 山口市内遺跡詳細分布調査(宮野地区) 初瀬遺跡 山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅲ 柳瀬遺跡、奇兵隊陣屋跡 本郷遺跡 土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書</p> <p>徳島県 四国女子大学所蔵 凌霄文庫目録 四国大学蔵 凌霄文庫目録 凌霄 第1号 凌霄 第2号 平成8年度 第2回企画展示 ふるさと松茂のお正月 歴史の里 第3号(平成7年4月～平成8年3月) 徳島県立博物館研究報告第5号 徳島県立博物館研究報告第6号 徳島県立博物館年報 第5号(平成7年度) 徳島市史 第二卷 行政編 財政編 阿波文庫 徳島市史 第三卷 産業経済編 交通通信編 徳島市史 第四卷 教育編 文化編 徳島市埋蔵文化財発掘調査概要6 「幕末 明治を生き抜いた絵師 守住貴魚」</p>	(財)広島県埋蔵文化財調査センター (財)広島県埋蔵文化財調査センター (財)広島県埋蔵文化財調査センター (財)広島市歴史科学教育事業団 (財)広島市歴史科学教育事業団 (財)広島市歴史科学教育事業団 蒲刈町 蒲刈町教育委員会 広島県教育委員会 広島県教育委員会 豊平町教育委員会 庄原市教育委員会 広島県立歴史博物館 広島県立歴史博物館 広島県立歴史博物館 広島県立歴史博物館 広島県立歴史博物館 広島県立歴史博物館 広島県立歴史博物館 広島大学文学部帝釈峠遺跡群発掘調査室 広島大学文学部帝釈峠遺跡群発掘調査室 甲田町教育委員会 (財)吉田町地域振興事業団 (財)東広島市教育文化振興事業団文化財センター (財)東広島市教育文化振興事業団文化財センター 神石町教育委員会 神辺町教育委員会 東城町教育委員会 東城町教育委員会 府中市教育委員会 府中市教育委員会 府中町教育委員会 <p>下関市立考古博物館 下関市立考古博物館 (財)山口県教育財團 (財)山口県教育財團 (財)山口県教育財團 山口市教育委員会 山口市教育委員会 山口大学 日本道路公团山口工事事務所 日本道路公团山口工事事務所 豊北町教育委員会</p> <p>四国女子大学附属図書館 四国大学 四国大学 四国大学 松茂町歴史民俗資料館 松茂町歴史民俗資料館 徳島県立博物館 徳島県立博物館 徳島県立博物館 徳島市 徳島市教育委員会 徳島市教育委員会 徳島市教育委員会 徳島市教育委員会 徳島市立徳島城博物館</p>

書名	寄贈者等名
近世御用蔵船の系譜	徳島市立徳島城博物館
徳島市立徳島城博物館年報第3号(平成6年度)	徳島市立徳島城博物館
徳島市立徳島城博物館年報第4号(平成7年度)	徳島市立徳島城博物館
徳島文理大学研究紀要第50号	徳島文理大学研究紀要編集委員会
徳島文理大学研究紀要第51号	徳島文理大学研究紀要編集委員会
香川県	
シンボジウム吉野川再考V－水上運送－	吉野川文化研究会
井手東I遺跡	高松市教育委員会
井手東II遺跡	高松市教育委員会
空港跡地遺跡(亀の町地区I)	高松市教育委員会
空港跡地遺跡(亀の町地区II)	高松市教育委員会
弘福寺領讃岐国山田郡田岡関係遺跡発掘調査概報	高松市教育委員会
松林遺跡	高松市歴史資料館
高松市歴史資料館年報 平成7年度No.3	高松市歴史資料館
高松埋蔵文化財展	高松市歴史資料館
名刀展－鉄の匠－	香川県教育委員会
香川県歴史博物館(仮称)建設概要	香川県教育委員会
空港跡地遺跡発掘調査概報	香川県教育委員会
県道関係埋蔵文化財発掘調査概報 平成7年度	香川県教育委員会
弘田川西岸遺跡	香川県教育委員会
高松城跡	香川県教育委員会
高松城跡(西の丸町)	香川県教育委員会
国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成7年度	香川県教育委員会
鹿伏 中所遺跡	香川県教育委員会
池戸郵便局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報	香川県教育委員会
平池南遺跡	香川県教育委員会
越前奥下池南遺跡	香川県教育委員会 (財)香川県埋蔵文化財調査センター
川西北 七条II遺跡、川西北 鋼冶屋遺跡	香川県教育委員会 (財)香川県埋蔵文化財調査センター
川津下桶遺跡	香川県教育委員会 (財)香川県埋蔵文化財調査センター
飯野 東二瓦窯	香川県教育委員会 (財)香川県埋蔵文化財調査センター
龍川五条遺跡 I	香川県教育委員会 (財)香川県埋蔵文化財調査センター
空港跡地遺跡	(財)香川県埋蔵文化財調査センター
空港跡地遺跡(J地区)	(財)香川県埋蔵文化財調査センター
財団法人香川県埋蔵文化調査センター研究紀要IV	(財)香川県埋蔵文化財調査センター
坂出市内遺跡発掘調査報告書	坂出市教育委員会
四国地区博物館を見る 平成7年度版	四国地区博物館協議会
瀬戸内海歴史民俗資料館紀要第9号	瀬戸内海歴史民俗資料館
香色山山頂遺跡群調査報告書	善通寺市教育委員会文化振興室
愛媛県	
四国観賞自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書XII	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
余大谷遺跡	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
若草町遺跡II	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
一般国道11号重信道路埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
一般国道196号松山環状線埋蔵文化財発掘調査報告書III	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
愛媛県歴史文化博物館 研究紀要 第1号	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
江口貝塚III－第4回調査報告－	愛媛県歴史文化博物館
(財)松山市生涯学習振興財团設立5周年記念	愛媛大学法文学部考古学研究室
松山市埋蔵文化財調査年報Ⅲ 平成7年度	松山市教育委員会
松山大学構内遺跡II	松山市教育委員会
東本遺跡4次調査 枝松遺跡4次調査	松山市教育委員会
福音寺地区の遺跡	松山市教育委員会
来住庵寺－第19次調査－	松山市教育委員会
萩ノ岡貝塚	上浦町教育委員会
妙見山古墳群1号墳整備概報1995～1996	大西町教育委員会

書名	寄贈者等名
高知県 後川 中筋埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ 高知の近代と風建築 高知県立歴史民俗資料館 研究紀要 第5号 高知県立歴史民俗資料館年報 平成7年度 No.5 土佐を掘る'94 '95	高知県教育委員会 高知県教育委員会 高知県立歴史民俗資料館 高知県立歴史民俗資料館 高知県立歴史民俗資料館
福岡県 園田遺跡 八反田遺跡 貫川遺跡II 祇園町遺跡3 金山遺跡VI区 上曾根遺跡 中綱手遺跡(1区～3区) 中綱手遺跡4区 長ムタ遺跡 長野 早田遺跡(第2地点) 龜力土地区画整理事業関係調査報告8 龜力土地区画整理事業関係調査報告9 片伊田遺跡II区 脇田 丸山遺跡1 芦屋塗の図録 旧芦屋小学校跡遺跡 筑前金屋遺跡 尾崎 天神遺跡III 豊前坊古墳群 経塚 屋水西原遺跡 下浦宮原遺跡I 甘木市の文化財 甘木市内遺跡群 栗山遺跡III 平塚垣添遺跡 三奈木大佛山遺跡II 水上に浮かぶムラのはなし 福岡県指定有形文化財 石田家住宅保存修理工事報告書 平塚 中寒水二又川遺跡 平塚山の上遺跡I 矢野竹遺跡 三奈木大佛山遺跡 九州歴史資料館研究論集21 九州歴史資料館年報 平成7年度 太宰府史跡 肥後 人吉 順成寺 王塚古墳 研究紀要第10号 埋蔵文化財調査室年報12 平成6年度 中原遺跡 一ノ口遺跡 I 地点 刈又地区遺跡群 I 三国地区遺跡群(9304 三沢宮ノ前遺跡、9305 三沢中棚田遺跡) 三国地区遺跡群(9402 三沢上棚田遺跡) 三国地区遺跡群(西島遺跡1、2区)(9206) 三国地区遺跡群(西島遺跡1、2区)(9206) 小郡正尻遺跡3 (9310) 小郡大保遺跡 大保西小路遺跡(9411) 福島山の上遺跡2 (9208) 小郡正尻遺跡2 (9205) 照日遺跡群 乙種木山城戸遺跡 宮尾遺跡 A 地点 鯨口遺跡 太宰府 佐野地区遺跡群VI 雑川遺跡第1次調査 太宰府条坊跡I X 下高橋上野遺跡II	(財)北九州市教育事業團埋蔵文化財調査室 (財)北九州市教育文化事業團埋蔵文化財調査室 (財)北九州市教育文化事業團埋蔵文化財調査室 (財)北九州市教育文化事業團埋蔵文化財調査室 (財)北九州市教育文化事業團埋蔵文化財調査室 (財)北九州市教育文化事業團埋蔵文化財調査室 (財)北九州市教育文化事業團埋蔵文化財調査室 (財)北九州市教育文化事業團埋蔵文化財調査室 (財)北九州市教育文化事業團埋蔵文化財調査室 (財)北九州市教育文化事業團埋蔵文化財調査室 (財)北九州市教育文化事業團埋蔵文化財調査室 (財)北九州市教育文化事業團埋蔵文化財調査室 (財)北九州市教育文化事業團埋蔵文化財調査室 (財)北九州市教育文化事業團埋蔵文化財調査室 (財)北九州市教育文化事業團埋蔵文化財調査室 (財)北九州市教育文化事業團埋蔵文化財調査室 芦屋町 芦屋町教育委員会 芦屋町教育委員会 遠賀町教育委員会 遠賀町教育委員会 甘木市教育委員会 甘木市教育委員会 甘木市教育委員会 甘木市教育委員会 甘木市教育委員会 甘木市教育委員会 甘木市教育委員会 甘木市教育委員会 甘木市教育委員会 甘木市教育委員会 甘木市教育委員会 甘木市教育委員会 甘木市教育委員会 甘木市教育委員会 甘木市教育委員会 甘木市教育委員会 桂川町教育委員会 (財)北九州市教育文化事業團埋蔵文化財調査室 (財)北九州市教育文化事業團埋蔵文化財調査室 三瀧町教育委員会 小郡市教育委員会 小郡市教育委員会 小郡市教育委員会 小郡市教育委員会 小郡市教育委員会 小郡市教育委員会 小郡市教育委員会 小郡市教育委員会 新吉富村教育委員会 須恵町教育委員会 水巻町教育委員会 水巻町教育委員会 太宰府市教育委員会 太宰府市教育委員会 大刀洗町教育委員会

書名	寄贈者等名
甲朱社遺跡	大刀洗町教育委員会
大刀洗町遺跡分布図	大刀洗町教育委員会
本郷橋遺跡	大刀洗町教育委員会
五郎山古墳－第1次発掘中間報告－	筑紫野市教育委員会
大庭字土ノ上遺跡	朝倉町教育委員会
小原谷II	椎田町教育委員会
二十谷遺跡第2地点 小覚原遺跡第2地点	杷木町教育委員会
徳坂天神原遺跡	杷木町教育委員会
徳坂天神原遺跡	杷木町教育委員会
阿恵天神森遺跡	柏原町教育委員会
蒲ノ田 A・B 遺跡	福岡県教育委員会
外之隈遺跡II	福岡県教育委員会
久富斗代遺跡	福岡県教育委員会
居屋敷遺跡	福岡県教育委員会
金居塚遺跡I	福岡県教育委員会
九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告	福岡県教育委員会
九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告	福岡県教育委員会
上唐原遺跡	福岡県教育委員会
新延貝塚	福岡県教育委員会
池ノ口遺跡	福岡県教育委員会
中村石丸遺跡	福岡県教育委員会
中道遺跡 石成久保遺跡 大還端遺跡	福岡県教育委員会
朝倉郡杷木町所在大谷遺跡 甘木市所在柿原遺跡群IV	福岡県教育委員会
町口遺跡 西森田遺跡	福岡県教育委員会
徳水川ノ上遺跡	福岡県教育委員会
龍頭遺跡	福岡市教育委員会
カルメル修道院内遺跡III	福岡市教育委員会
井尻B遺跡4 南八幡遺跡4	福岡市教育委員会
井相田C遺跡第5次 高畠遺跡第14次	福岡市教育委員会
下月隈天神森遺跡II	福岡市教育委員会
下月隈天神森遺跡III	福岡市教育委員会
兜塚古墳	福岡市教育委員会
蒲田部木原3次	福岡市教育委員会
吉塚2	福岡市教育委員会
吉武遺跡群	福岡市教育委員会
原遺跡	福岡市教育委員会
鴻臚館跡4	福岡市教育委員会
鴻臚館跡6	福岡市教育委員会
鴻臚館跡7	福岡市教育委員会
今宿五郎江遺跡III 徳水A遺跡III 九隈山遺跡群I	福岡市教育委員会
三苦水浦遺跡2	福岡市教育委員会
三苦水浦遺跡	福岡市教育委員会
四箇周辺遺跡調査報告書(7)	福岡市教育委員会
持田ヶ浦古墳群2	福岡市教育委員会
次郎丸遺跡I	福岡市教育委員会
西新町遺跡4	福岡市教育委員会
西新町遺跡5	福岡市教育委員会
赤坂門跡	福岡市教育委員会
大原D遺跡群1	福岡市教育委員会
長峰遺跡2	福岡市教育委員会
東那珂河遺跡2	福岡市教育委員会
那珂16	福岡市教育委員会
那珂遺跡15	福岡市教育委員会
入部VI	福岡市教育委員会
博多49	福岡市教育委員会
博多50	福岡市教育委員会
博多51	福岡市教育委員会
博多52	福岡市教育委員会
博多53	福岡市教育委員会
箱崎遺跡4	福岡市教育委員会
比恵遺跡13	福岡市教育委員会

書名	寄贈者等名
比恵遺跡群(19)	福岡市教育委員会
比恵遺跡群(20)	福岡市教育委員会
比恵遺跡群(22)	福岡市教育委員会
比東遺跡群21	福岡市教育委員会
福岡外環状道路関係埋蔵文化財調査報告-1-	福岡市教育委員会
堀之内遺跡1	福岡市教育委員会
姪浜遺跡2	福岡市教育委員会
有田 小田部	福岡市教育委員会
立花寺3	福岡市教育委員会
立花寺4	福岡市教育委員会
对外交流史II 繩文時代展-自然とともに生きた人々	福岡市博物館
福岡市博物館研究紀要 第6号	福岡市博物館
福岡市博物館年報	福岡市博物館
平成5(1993)年度収集 収藏品目録11	福岡市埋蔵文化財センター
福岡市埋蔵文化財センター年報第15号	福岡市埋蔵文化財センター
福岡市埋蔵文化財センター年報第14号	方城町教育委員会
法華屋敷遺跡 伊方小学校遺跡	北九州市教育委員会
祇園町遺跡第2地点	北九州市教育委員会
小倉城跡II	北九州市建設局
相坂横穴群	北九州市立考古博物館
折尾横穴群内 普済院跡	北野町教育委員会
第14回特別展【繩文と弥生の神と祈り】	北野町教育委員会
今寺遺跡	北野町教育委員会
赤司一区公民館遺跡	北野町教育委員会
良精遺跡I	北野町教育委員会
佐賀県	
ふるさとの石仏たち	牛津町教育委員会
柿浦瀬遺跡II	牛津町教育委員会
肥前國 佐嘉郡一 佐賀県地籍図集成(四)	佐賀県教育委員会
佐賀城跡	佐賀県教育委員会
東名遺跡-繩文時代早期遺跡の調査概要-	佐賀県教育委員会
雲透遺跡(I)	唐津市教育委員会
菫畠内田遺跡	唐津市教育委員会
枝去木山中遺跡(II)	唐津市教育委員会
竹木場前田遺跡(2)	唐津市教育委員会
唐ノ川高峰遺跡(3)	唐津市教育委員会
唐津市内遺跡確認調査(11)	唐津市教育委員会
唐津城跡(4)	唐津市教育委員会
德藏谷遺跡(3)	唐津市教育委員会
梨川内村前遺跡(2)	唐津市教育委員会
長崎県	
鷹島海底遺跡III	鷹島町教育委員会
伊木方遺跡I	長崎県教育委員会
タイムスリップたんけん隊	長崎県教育委員会
県内重要遺跡範囲確認調査報告書4	長崎県教育委員会
原始 古代の長崎県 資料編I	長崎県教育委員会
黒丸遺跡I	長崎県教育委員会
中木場遺跡II	長崎県教育委員会
中木場遺跡III	長崎県教育委員会
新地唐人荷藏跡	長崎市埋蔵文化財調査協議会
万才町遺跡	長崎市埋蔵文化財調査協議会
熊本県	
つつじヶ丘横穴群 発掘調査概報II	熊本市教育委員会
高畠赤立遺跡第三次発掘調査	熊本大学文学部考古学研究室
用見崎遺跡	熊本大学文学部考古学研究室

書名	寄贈者等名
熊本大学埋蔵文化財調査室年報2-1995年度-	熊本大学埋蔵文化財調査室
大分県	
下津尾遺跡	大鶴町教育委員会
香々地の遺跡II	香々地町教育委員会
横手遺跡群発掘調査報告書	大分県教育委員会
岩崎横穴墓	大分県教育委員会
机張原遺跡 女狐近世墓地 庄ノ原遺跡群	大分県教育委員会
大分県内遺跡発掘調査概報4	大分県教育委員会
大分県埋蔵文化財年報4 平成6(1994)年度版	大分県教育委員会
德瀬遺跡	大分県教育委員会
府内城三ノ丸北口跡	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
豊後国香々地莊3	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
六郷山寺院遺構確認調査報告書II	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
六郷山寺院遺構確認調査報告書III	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
六郷山寺院遺構確認調査報告書IV	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
宮崎県	
下大五郎遺跡 B地区	宮崎県教育委員会
祇園原地区遺跡	宮崎県教育委員会
宮崎県文化財調査報告書第39集	宮崎県教育委員会
高岡麓遺跡	宮崎県教育委員会
国衙 郡衙 古寺跡等範囲確認調査報告書V	宮崎県教育委員会
山ノ田第1遺跡	宮崎県教育委員会
上の原第1 第4 遺跡白ヶ野第3 遺跡	宮崎県教育委員会
特別史跡西都原古墳群発掘調査 保存整備概要報告書	宮崎県教育委員会
情原遺跡	宮崎県教育委員会
平成7年度農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書	宮崎県教育委員会
門川南町遺跡	宮崎県教育委員会
三股町遺跡詳細分布調査報告書	三股町教育委員会
西郷村遺跡詳細分布調査報告書	西郷村教育委員会
市内遺跡発掘調査概要報告書施ノ上遺跡 万多城遺跡	串間市教育委員会
鹿児島県	
猪ノ丸遺跡	要野町教育委員会
鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報IX X	鹿児島大学埋蔵文化財調査室
釘田第一地点(鹿児島大学教養部)遺跡発掘調査報告一住居址出土遺物の概要一	鹿児島大学埋蔵文化財調査室
沖縄県	
在米国沖縄関連文化財調査報告書	沖縄県教育委員会

徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol. 8

—平成8年(1996)度—

平成9年6月30日

編集 発行 財団法人 徳島県埋蔵文化財センター
〒779-0108 徳島県板野郡板野町大伏字平山86番2
TEL (0886) 72-4545 FAX (0886) 72-4550

印 刷 徳島県教育印刷㈱
〒770-0873 徳島市東沖洲2丁目1-13
TEL (0886) 64-6776